
住民意識調査 アンケート結果報告書

令和7年4月
長生村

内容

1.	調査の目的.....	1
2.	調査の方法.....	1
3.	回収結果.....	1
4.	設問項目.....	1
5.	結果.....	2
6.	調査票.....	102

1. 調査の目的

村の総合計画策定にあたり、村民の意識・意向やニーズを把握し、今後のまちづくりの基礎資料とするために実施した。

2. 調査の方法

- ① 調査対象 18歳以上の村内に居住する住民（令和6年4月1日時点）
- ② 標本数 1000人
- ③ 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- ④ 調査方法 郵送配布・回収及びインターネット上での回答も可能にした
（個人を特定できない方式で個別IDを紐づけし、郵送回答との重複の可能性を排除）
- ⑤ 調査期間 令和7年2月～3月

3. 回収結果

- ① 有効回収数 438票
- ② 有効回収率 43.8%

4. 設問項目

- ・属性（性別／年代／住居地区／家族構成／世帯人数／子どもの人数・就学状況／職業／通勤・通学先／日常的な買物場所／日常利用の交通手段／自治会への加入状況／自治会への非加入理由）
- ・長生村での居住年数
- ・長生村での居留意向
- ・長生村外への転出予定の有無及びその理由
- ・長生村での住みやすさおよびその理由
- ・地域における幸福度・満足度
- ・村の行政サービス（保健・医療・福祉に係る）の取組の満足度
- ・村の行政サービス（教育・文化に係る）の取組の満足度
- ・村の行政サービス（生活環境に係る）の取組の満足度
- ・村の行政サービス（産業・雇用に係る）の取組の満足度
- ・村の行政サービス（行政・村民参加に係る）の取組の満足度
- ・年齢を重ねても、住みなれた地域で暮らしていくために、重要な施策
- ・今後、力を入れて欲しい施策
- ・村から発信される行政情報やイベント情報、サービスなどの情報の取得方法
- ・住民の地域活動への参加に対する考え
- ・参加したい村のまちづくりやボランティア活動
- ・今後、デジタル技術を活用しながら活力ある長生村を目指していく上で、特に期待する分野
- ・こども園、小学校の統廃合への意見及び学校までの交通手段がある場合の統廃合への意見
- ・公共交通での困りごと
- ・今後、重要だと思う公共交通に関する施策
など

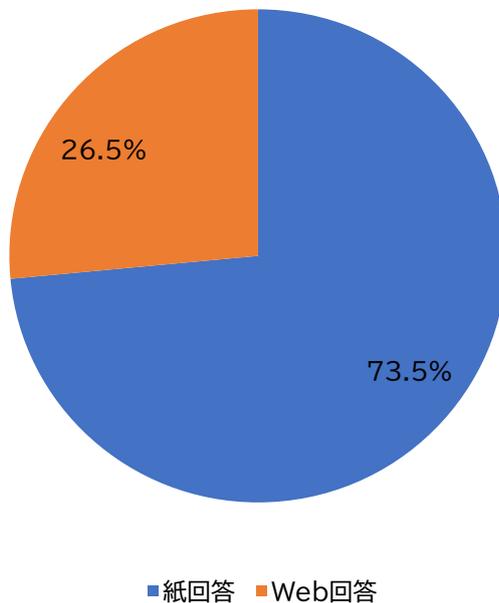
5. 結果

(1) 回答者基本属性

Q00. 回答形式

「紙回答」が73.5%で、「Web回答」が26.5%となっている。

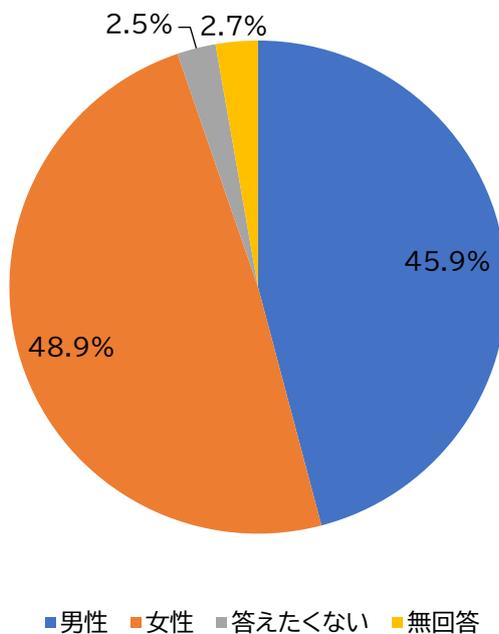
n = 438



Q33. あなたの性別を教えてください。(単一選択)

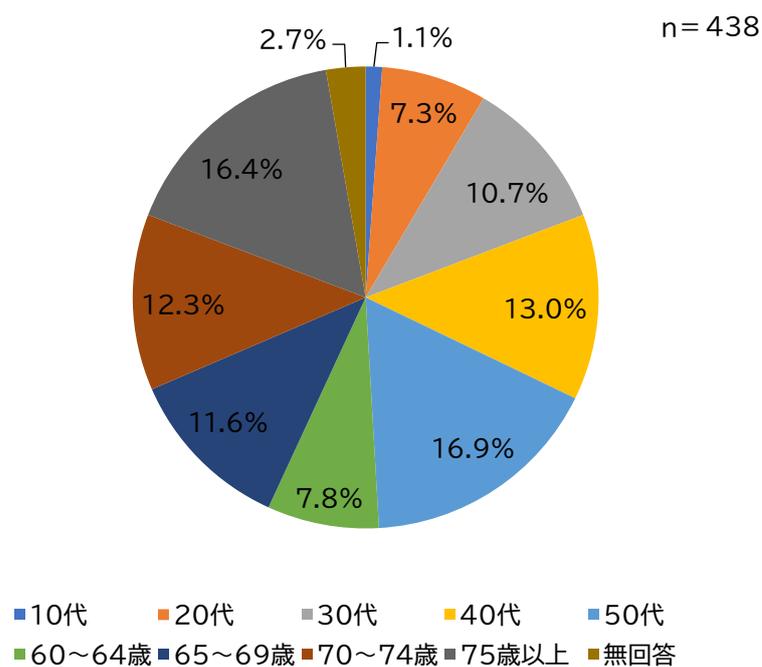
「男性」が45.9%で、「女性」が48.9%、「答えたくない」が2.5%となっている。

n = 438



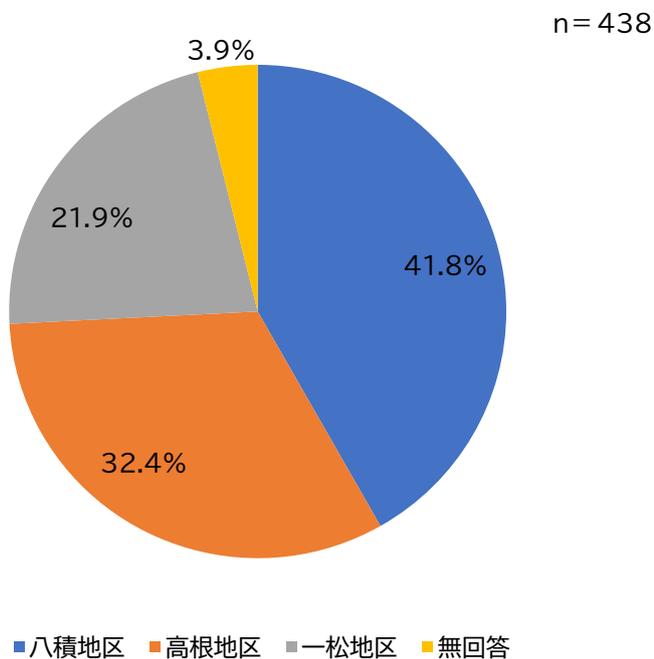
Q34. あなたの年齢を教えてください。(単一選択)

「50代」が16.9%で、「75歳以上」が16.4%、「40代」が13.0%となっている。



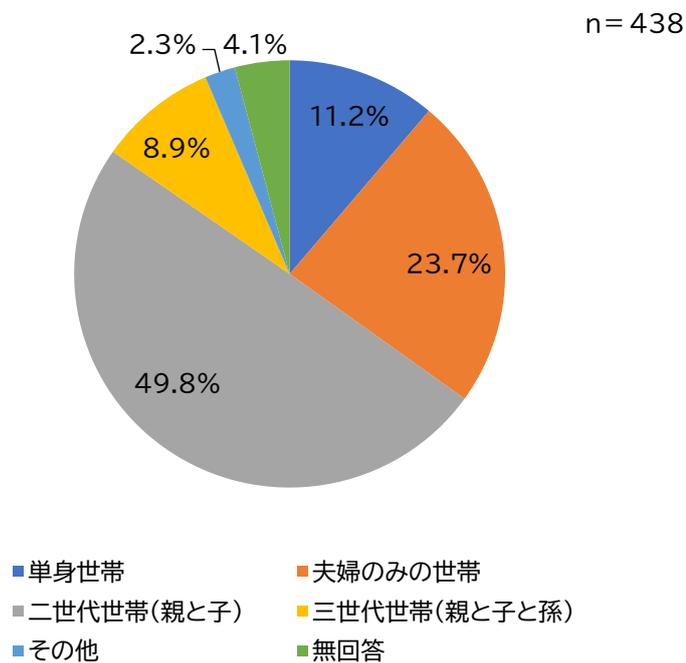
Q35. あなたの居住地区を教えてください。(単一選択)

「八積地区」が41.8%で、「高根地区」が32.4%、「一松地区」が21.9%となっている。



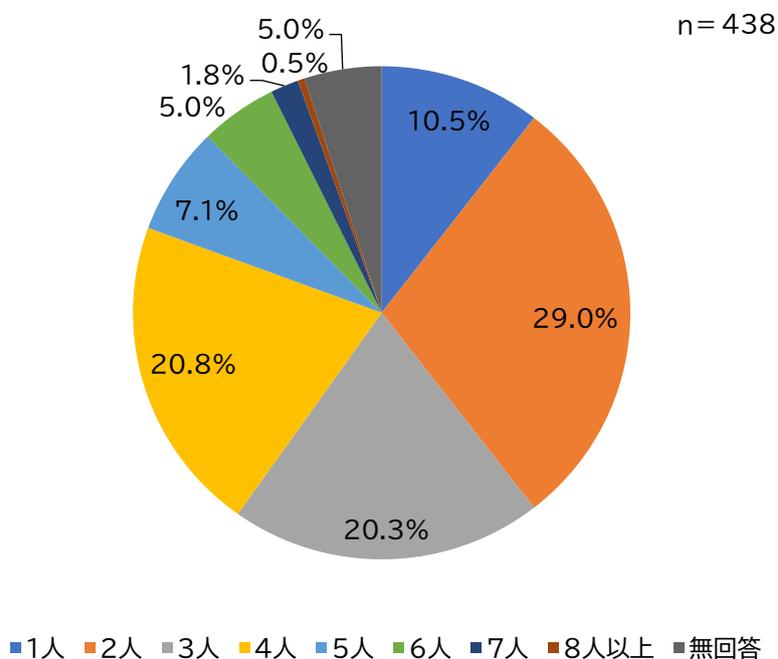
Q36. あなたの家族構成を教えてください。(単一選択)

「二世世代世帯(親と子)」が49.8%で、「夫婦のみの世帯」が23.7%、「単身世帯」が11.2%となっている。



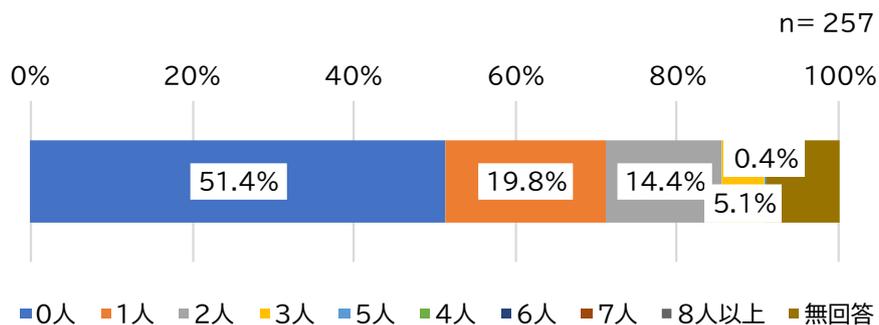
Q37. あなたの世帯の人数を教えてください。(単一選択)

「2人」が29.0%で、「4人」が20.8%、「3人」が20.3%となっている。



Q38. あなたの子どもで18歳以下の方の人数を教えてください。(単一選択)

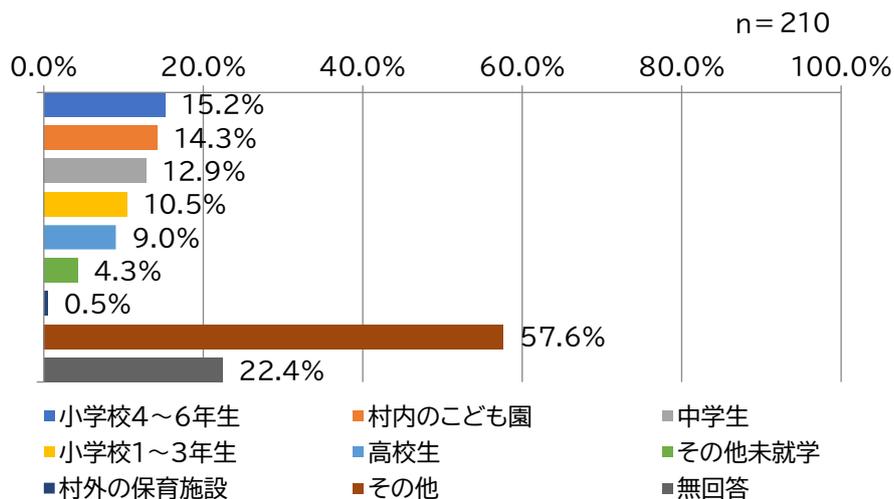
「0人」が51.4%と最も多く、次いで「1人」が19.8%、「2人」が14.4%となっている。



Q39. あなたの世帯の18歳以下の子どもの就学状況を教えてください。例：子どもが4人いて村内の子ども園、小学校1年生、小学生3年生、高校1年生の場合、1、4、7の合計3か所を選択します。(複数回答可)

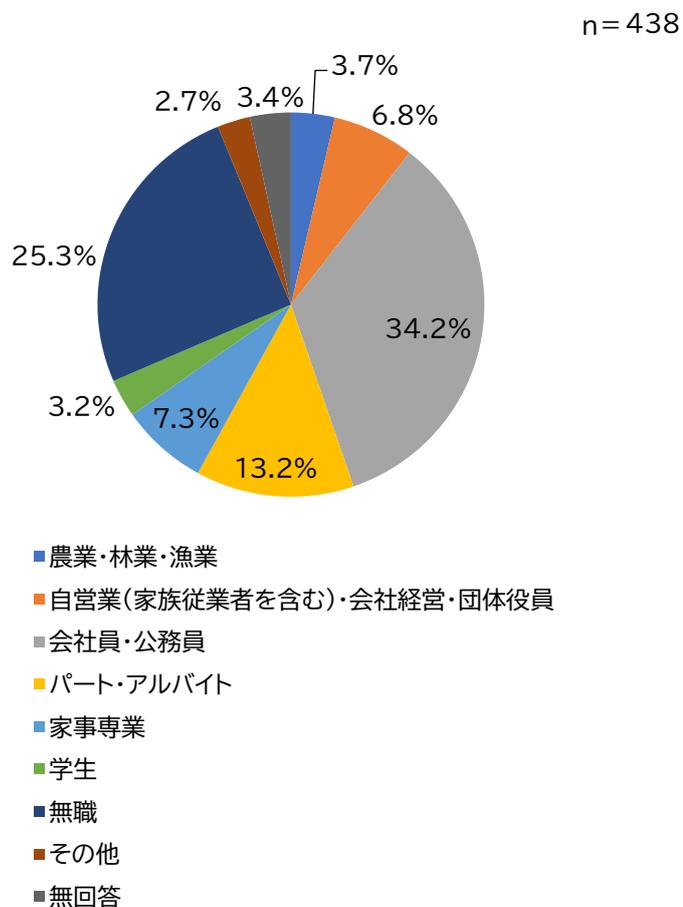
「小学校4～6年生」が15.2%と最も多く、次いで「村内の子ども園」が14.3%、「中学生」が12.9%となっている。

※「その他」は18歳より上の年齢の子どもがいる人を示す。



Q40. あなたの職業（兼業の方は主な職業）を教えてください。（単一選択）

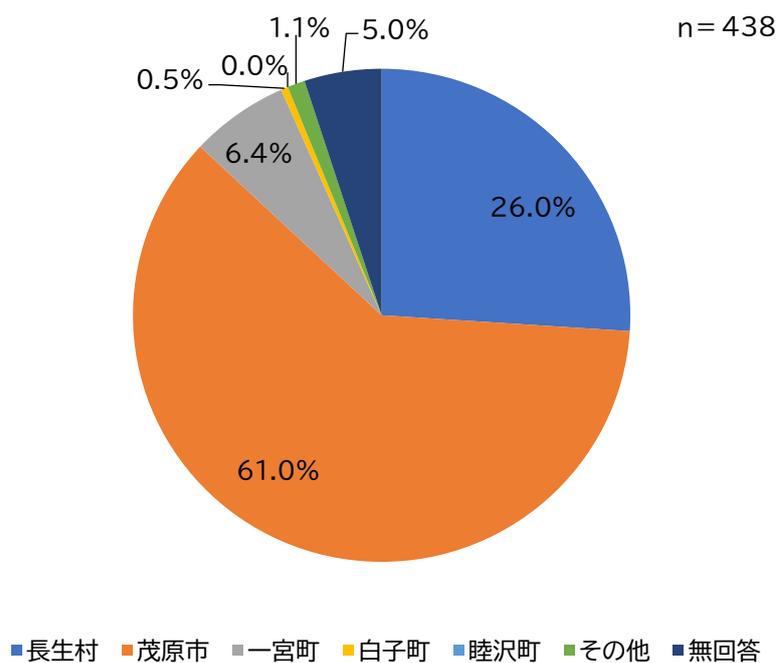
「会社員・公務員」が34.2%で、「無職」が25.3%、「パート・アルバイト」が13.2%となっている。



その他回答内容
教育
自営手伝い
主婦
専門職
専門職（英語講師）・大学院生
年金
年金生活者
薬品

Q42. あなたは日常的な買い物（食料品・日用品等）をどこで購入しますか。（単一選択）

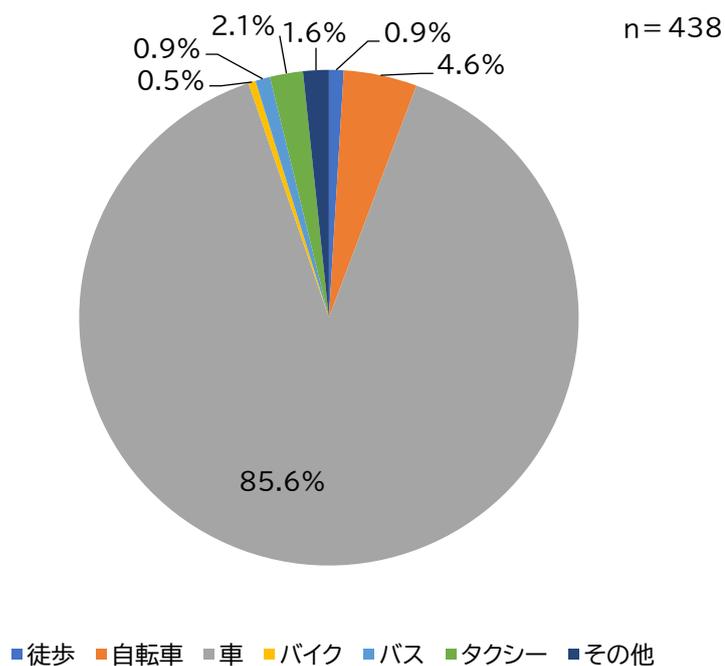
「茂原市」が61.0%で、「長生村」が26.0%、「一宮町」が6.4%となっている。



その他回答内容
1 と 2 が多い
ナリタヤ、DCM 長生店
生協の宅配
東京都
茂原市、一宮町、

Q43. あなたが日常生活で利用している主な交通手段は何ですか。(単一選択)

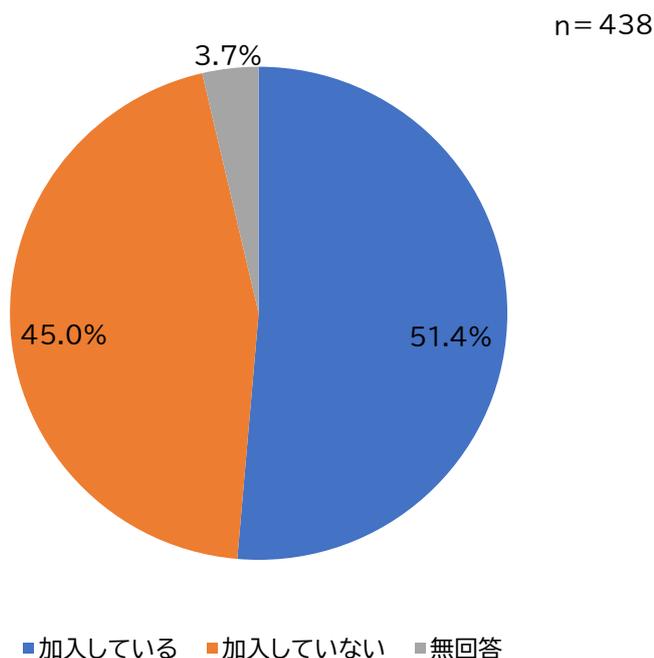
「車」が85.6%で、「自転車」が4.6%、「タクシー」が2.1%となっている。



その他回答内容
車にのせてもらっている
電車
電車
電車
電車

Q44. 自治会への加入状況を教えてください。(単一選択)

「加入している」が51.4%で、「加入していない」が45.0%、「無回答」が3.7%となっている。



その他回答内容
2軒しかない所で自治会はなくすぐに話し会えるので、なかったが(30年ぐらいまえ)今は15軒ぐらいなので必要と思われる。
3万円とお酒をもちお願いすると聞きましたので、又、どちらに行くかもわかりません
あるが、ほとんど活動していない
やるひまがない
以前は加入していた
以前加入していたが、活動が特にない為現在加入していない。
引越しのあいさつを拒否されたのが一軒あったので、勧誘されたとしても加入する気はない。(チンピラの様なおじいさん)
加入していたが脱退した。
加入してたが、辞めました。
加入の閉鎖的な自治会がある。長生村は、自治会の加入率が低いのは、地域の発展の阻害要因である。行政が率先して加入を促進(加入者及び自治会)する必要がある。
加入を申し出たが、自治会側から無理して加入しなくてよいとのことであった
勧誘があったが単身の為ことわり現在にいたる。
拒否された為(30年前)
興味なし
近所に自治会がない
高齢で退会

その他回答内容
高齢になったため、肉体的にも精神的にも難しくなったため、引退をしました。元気な時は自治会長などもしていましたので、十分かと思います。
高齢のため
高齢者が多くかいさんした。
自治会がない
自治会がないから
自治会がないから
自治会がない条件での借家の為
自治会が無い
自治会の元役員のやる気のなさにもめて退会
自治会の班がなくなった
自治会は無い
自治体の必要性を感じない
自宅に居ない事の方が多いので！！
消防の費用のみ払ってます
消防団に入っているから
退会した
転居時加入したが退会した
当時業務多忙だった
老人ばかりで自治会がなくなった

【クロス集計】

性別では、男性は「加入している」が58.7%、女性は「加入していない」が52.2%であった。

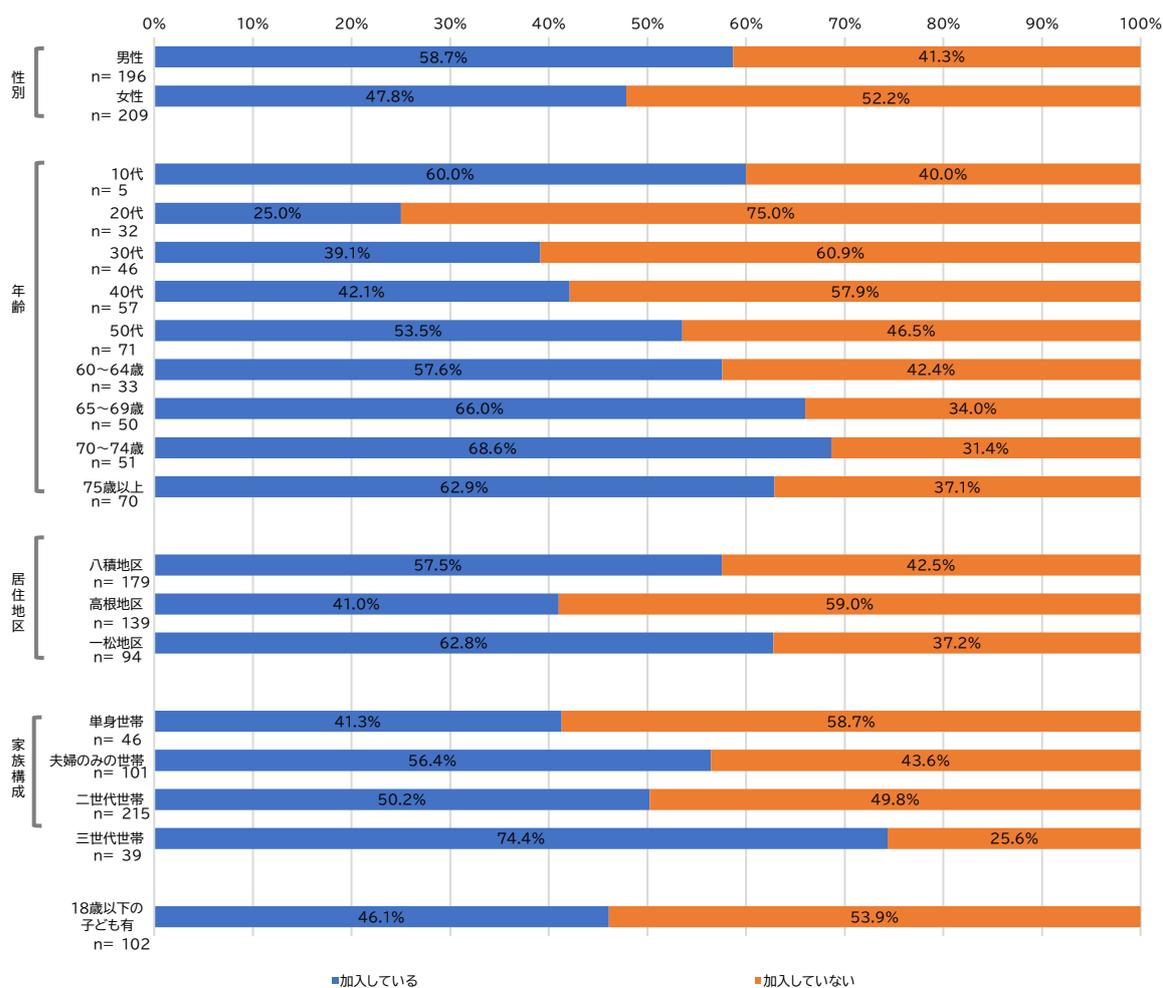
年齢別では、10代・50代以上は「加入している」が50%以上であり、50代以上について年齢が上がるごとに加入率も増加する傾向があった。一方で、20代～40代は「加入していない」が55%以上であり、特に20代は「加入していない」が75.0%であった。

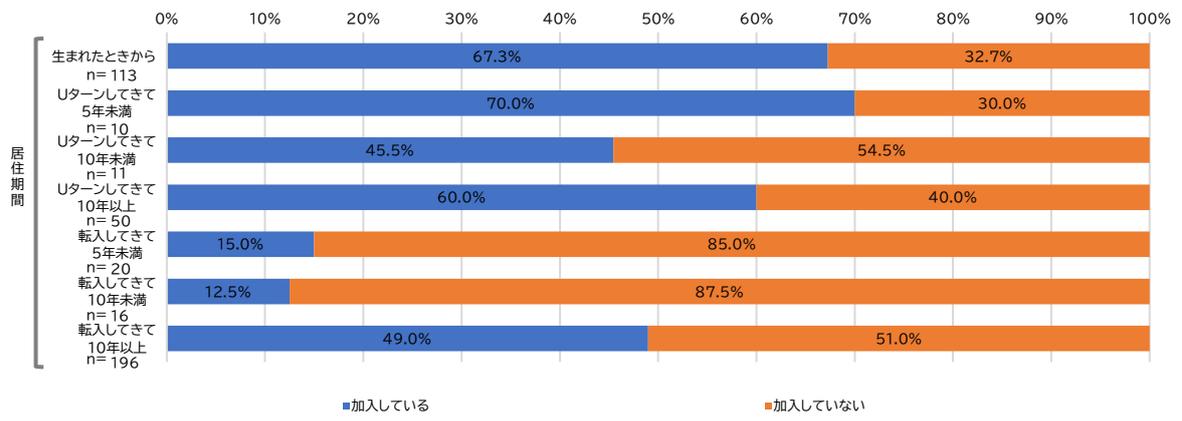
地区別では、八積地区・一松地区は「加入している」が55%以上であった。一方で、高根地区は「加入していない」が59.0%であった。

世帯構成別では、夫婦のみの世帯・二世帯世帯・三世帯世帯は「加入している」が50%以上であった。一方で、単身世帯は「加入していない」が58.7%であった。

18歳以下の子ども有の人は、「加入していない」が53.9%であった。

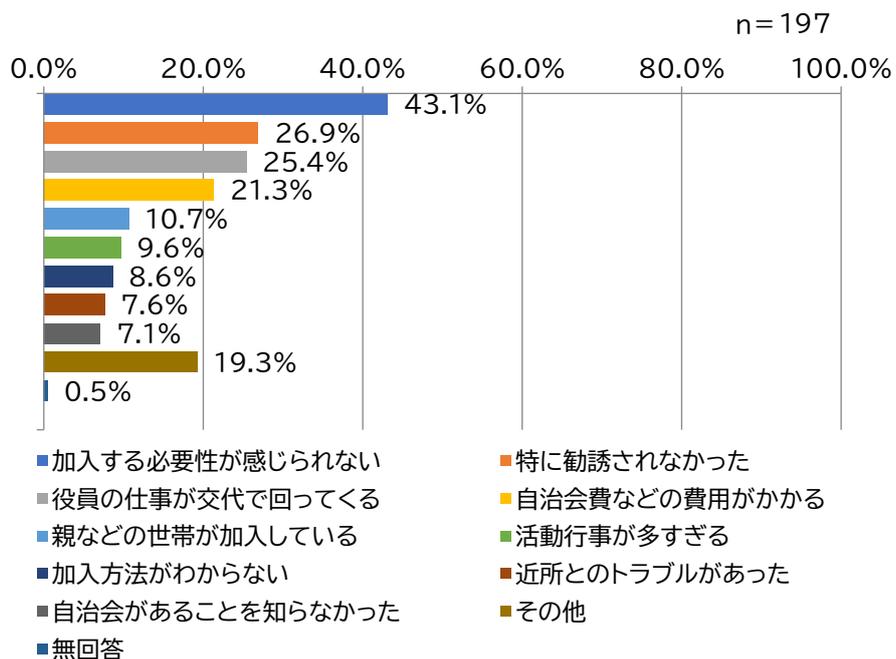
居住期間別では、生まれたときから居住している人・Uターンしてきて5年未満の人・Uターンしてきて10年以上の人は「加入している」が60%以上であった。特にUターンしてきて5年未満の人は「加入している」が70.0%であった。一方で、Uターンしてきて10年未満の人・転入してきて5年未満の人・転入してきて10年未満の人・転入してきて10年以上の人は「加入していない」が50%以上であった。特に、転入してきて5年未満の人・転入してきて10年未満の人は「加入していない」が85%以上であった。





Q45. 自治体に加入していない理由を教えてください。(複数回答可)

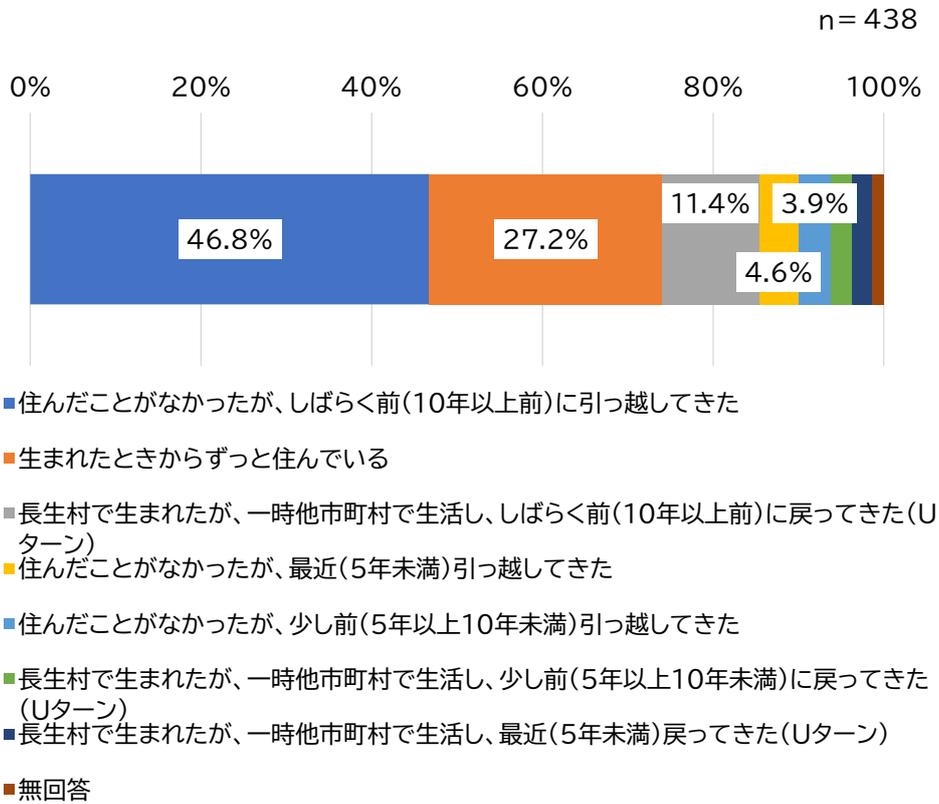
「加入する必要性が感じられない」が43.1%と最も多く、次いで「特に勧誘されなかった」が26.9%、「役員の仕事が交代で回ってくる」が25.4%となっている。



(2) 回答結果

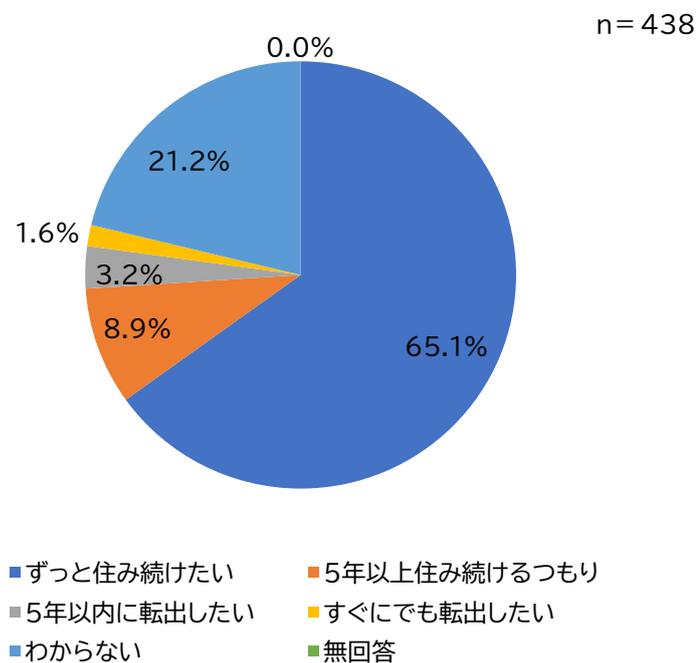
Q1. あなたは長生村に住んで何年くらいですか。(単一選択)

「住んだことがなかったが、しばらく前(10年以上前)に引っ越してきた」が46.8%と最も多く、次いで「生まれたときからずっと住んでいる」が27.2%、「長生村で生まれたが、一時他市町村で生活し、少し前(5年以上10年未満)に戻ってきた(Uターン)」が11.4%となっている。



Q2. あなたは、これからも長生村に住み続けたいと思いますか。(単一選択)

「ずっと住み続けたい」が65.1%で、「わからない」が21.2%、「5年以上住み続けるつもり」が8.9%となっている。



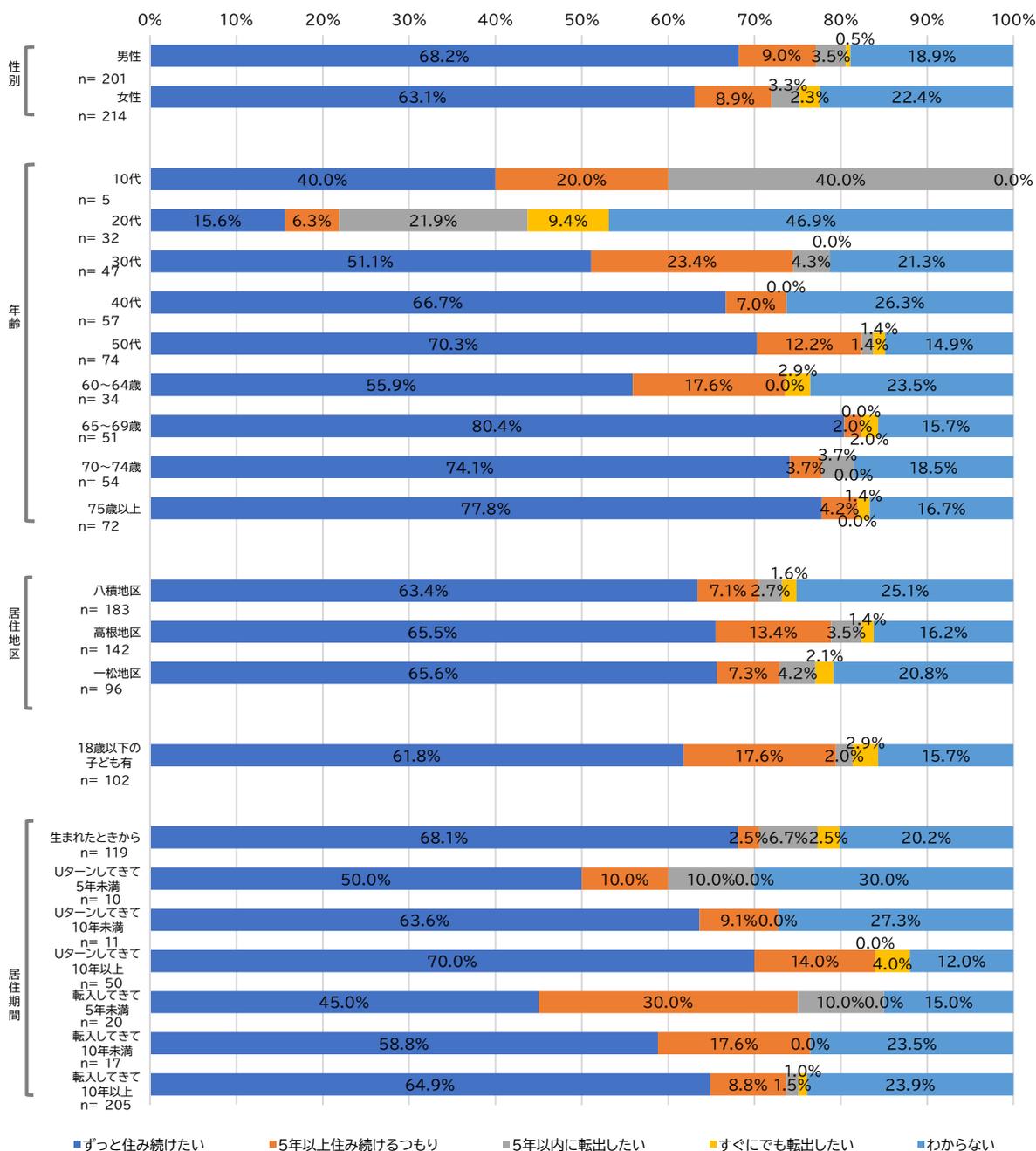
【クロス集計】

性別では男性の居住意向が女性よりも若干高いものの、大きな差がなかった。

年代別では年配の世代ほど居住意向が高い傾向が見られた一方、20代では少なくとも5年以上の継続居住意向が前期計画策定時の約50%から20%程度まで大幅に減少し、わからないと回答した割合が前回計画時の16.3%から46.9%へと大幅に増加した。

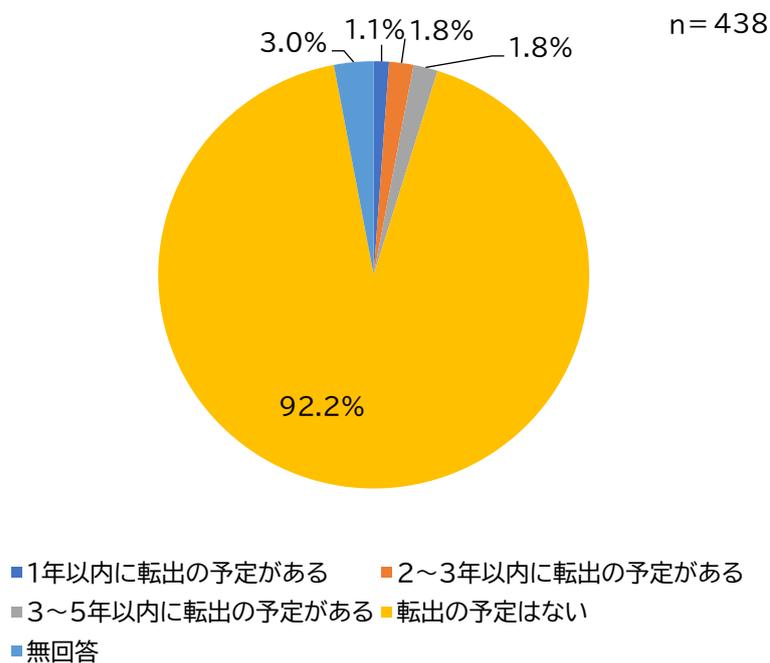
地区別では大きな差は見られなかった。高根地区での少なくとも5年以上の継続居住意向が若干高いものの、前回計画時から若干減少が見られた。

居住期間別では居住期間が長いほど居住意向が高い傾向が見られた。



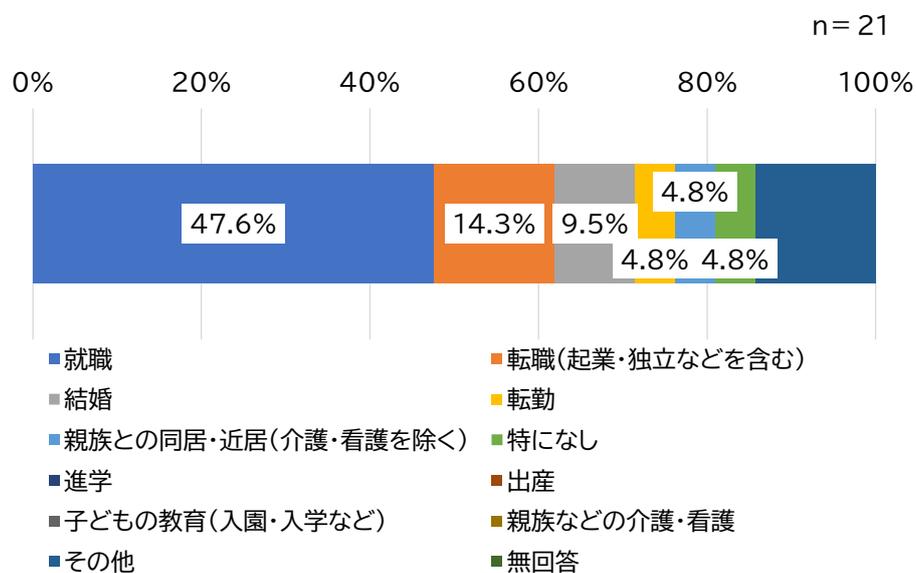
Q3. あなたは、5年以内に長生村外への転出を予定していますか。(単一選択)

「転出の予定はない」が92.2%で、「2～3年以内に転出の予定がある」、「3～5年以内に転出の予定がある」が1.8%となっている。



Q4. 転出を予定している理由を教えてください。(単一選択)

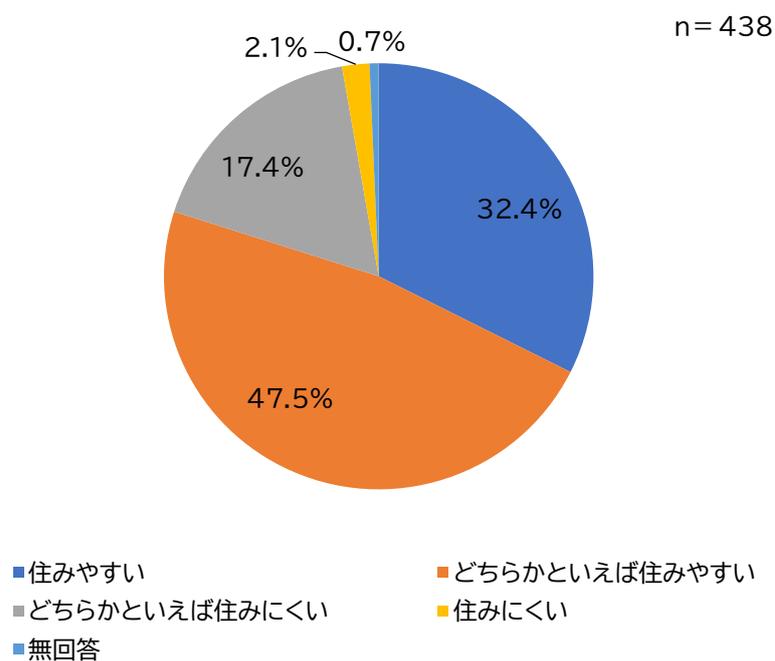
「就職」が47.6%と最も多く、次いで「転職（起業・独立などを含む）」が14.3%、「結婚」が9.5%となっている。



その他回答内容
医療機関、スーパー等への交通の不便
大学が忙しくなったため近くに引っ越す
同棲

Q5. あなたは長生村を住みやすいと感じていますか。(単一選択)

「住みやすい」が32.4%で、「どちらかといえば住みやすい」が47.5%、「どちらかといえば住みにくい」が17.4%、「住みにくい」が2.1%となっている。



【クロス集計】

性別では大きな差がなかった。

年齢別ではすべての年代で70%以上が「住みやすさ」（「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」）を選択。以下同じ）を感じており、特に30代・40代・60代では80%を超えている。

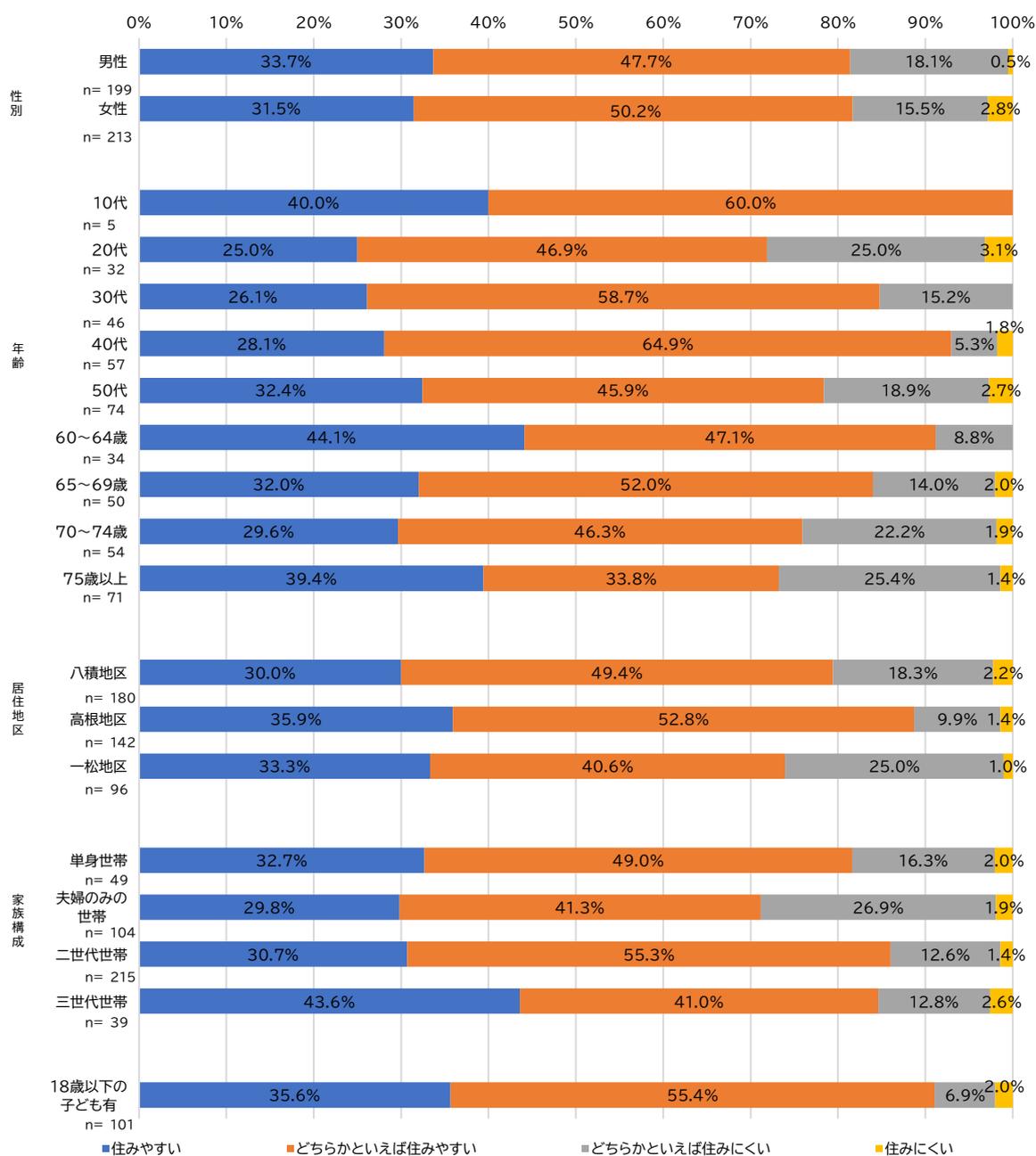
地区別では一松地区がやや低いものの、すべての地区で70%以上が「住みやすさ」を感じている。

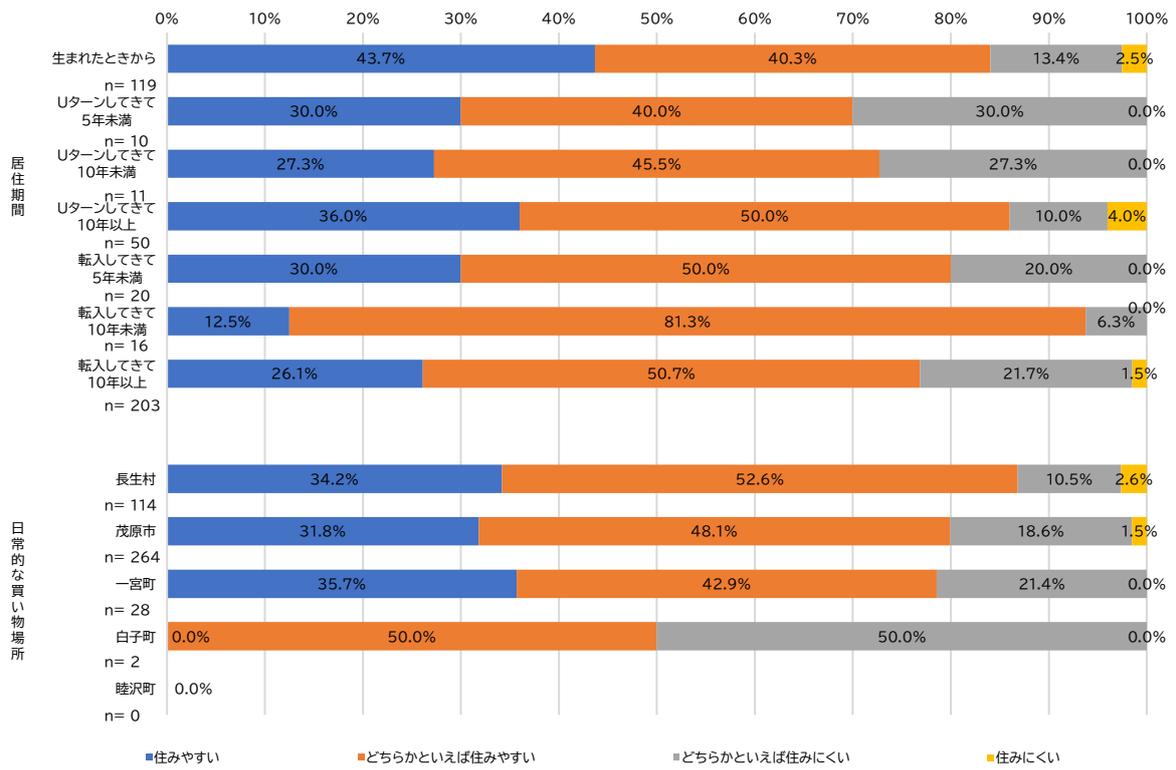
家族構成別では夫婦のみの世帯がやや低いものの、すべての世帯で70%以上が「住みやすさ」を感じている。

居住期間別では転入してきて10年未満で「住みやすさ」を感じており、90%を超えている。

日常的な買い物場所では「住みやすさ」に大きな差がなかった。

※白子町はサンプル数が2、睦沢町はサンプル数が0のため分析対象外とする。

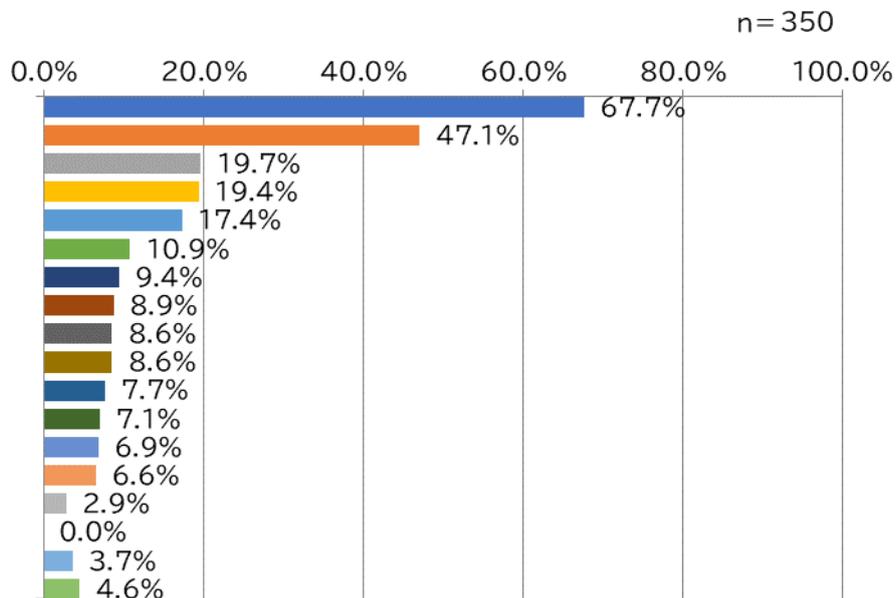




Q6. 住みやすいと感じられる理由や魅力は何ですか。(複数選択可)

「自然環境が豊かである」が67.7%と最も多く、次いで、「土地になじみや愛着がある」が47.1%、「食料品・日用品等の買い物が便利である」が19.7%となっている。

「自然環境が豊かである」が56.6%と最も多く、次いで、「土地になじみや愛着がある」が49.4%、「食料品・日用品等の買い物が便利である」が19.7%となっている。



- 自然環境が豊かである
- 食料品・日用品等の買い物が便利である
- 隣近所の付き合いが良好である
- 地価等が安く、家を建てやすい
- 趣味や娯楽が楽しめる
- 学校等の教育環境がよい
- 地域の連帯感がある
- 働きやすい職場がある
- その他
- 土地になじみや愛着がある
- 治安がよく防犯の面が安心
- 福祉サービスが充実している
- 通勤・通学等の交通の便がよい
- 子育てがしやすい
- 地震など防災の面が安心
- 医療の面が安心
- 歴史・文化に恵まれている
- 無回答

その他回答内容
5. について現在は車の運転が出来るので、出来なくなったら住みにくいになる可能性大である なんとなく住みやすい 特に強いて選択できる事もない！
ねこを安心して飼うことが出来る
温暖で住み安い
車の通りが多くない
車庫証明が必要ない
特になし
物が安い スーパー、コンビニ沢山あって安いと思う
文化会館 図書室 プラネタリウム 交流センター
平ら

【クロス集計】

性別では、男性は「土地になじみや愛着がある」が59.9%で最も多く、次いで「自然環境が豊かである」が59.3%で多かった。女性は、「自然環境が豊かである」が75.9%で最も多く、次いで「土地になじみや愛着がある」が34.5%で多かった。傾向が見られた選択肢として、男性は「通勤・通学等の交通の便がよい」が11.1%であるのに対し、女性は6.3%であった。一方で、「子育てがしやすい」は女性が11.5%であったのに対し、男性が6.2%であった。

年齢別では、すべての年代で「自然環境が豊かである」が50%以上で最も多く、次いで、「土地になじみや愛着がある」が30%以上で多かった。傾向がみられた選択肢として、30代は「治安がよく防犯の面が安心」が33.3%、75歳以上は「食料品・日用品等の買い物が便利である」が28.8%であった。

地区別では、すべての地区で「自然環境が豊かである」が60%以上で最も多く、特に一松地区では80%以上と多かった。次いで、「土地になじみや愛着がある」が40%以上で多かった。傾向が見られた選択肢として、八積地区では「食料品・日用品等の買い物が便利である」が28.7%、高根地区・一松地区では「治安がよく防犯の面が安心」がそれぞれ23.0%、23.9%であった。

世帯構成別では、すべての世帯構成で「自然環境が豊かである」が65%以上で最も多かった。次いで、「土地になじみや愛着がある」が35%以上で多かった。傾向が見られた選択肢として、単身世帯・二世帯世帯では「治安がよく防犯の面が安心」がそれぞれ25.0%、22.6%であった。夫婦のみの世帯では「食料品・日用品等の買い物が便利である」が31.5%、三世帯世帯では「福祉サービスが充実している」が21.2%であった。

18歳以下の子どもの有る人は、「自然環境が豊かである」が63.0%で最も多く、次いで、「土地になじみや愛着がある」が40.2%であった。その他、「子育てがしやすい」が22.8%であった。

日常的な買い物場所別では、長生村で日常的な買い物をする人は「食料品・日用品等の買い物が便利である」が26.3%と高く、茂原市では18.0%であった。

※白子町はサンプル数が1、睦沢町はサンプル数が0のため分析対象外とする。

は各属性で最も数値が高いもの

は各属性で2番目に数値が高いもの

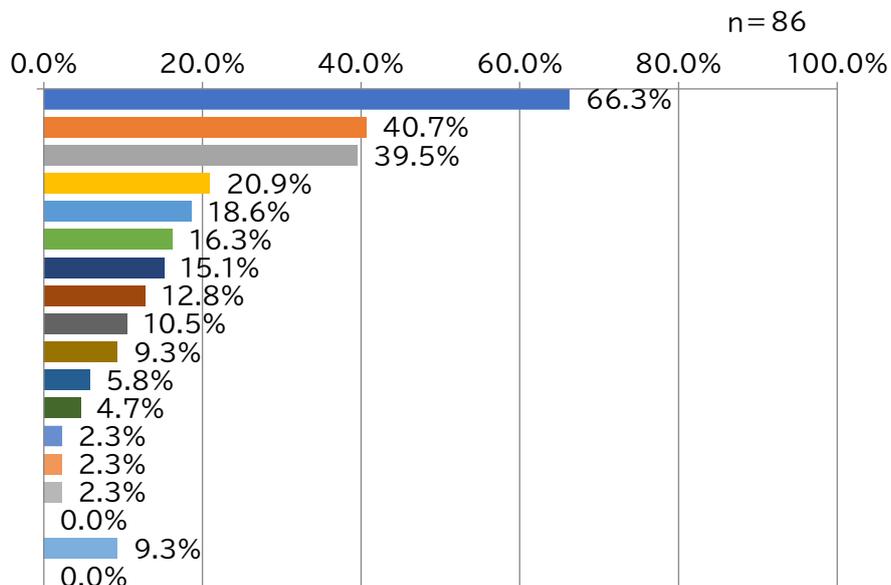
		総数	は各属性で最も数値が高いもの		は各属性で2番目に数値が高いもの					
			自然環境が豊かである	土地になじみや愛着がある	歴史・文化に恵まれている	通勤・通学等の交通の便がよい	食料品・日用品等の買い物が便利である	趣味や娯楽が楽しめる	隣近所の付き合いが良好である	地域の連帯感がある
性別	男性	162	96	97	0	18	30	17	29	15
		100.0%	59.3%	59.9%	0.0%	11.1%	18.5%	10.5%	17.9%	9.3%
	女性	174	132	60	0	11	35	12	30	8
		100.0%	75.9%	34.5%	0.0%	6.3%	20.1%	6.9%	17.2%	4.6%
年齢	10代	5	4	3	0	0	1	0	0	0
		100.0%	80.0%	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	23	19	14	0	4	2	2	1	0
		100.0%	82.6%	60.9%	0.0%	17.4%	8.7%	8.7%	4.3%	0.0%
	30代	39	22	15	0	4	7	4	6	4
		100.0%	56.4%	38.5%	0.0%	10.3%	17.9%	10.3%	15.4%	10.3%
	40代	53	36	29	0	6	5	5	11	3
		100.0%	67.9%	54.7%	0.0%	11.3%	9.4%	9.4%	20.8%	5.7%
	50代	58	45	25	0	6	9	2	5	5
		100.0%	77.6%	43.1%	0.0%	10.3%	15.5%	3.4%	8.6%	8.6%
60～64歳	31	22	13	0	4	8	4	4	0	
	100.0%	71.0%	41.9%	0.0%	12.9%	25.8%	12.9%	12.9%	0.0%	
65～69歳	42	23	21	0	3	10	5	10	5	
	100.0%	54.8%	50.0%	0.0%	7.1%	23.8%	11.9%	23.8%	11.9%	
70～74歳	41	29	18	0	2	10	3	10	4	
	100.0%	70.7%	43.9%	0.0%	4.9%	24.4%	7.3%	24.4%	9.8%	
75歳以上	52	34	23	0	1	15	5	12	2	
	100.0%	65.4%	44.2%	0.0%	1.9%	28.8%	9.6%	23.1%	3.8%	
地区	八積地区	143	88	64	0	17	41	12	22	12
		100.0%	61.5%	44.8%	0.0%	11.9%	28.7%	8.4%	15.4%	8.4%
	高根地区	126	83	55	0	12	19	6	23	8
100.0%		65.9%	43.7%	0.0%	9.5%	15.1%	4.8%	18.3%	6.3%	
一松地区	71	60	38	0	1	7	12	13	3	
	100.0%	84.5%	53.5%	0.0%	1.4%	9.9%	16.9%	18.3%	4.2%	
世帯構成	単身世帯	40	33	15	0	2	7	8	7	1
		100.0%	82.5%	37.5%	0.0%	5.0%	17.5%	20.0%	17.5%	2.5%
	夫婦のみの世帯	73	48	29	0	3	23	8	11	4
		100.0%	65.8%	39.7%	0.0%	4.1%	31.5%	11.0%	15.1%	5.5%
	二世帯世帯	186	121	91	0	19	33	12	32	14
100.0%		65.1%	48.9%	0.0%	10.2%	17.7%	6.5%	17.2%	7.5%	
三世帯世帯	33	25	15	0	5	3	1	5	3	
100.0%	75.8%	45.5%	0.0%	15.2%	9.1%	3.0%	15.2%	9.1%		
18歳以下の子ども有	92	58	37	0	10	13	4	18	7	
	100.0%	63.0%	40.2%	0.0%	10.9%	14.1%	4.3%	19.6%	7.6%	
日常的な買い物場所	長生村	99	54	49	0	14	26	10	18	6
		100.0%	54.5%	49.5%	0.0%	14.1%	26.3%	10.1%	18.2%	6.1%
	茂原市	211	152	92	0	16	38	16	33	13
		100.0%	72.0%	43.6%	0.0%	7.6%	18.0%	7.6%	15.6%	6.2%
	一宮町	22	21	12	0	0	1	4	7	1
		100.0%	95.5%	54.5%	0.0%	0.0%	4.5%	18.2%	31.8%	4.5%
	白子町	1	1	1	0	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	睦沢町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(表の続き)

		は各属性で最も数値が高いもの					は各属性で2番目に数値が高いもの				
		学校等の教育環境がよい	福祉サービスが充実している	子育てがしやすい	治安がよく防犯の面が安心	医療の面が安心	地震など防災の面が安心	働きやすい職場がある	地価等が安く、家を建てやすい	その他	
性別	男性	13 8.0%	15 9.3%	10 6.2%	34 21.0%	12 7.4%	14 8.6%	8 4.9%	15 9.3%	3 1.9%	
	女性	14 8.0%	23 13.2%	20 11.5%	32 18.4%	11 6.3%	10 5.7%	2 1.1%	15 8.6%	10 5.7%	
年齢	10代	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	20代	3 13.0%	1 4.3%	5 21.7%	5 21.7%	1 4.3%	1 4.3%	1 4.3%	1 4.3%	1 4.3%	
	30代	7 17.9%	1 2.6%	8 20.5%	13 33.3%	0 0.0%	2 5.1%	1 2.6%	3 7.7%	1 2.6%	
	40代	5 9.4%	2 3.8%	10 18.9%	9 17.0%	1 1.9%	2 3.8%	1 1.9%	6 11.3%	3 5.7%	
	50代	3 5.2%	7 12.1%	3 5.2%	13 22.4%	1 1.7%	6 10.3%	4 6.9%	12 20.7%	0 0.0%	
	60~64歳	2 6.5%	0 0.0%	3 9.7%	6 19.4%	3 9.7%	2 6.5%	3 9.7%	3 9.7%	1 3.2%	
	65~69歳	3 7.1%	9 21.4%	1 2.4%	8 19.0%	5 11.9%	3 7.1%	0 0.0%	4 9.5%	2 4.8%	
	70~74歳	0 0.0%	4 9.8%	0 0.0%	6 14.6%	6 14.6%	2 4.9%	0 0.0%	1 2.4%	2 4.9%	
	75歳以上	2 3.8%	13 25.0%	0 0.0%	6 11.5%	6 11.5%	7 13.5%	0 0.0%	3 5.8%	3 5.8%	
	地区	八積地区	12 8.4%	16 11.2%	9 6.3%	21 14.7%	7 4.9%	10 7.0%	5 3.5%	14 9.8%	7 4.9%
高根地区		11 8.7%	16 12.7%	11 8.7%	29 23.0%	10 7.9%	14 11.1%	3 2.4%	15 11.9%	5 4.0%	
一松地区		4 5.6%	5 7.0%	10 14.1%	17 23.9%	6 8.5%	1 1.4%	2 2.8%	3 4.2%	1 1.4%	
世帯構成	単身世帯	0 0.0%	6 15.0%	1 2.5%	10 25.0%	3 7.5%	1 2.5%	1 2.5%	2 5.0%	0 0.0%	
	夫婦のみの世帯	4 5.5%	10 13.7%	2 2.7%	9 12.3%	10 13.7%	10 13.7%	2 2.7%	11 15.1%	4 5.5%	
	二世帯世帯	21 11.3%	14 7.5%	22 11.8%	42 22.6%	7 3.8%	12 6.5%	5 2.7%	18 9.7%	7 3.8%	
	三世帯世帯	2 6.1%	7 21.2%	5 15.2%	5 15.2%	3 9.1%	1 3.0%	1 3.0%	1 3.0%	2 6.1%	
18歳以下の子ども有		14 15.2%	5 5.4%	21 22.8%	22 23.9%	3 3.3%	4 4.3%	1 1.1%	12 13.0%	5 5.4%	
日常的な買い物場所	長生村	11 11.1%	11 11.1%	9 9.1%	22 22.2%	11 11.1%	4 4.0%	3 3.0%	9 9.1%	4 4.0%	
	茂原市	14 6.6%	21 10.0%	19 9.0%	40 19.0%	11 5.2%	19 9.0%	7 3.3%	23 10.9%	8 3.8%	
	一宮町	1 4.5%	2 9.1%	0 0.0%	2 9.1%	1 4.5%	2 9.1%	0 0.0%	1 4.5%	1 4.5%	
	白子町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	睦沢町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

Q7. 住みにくいと感じられる理由は何ですか。(複数選択可)

「買い物等の日常生活が不便である」が66.3%と最も多く、次いで「通勤・通学等の交通の便が悪い」が40.7%、「医療の面が不安」が39.5%となっている。



- 買い物等の日常生活が不便である
- 通勤・通学等の交通の便が悪い
- 医療の面が不安
- 隣近所の付き合いがむずかしい
- 近くに働く場所がない
- 地震など防災の面が不安
- 地域の連帯感がない
- 趣味や娯楽が楽しめない
- 福祉サービスが充実していない
- 土地になじみや愛着がない
- 学校等の教育環境がよくない
- 子育てがしにくい
- 自然環境が少ない
- 歴史・文化に恵まれていない
- 治安が悪く防犯の面が不安
- 地価等が高く、家を建てるににくい
- その他
- 無回答

その他回答内容
下水道、ガス、生活道路整備の遅れ
自家用車が必須
車通りがとても少ない 茂原から下ってくる車がない 若者が集まるような場所がない
十字路に、交通・信号機・道路に少ない これから事故多発が心配
村長に不満がある 演説は自分語り、少子化で近隣の町は小学校合併が続いているのに今更給食センターをつくる無●な行●
大雨で前面道路が冠水する
田畑を売ることができない
排水路がない 雨水及び家庭用雑排水

【クロス集計】

性別では、男性は「買い物等の日常生活が不便である」が57.9%で最も多く、次いで「自然環境が豊かである」が42.1%が多かった。女性は、「買い物等の日常生活が不便である」が71.8%で最も多く、次いで「医療の面が不安」が41.0%が多かった。傾向が見られた選択肢として、男性は「地域の連帯感がない」が18.4%であるのに対し、女性は10.3%であった。一方で、「地震など防災の面が不安」及び「近くに働く場所がない」は女性が20.5%であったのに対し、男性が15.8%であった。

※年齢別はサンプル数が少ないため、分析対象外とする。

地区別では、すべての地区で「買い物等の日常生活が不便である」が50%以上で最も多かった。次いで、八積地区・高根地区では「通勤・通学等の交通の便が悪い」が40%以上、一松地区では「医療の面が不安」が44.0%が多かった。傾向が見られた選択肢として、八積地区・高根地区では「隣近所の付き合いがむずかしい」が28.7%、一松地区では「趣味や娯楽が楽しめない」がそれぞれ28.0%であった。

世帯構成別では、すべての世帯構成で「買い物等の日常生活が不便である」が60%以上で最も多かった。次いで、単身世帯・二世帯世帯では「通勤・通学等の交通の便が悪い」が40%以上、夫婦のみの世帯では「医療の面が不安」が46.7%、三世帯世帯では「近くに働く場所がない」が50.0%であった。

※居住期間はサンプル数が少ないため、分析対象外とする。

日常的な買い物場所別では、茂原市では「食料品・日用品等の買い物が不便である」が63.0%と最も多く、長生村では60.0%であった。

※一宮町はサンプル数が6、白子町はサンプル数が1、睦沢町はサンプル数0のため分析対象外とする。

は各属性で最も数値が高いもの

は各属性で2番目に数値が高いもの

		総数	自然環境 が少ない	土地にな じみや愛 着がない	歴史・文化 に恵まれ ていない	通勤・通学 等の交通 の便が悪 い	買い物等 の日常生 活が不便 である	趣味や娯 楽が楽し めない	隣近所の 付き合い がむずか しい	地域の連 帯感がな い
性別	男性	38	0	5	1	16	22	5	8	7
		100.0%	0.0%	13.2%	2.6%	42.1%	57.9%	13.2%	21.1%	18.4%
	女性	39	1	3	0	15	28	6	8	4
		100.0%	2.6%	7.7%	0.0%	38.5%	71.8%	15.4%	20.5%	10.3%
年齢	10代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	9	0	1	0	7	4	4	1	0
		100.0%	0.0%	11.1%	0.0%	77.8%	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%
	30代	8	0	1	0	4	4	1	2	1
		100.0%	0.0%	12.5%	0.0%	50.0%	50.0%	12.5%	25.0%	12.5%
	40代	4	0	0	1	2	2	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50代	16	1	1	0	8	11	0	2	3
		100.0%	6.3%	6.3%	0.0%	50.0%	68.8%	0.0%	12.5%	18.8%
	60～64歳	3	0	1	0	1	2	2	2	0
		100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	66.7%	66.7%	0.0%
65～69歳	8	0	1	0	4	4	1	2	1	
	100.0%	0.0%	12.5%	0.0%	50.0%	50.0%	12.5%	25.0%	12.5%	
70～74歳	13	0	1	0	4	11	2	2	3	
	100.0%	0.0%	7.7%	0.0%	30.8%	84.6%	15.4%	15.4%	23.1%	
75歳以上	19	0	2	0	3	14	1	6	4	
	100.0%	0.0%	10.5%	0.0%	15.8%	73.7%	5.3%	31.6%	21.1%	
地区	八積地区	38	0	3	0	17	19	3	10	8
		100.0%	0.0%	7.9%	0.0%	44.7%	50.0%	7.9%	26.3%	21.1%
	高根地区	16	1	3	0	7	12	1	4	2
	100.0%	6.3%	18.8%	0.0%	43.8%	75.0%	6.3%	25.0%	12.5%	
一松地区	25	0	2	1	9	21	7	3	2	
	100.0%	0.0%	8.0%	4.0%	36.0%	84.0%	28.0%	12.0%	8.0%	
世帯構成	単身世帯	9	0	2	0	5	6	3	4	1
		100.0%	0.0%	22.2%	0.0%	55.6%	66.7%	33.3%	44.4%	11.1%
	夫婦のみの世帯	30	0	4	0	10	20	1	6	5
		100.0%	0.0%	13.3%	0.0%	33.3%	66.7%	3.3%	20.0%	16.7%
二世帯世帯	31	1	2	1	15	20	5	4	4	
	100.0%	3.2%	6.5%	3.2%	48.4%	64.5%	16.1%	12.9%	12.9%	
三世帯世帯	6	0	0	0	2	4	1	2	2	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	16.7%	33.3%	33.3%	
18歳以下の子ども有	10	0	0	0	3	6	1	2	2	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.0%	60.0%	10.0%	20.0%	20.0%	
居住期間	生まれたときから	19	1	0	1	9	10	5	3	2
		100.0%	5.3%	0.0%	5.3%	47.4%	52.6%	26.3%	15.8%	10.5%
	Uターンしてきて 5年未満	3	0	1	0	1	1	3	1	1
		100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	100.0%	33.3%	33.3%
	Uターンしてきて 10年未満	3	0	0	0	2	2	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	Uターンしてきて 10年以上	7	0	0	0	4	4	0	2	3
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	57.1%	0.0%	28.6%	42.9%
転入してきて 5年未満	4	0	1	0	3	3	0	0	0	
	100.0%	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
転入してきて 10年未満	2	0	1	0	1	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
転入してきて 10年以上	47	1	5	1	15	35	2	10	6	
	100.0%	2.1%	10.6%	2.1%	31.9%	74.5%	4.3%	21.3%	12.8%	
日常的な買い物場所	長生村	15	0	2	0	3	9	1	6	2
		100.0%	0.0%	13.3%	0.0%	20.0%	60.0%	6.7%	40.0%	13.3%
	茂原市	54	1	5	1	25	34	7	8	9
		100.0%	1.9%	9.3%	1.9%	46.3%	63.0%	13.0%	14.8%	16.7%
	一宮町	6	0	0	0	2	6	2	2	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%
白子町	1	0	0	0	1	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
睦沢町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

(表の続き)

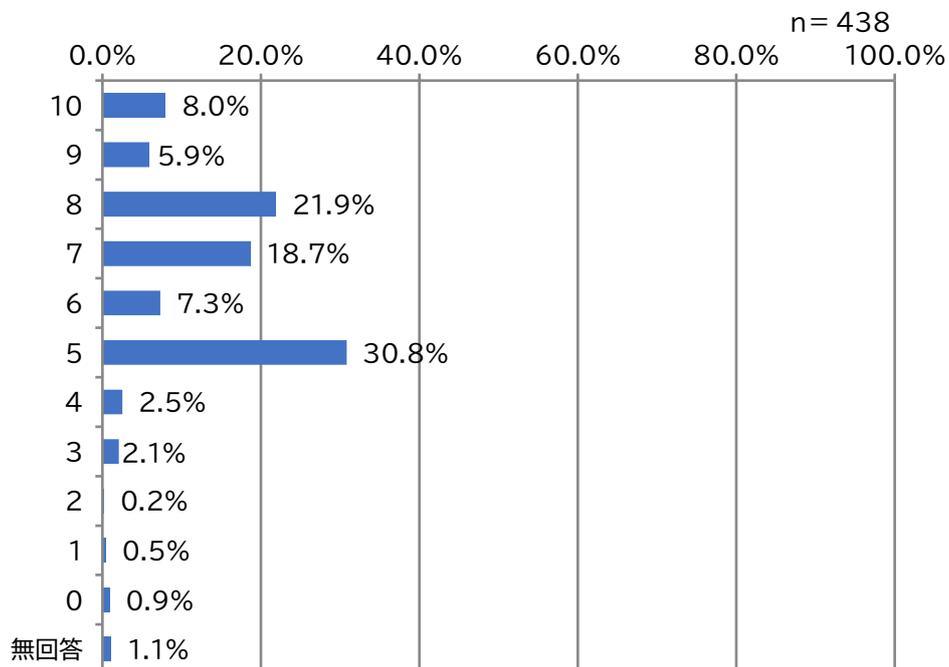
は各属性で最も数値が高いもの は各属性で2番目に数値が高いもの

		学校等の 教育環境 がよくない	福祉サー ビスが充 実してい ない	子育てが しにくい	治安が悪 く防犯の 面が不安	医療の面 が不安	地震など 防災の面 が不安	近くに働く 場所がない	地価等が 高く、家を 建てにくい	その他
性別	男性	2 5.3%	4 10.5%	2 5.3%	0 0.0%	13 34.2%	6 15.8%	6 15.8%	0 0.0%	4 10.5%
	女性	2 5.1%	4 10.3%	2 5.1%	1 2.6%	16 41.0%	8 20.5%	8 20.5%	0 0.0%	4 10.3%
年齢	10代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20代	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%
	40代	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%
	50代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	5 31.3%	2 12.5%	6 37.5%	0 0.0%	2 12.5%
	60~64歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	65~69歳	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	4 50.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
	70~74歳	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	7 53.8%	3 23.1%	3 23.1%	0 0.0%	1 7.7%
	75歳以上	0 0.0%	6 31.6%	0 0.0%	0 0.0%	10 52.6%	3 15.8%	1 5.3%	0 0.0%	3 15.8%
	地区	八積地区	4 10.5%	4 10.5%	4 10.5%	2 5.3%	13 34.2%	5 13.2%	8 21.1%	0 0.0%
高根地区		0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 37.5%	3 18.8%	2 12.5%	0 0.0%	1 6.3%
一松地区		0 0.0%	3 12.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 44.0%	6 24.0%	5 20.0%	0 0.0%	2 8.0%
世帯構成	単身世帯	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
	夫婦のみの世帯	1 3.3%	6 20.0%	1 3.3%	1 3.3%	14 46.7%	6 20.0%	6 20.0%	0 0.0%	4 13.3%
	二世帯世帯	2 6.5%	2 6.5%	3 9.7%	1 3.2%	13 41.9%	6 19.4%	4 12.9%	0 0.0%	3 9.7%
	三世帯世帯	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
18歳以下の子ども有		2 20.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	3 30.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	2 20.0%
居住期間	生まれたときから	2 10.5%	1 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 26.3%	2 10.5%	5 26.3%	0 0.0%	2 10.5%
	Uターンしてきて 5年未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	Uターンしてきて 10年未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	Uターンしてきて 10年以上	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	3 42.9%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
	転入してきて 5年未満	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
	転入してきて 10年未満	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	転入してきて 10年以上	2 4.3%	7 14.9%	1 2.1%	1 2.1%	23 48.9%	11 23.4%	8 17.0%	0 0.0%	6 12.8%
	日常的な買い物場所	0 0.0%	4 26.7%	1 6.7%	0 0.0%	9 60.0%	4 26.7%	2 13.3%	0 0.0%	1 6.7%
長生村	4 7.4%	4 7.4%	3 5.6%	1 1.9%	18 33.3%	7 13.0%	10 18.5%	0 0.0%	6 11.1%	
一宮町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	
白子町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
睦沢町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

Q8. 地域における幸福度・満足度についておたずねします。各項目について最も近いものを選んでください。とても幸せ = 10 ~ とても不幸 = 0

①現在、あなたはどの程度幸せですか。(単一選択)

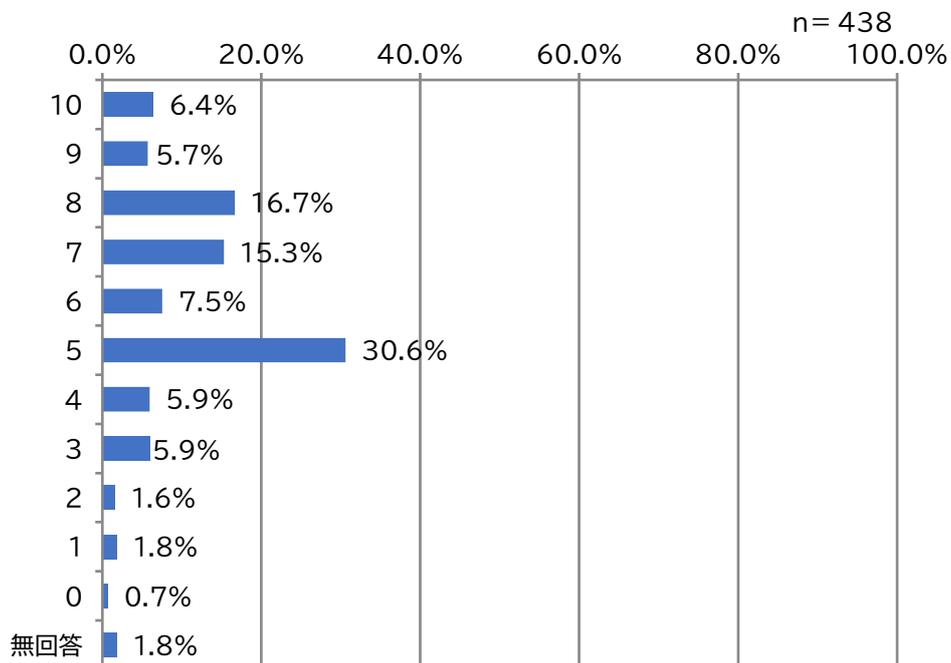
「5」が30.8%と最も多く、次いで「8」が21.9%、「7」が18.7%となっている。



Q8. 地域における幸福度・満足度についておたずねします。各項目について最も近いものを選んでください。とても幸せ = 10 ~ とても不幸 = 0

②今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。(単一選択)

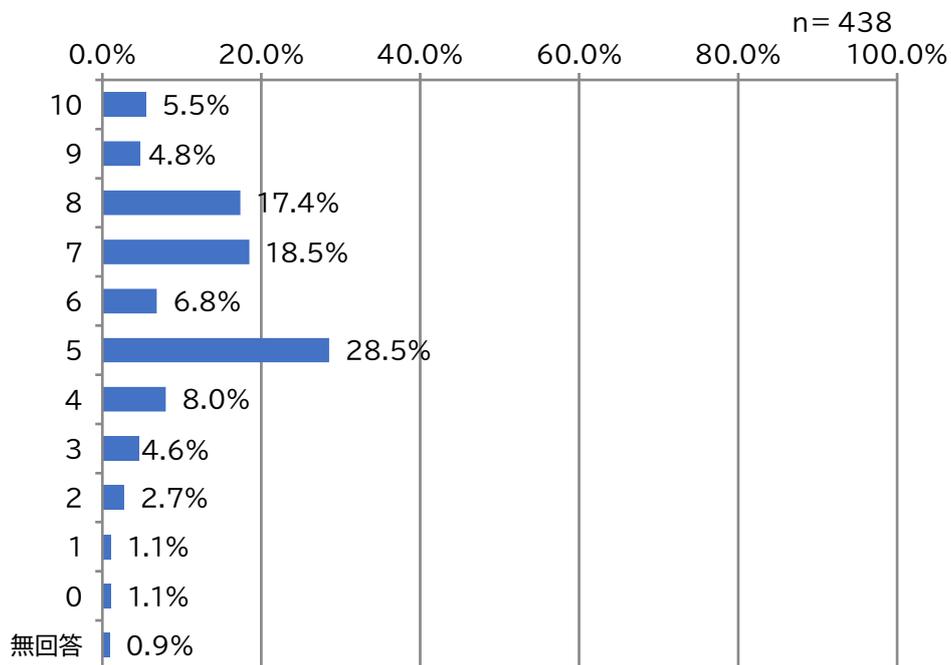
「5」が30.6%と最も多く、次いで「8」が16.7%、「7」が15.3%となっている。



Q8. 地域における幸福度・満足度についておたずねします。各項目について最も近いものを選んでください。とても幸せ = 10 ~ とても不幸 = 0

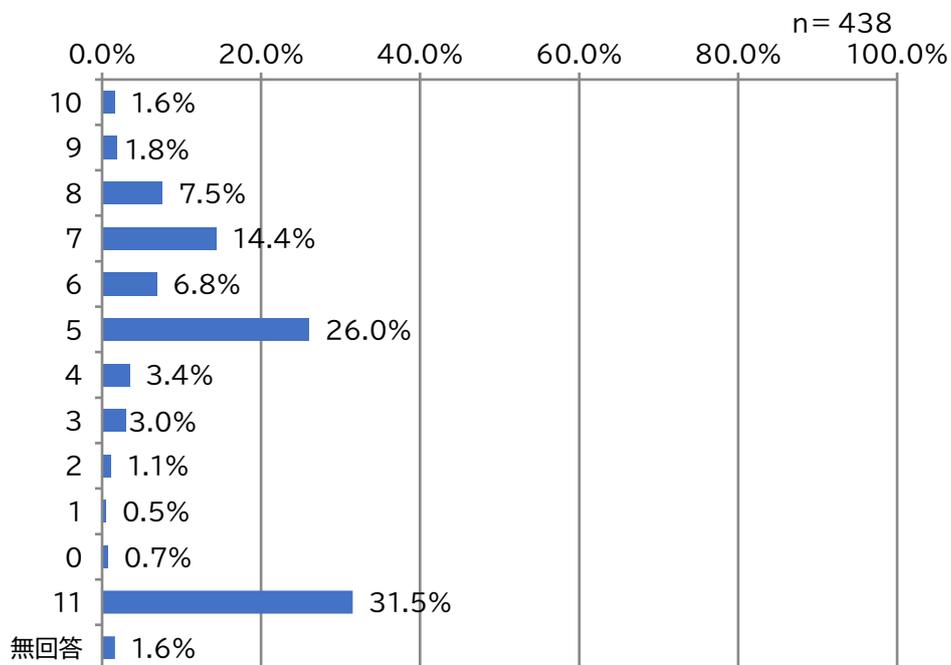
③現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか（単一選択）

「5」が28.5%と最も多く、次いで「7」が18.5%、「8」が17.4%となっている。



Q9. 地域における幸福度・満足度についておたずねします。各項目について最も近いものを選んでください。とても幸せ = 10 ~ とても不幸 = 0、(分からない=11) あなたの地区(集落)の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。(ここでは自分の同居家族は除いて考えてください。)(単一選択)

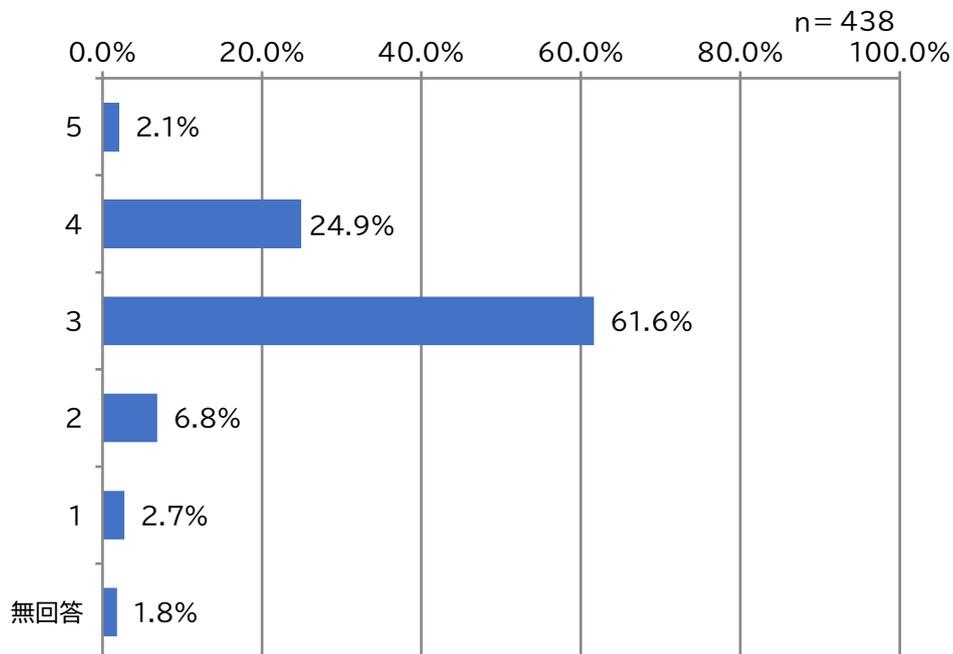
「5」が26.0%と最も多く、次いで「7」が14.4%、「8」が7.5%となっている。



Q10. 地域における幸福度・満足度についておたずねします。各項目について最も近いものを選んでください。非常にあてはまる=5、ある程度あてはまる=4、どちらとも言えない=3、あまりあてはまらない=2、全くあてはまらない=1

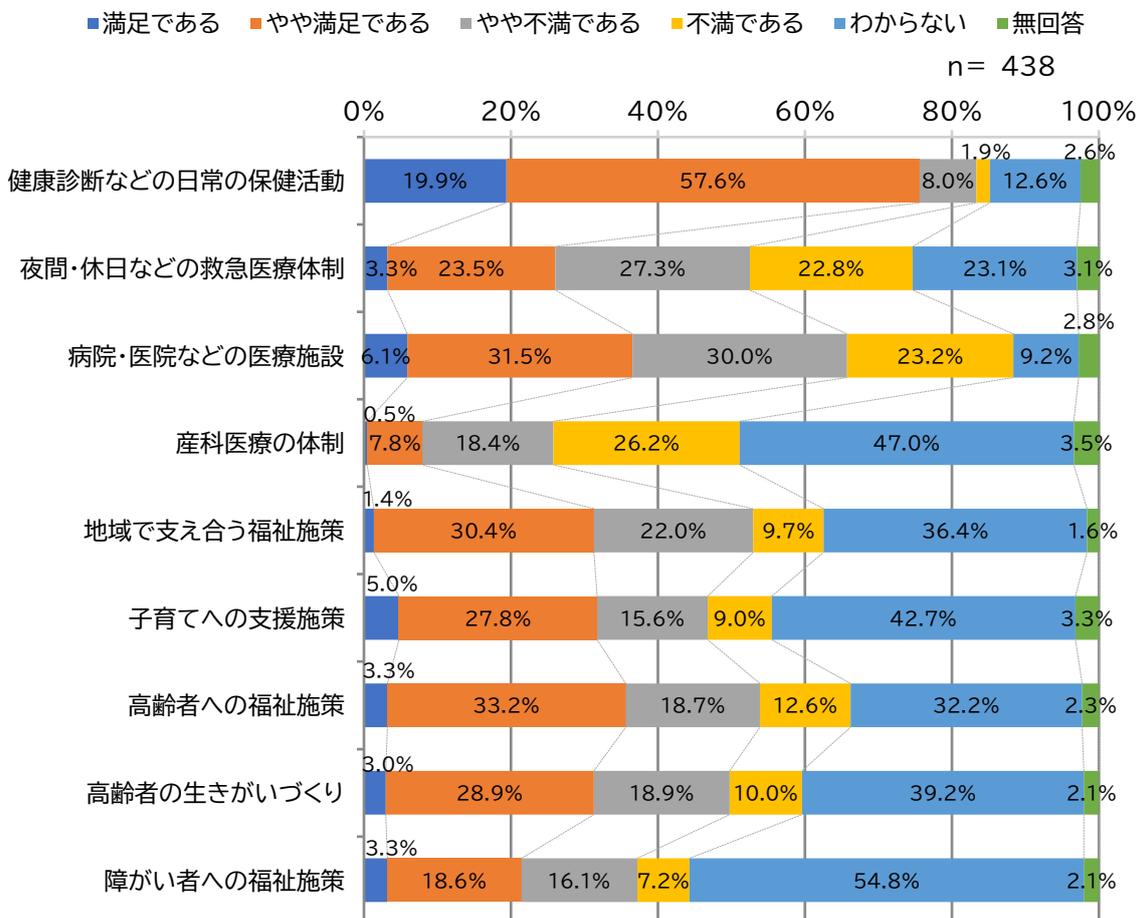
自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う（単一選択）

「3」が61.6%、「4」が24.9%、「2」が6.8%となっている。



Q11. あなたは、村の「保健・医療・福祉」に係る取組みについてどの程度満足していますか。[現在の満足度] (単一選択)

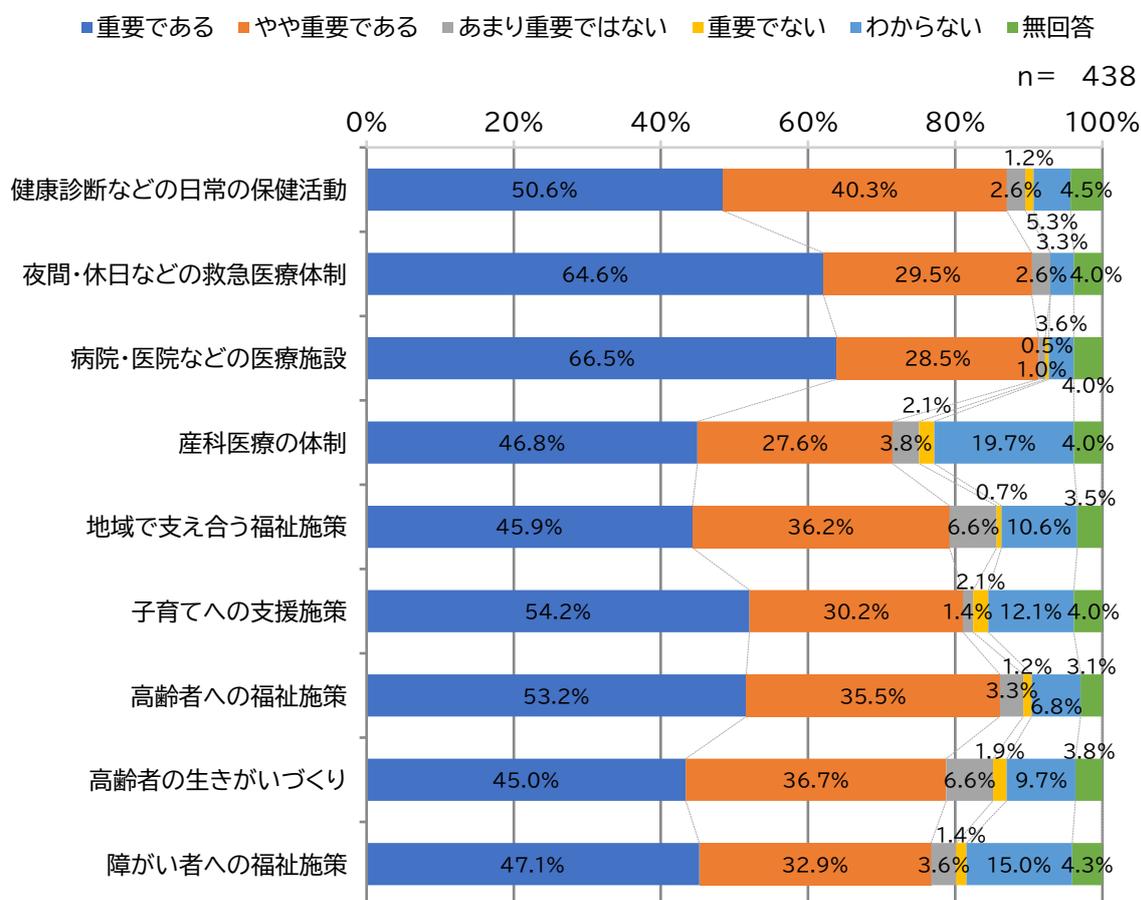
「健康診断などの日常の保健活動」では満足度が比較的高くなっており、「病院・医院などの医療施設」、「夜間・休日などの救急医療体制」、「産科医療の体制」では満足度が低くなっている。



項目	満足	不満
健康診断などの日常の保健活動	77.5%	9.8%
夜間・休日などの救急医療体制	26.8%	50.1%
病院・医院などの医療施設	37.6%	53.3%
産科医療の体制	8.3%	44.7%
地域で支え合う福祉施策	31.8%	31.8%
子育てへの支援施策	32.8%	24.5%
高齢者への福祉施策	36.4%	31.3%
高齢者の生きがいづくり	31.9%	28.9%
障がい者への福祉施策	21.9%	23.3%

Q12. あなたは、村の「保健・医療・福祉」に係る取組みについて、今後どの程度重要だと思いますか。[今後の重要度]（単一選択）

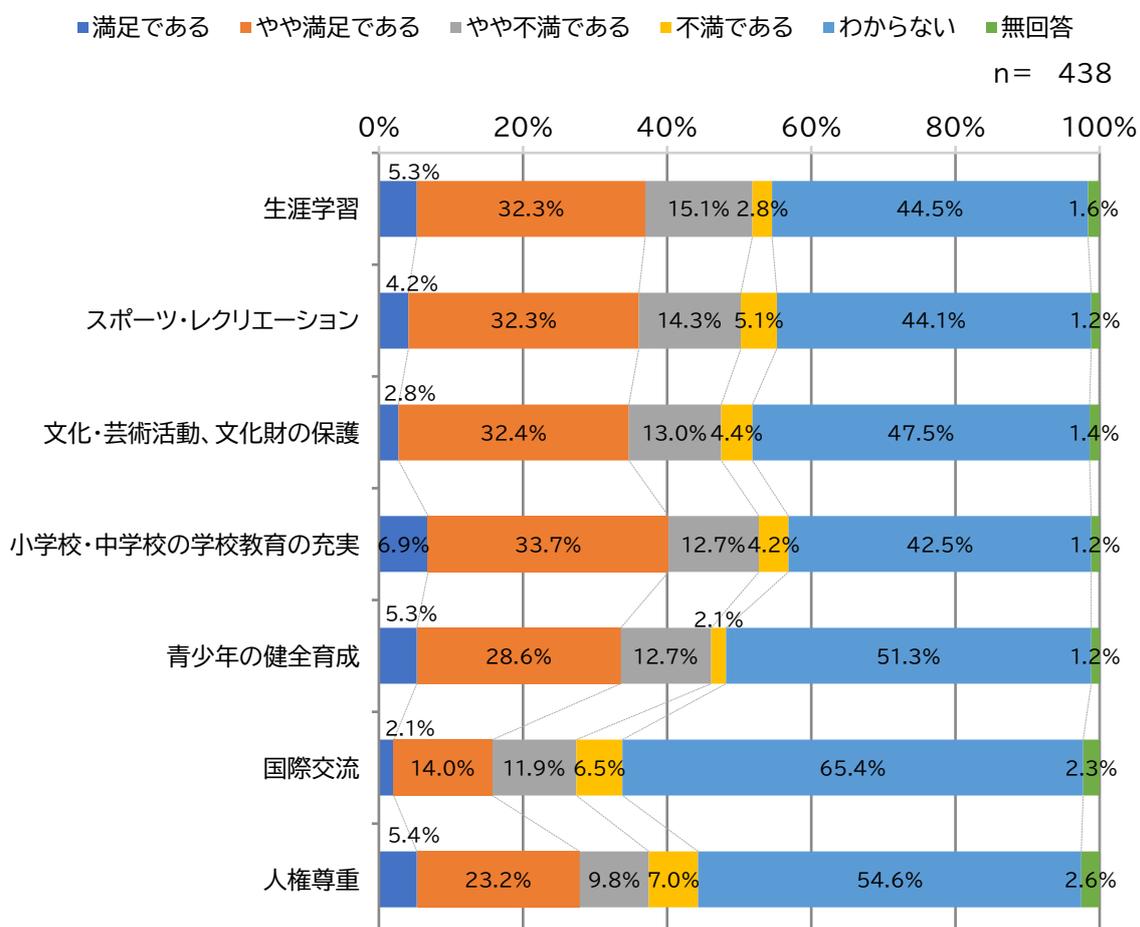
重要度はいずれの項目でも高くなっており、特に「夜間・休日などの救急医療体制」は現在の満足度が低い、重要度が高いため、対策が求められる。



項目	重要である	重要でない
健康診断などの日常の保健活動	90.9%	3.8%
夜間・休日などの救急医療体制	94.1%	2.6%
病院・医院などの医療施設	95.0%	1.4%
産科医療の体制	74.3%	5.9%
地域で支え合う福祉施策	82.0%	7.3%
子育てへの支援施策	84.3%	3.6%
高齢者への福祉施策	88.7%	4.5%
高齢者の生きがいづくり	81.8%	8.5%
障がい者への福祉施策	80.0%	5.0%

Q13. あなたは、村の「教育・文化」に係る取組みについてどの程度満足していますか。[現在の満足度]（単一選択）

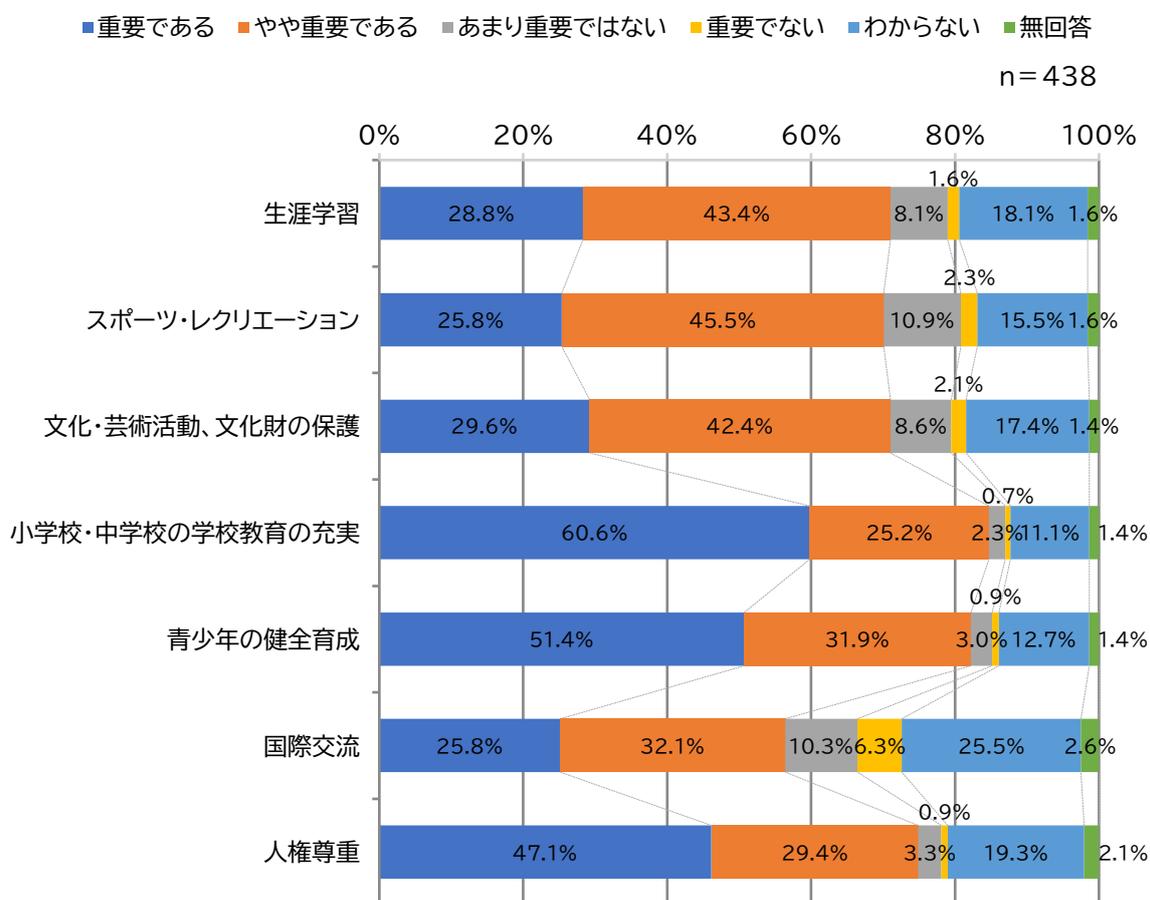
「小学校・中学校の学校教育の充実」では満足度が比較的高くなっており、「国際交流」では満足度が低くなっている。



項目	満足	不満
生涯学習	37.6%	17.9%
スポーツ・レクリエーション	36.5%	19.4%
文化・芸術活動、文化財の保護	35.2%	17.4%
小学校・中学校の学校教育の充実	40.6%	16.9%
青少年の健全育成	33.9%	14.8%
国際交流	16.1%	18.5%
人権尊重	28.6%	16.9%

Q14. あなたは、村の「教育・文化」に係る取組みについてどの程度重要だと思いますか。[今後の重要度]（単一選択）

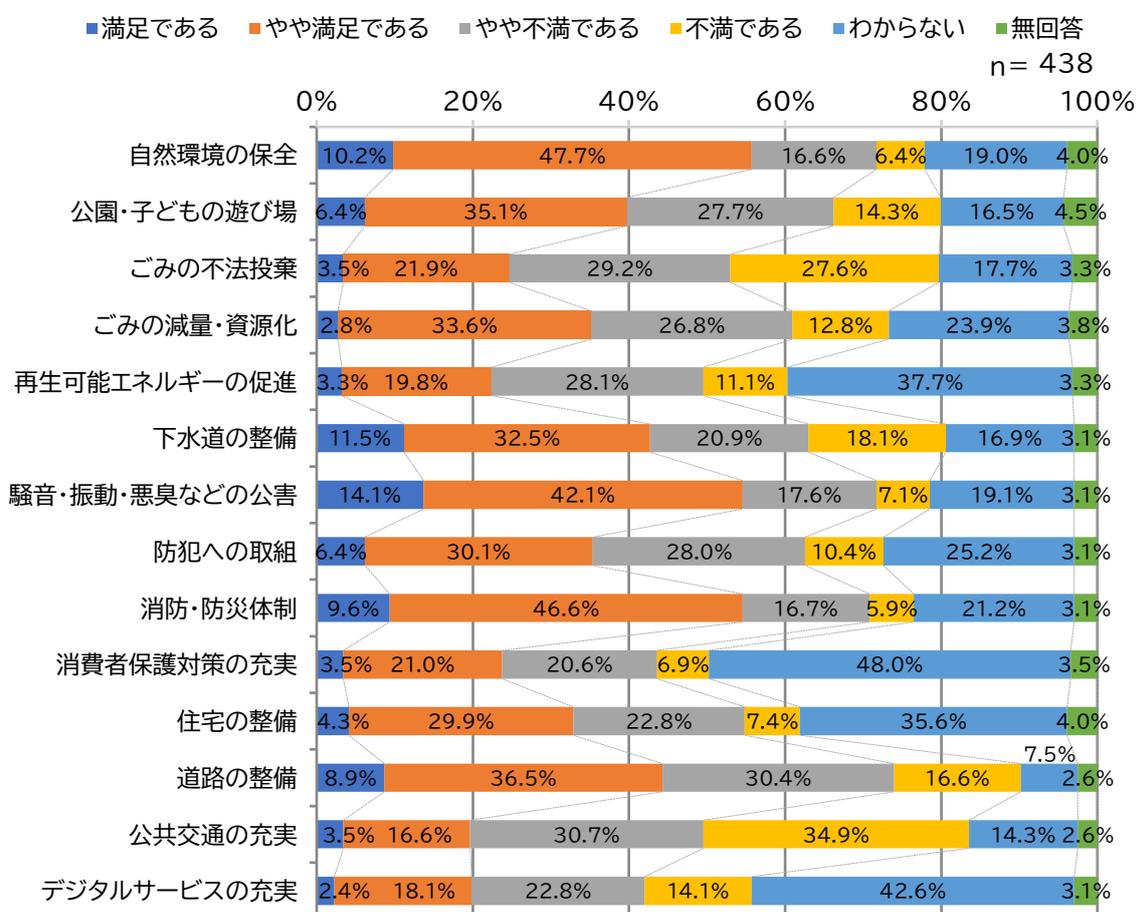
「小学校・中学校の学校教育の充実」、「青少年の健全育成」では重要度が比較的高くなっており、「国際交流」では重要度が低くなっている。



項目	重要である	重要でない
生涯学習	72.2%	9.7%
スポーツ・レクリエーション	71.2%	13.2%
文化・芸術活動、文化財の保護	72.0%	10.6%
小学校・中学校の学校教育の充実	85.9%	3.0%
青少年の健全育成	83.3%	3.9%
国際交流	57.8%	16.6%
人権尊重	76.5%	4.2%

Q15. あなたは、村の「生活環境」に係る取組みについてどの程度満足していますか。[現在の満足度]（単一選択）

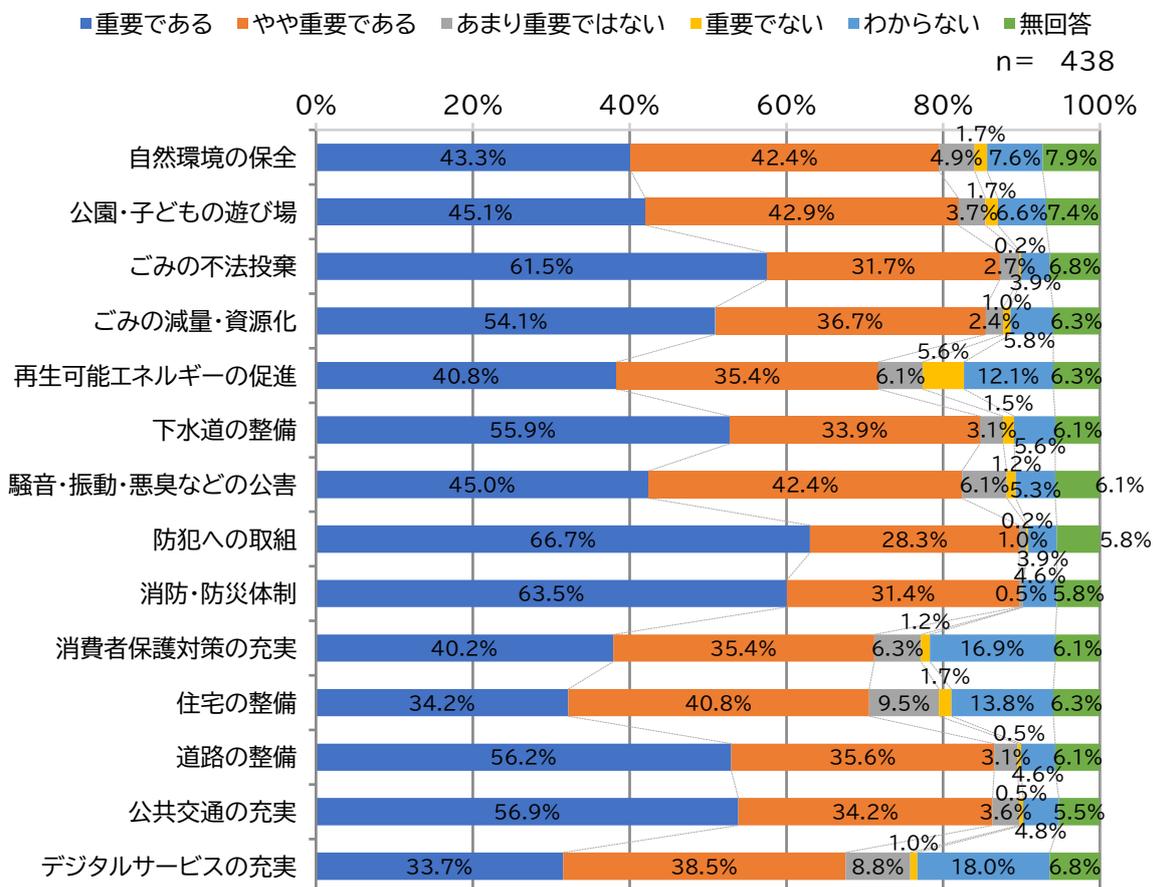
「道路の整備」、「自然環境の保全」、「消防・防災体制」では満足度が高くなっており、デジタルサービスの充実」、「消費者保護対策の充実」、「公共交通の充実」では満足度が低くなっている。



項目	満足	不満
自然環境の保全	64.4%	25.4%
公園・子どもの遊び場	62.8%	30.8%
ごみの不法投棄	51.2%	45.3%
ごみの減量・資源化	60.4%	36.7%
再生可能エネルギーの促進	47.9%	48.8%
下水道の整備	53.4%	35.1%
騒音・振動・悪臭などの公害	59.8%	26.1%
防犯への取組	58.1%	35.5%
消防・防災体制	63.3%	27.1%
消費者保護対策の充実	41.6%	54.8%
住宅の整備	52.7%	43.0%
道路の整備	67.0%	24.1%
公共交通の充実	47.3%	49.2%
デジタルサービスの充実	40.9%	56.7%

Q16. あなたは、村の「生活環境」に係る取組みについてどの程度重要だと思いますか。(※)
 再生可能エネルギーとは、太陽光や風力といった地球環境に負荷の少ない自然界のエネルギー
 のことです。[今後の重要度] (単一選択)

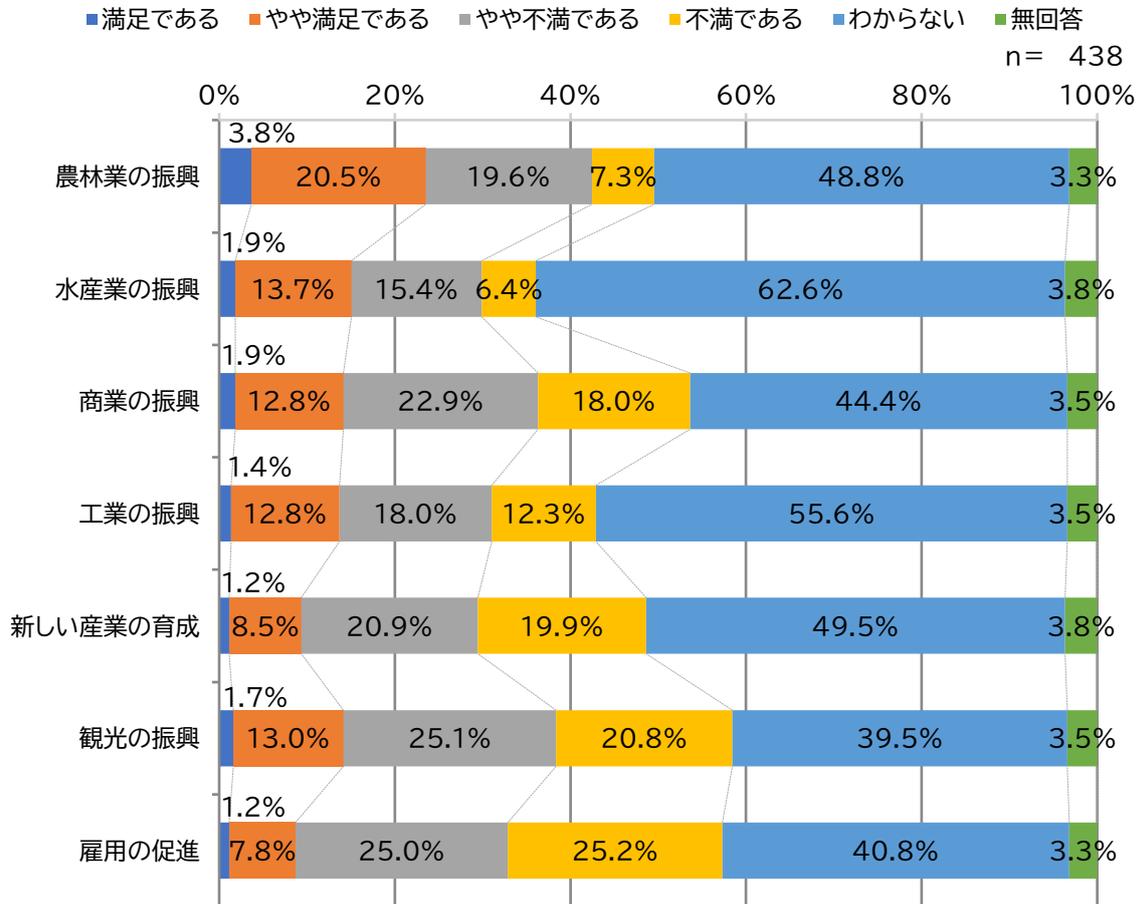
重要度はいずれの項目でも高くなっており、特に「公共交通の充実」は現在の満足度が低い
 が、重要度が高いため、対策が求められる。



項目	重要である	重要でない
自然環境の保全	85.7%	6.7%
公園・子どもの遊び場	88.0%	5.4%
ごみの不法投棄	93.2%	2.9%
ごみの減量・資源化	90.8%	3.4%
再生可能エネルギーの促進	76.2%	11.7%
下水道の整備	89.8%	4.6%
騒音・振動・悪臭などの公害	87.4%	7.3%
防犯への取組	94.9%	1.2%
消防・防災体制	94.9%	0.5%
消費者保護対策の充実	75.5%	7.5%
住宅の整備	75.0%	11.2%
道路の整備	91.8%	3.6%
公共交通の充実	91.1%	4.1%
デジタルサービスの充実	72.2%	9.8%

Q17. あなたは、村の「産業・雇用」に係る取組みについてどの程度満足していますか。[現在の満足度]（単一選択）

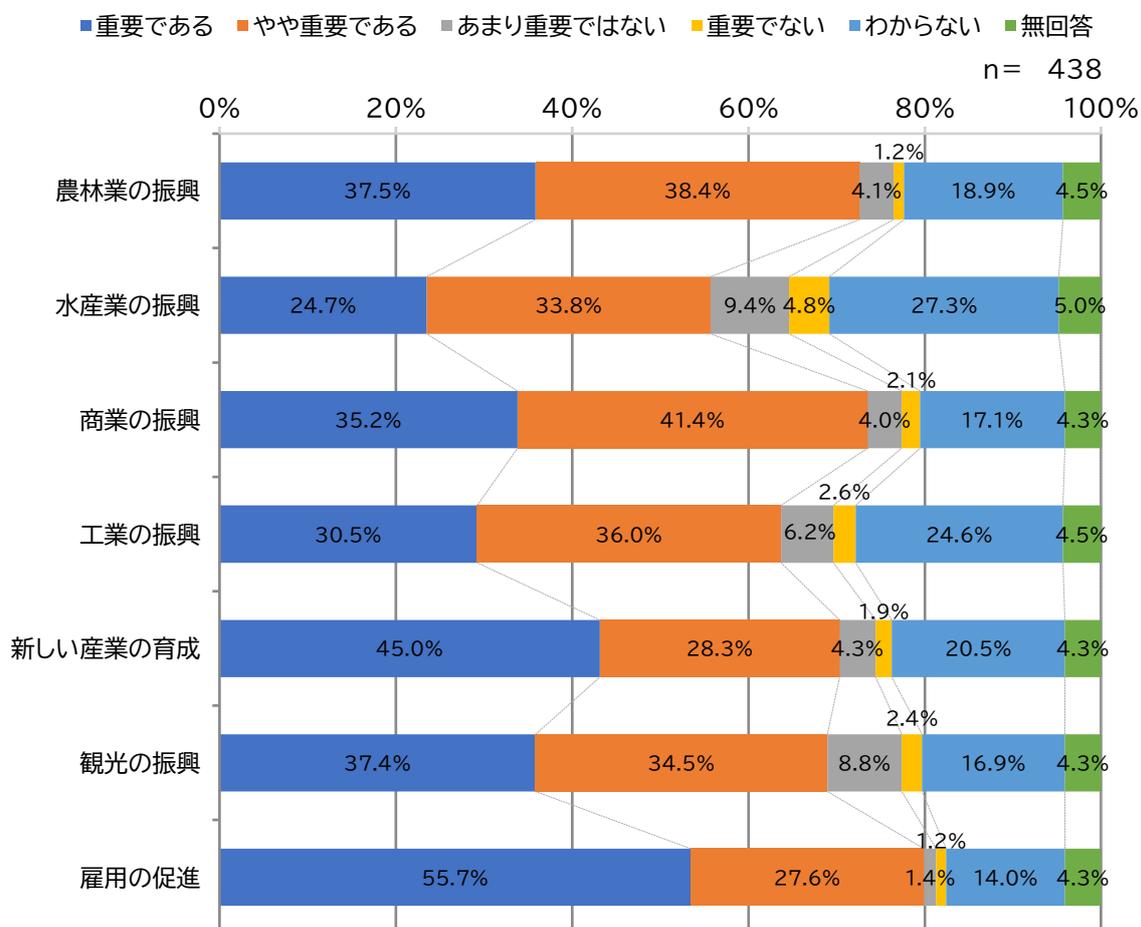
いずれの項目でも満足度が低くなっている。「農林業の振興」では満足度が比較的高くなっており、「雇用の促進」、「観光の振興」、「新しい産業の育成」では満足度が低くなっている。



項目	満足	不満
農林業の振興	24.3%	26.9%
水産業の振興	15.6%	21.8%
商業の振興	14.7%	40.9%
工業の振興	14.2%	30.3%
新しい産業の育成	9.7%	40.8%
観光の振興	14.7%	45.9%
雇用の促進	9.0%	50.2%

Q18. あなたは、村の「産業・雇用」に係る取組みについてどの程度重要だと思いますか。[今後の重要度]（単一選択）

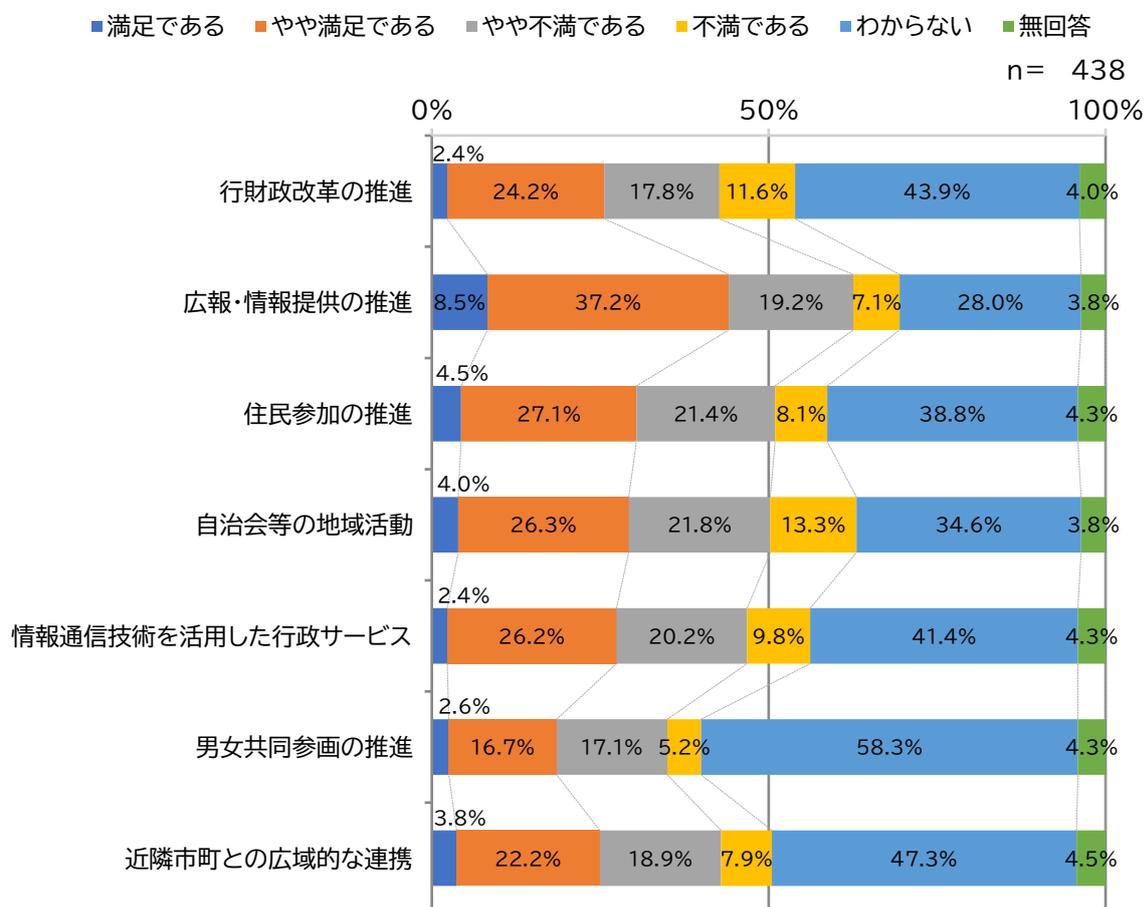
重要度はいずれの項目でも高くなっており、特に「雇用の促進」は現在の満足度が低いが、重要度が高いため、対策が求められる。



項目	重要である	重要でない
農林業の振興	75.9%	5.3%
水産業の振興	58.5%	14.1%
商業の振興	76.7%	6.2%
工業の振興	66.6%	8.8%
新しい産業の育成	73.3%	6.2%
観光の振興	71.9%	11.2%
雇用の促進	83.3%	2.6%

Q19. あなたは、村の「行政・村民参加」に係る取組みについてどの程度満足していますか。
 [現在の満足度] (単一選択)

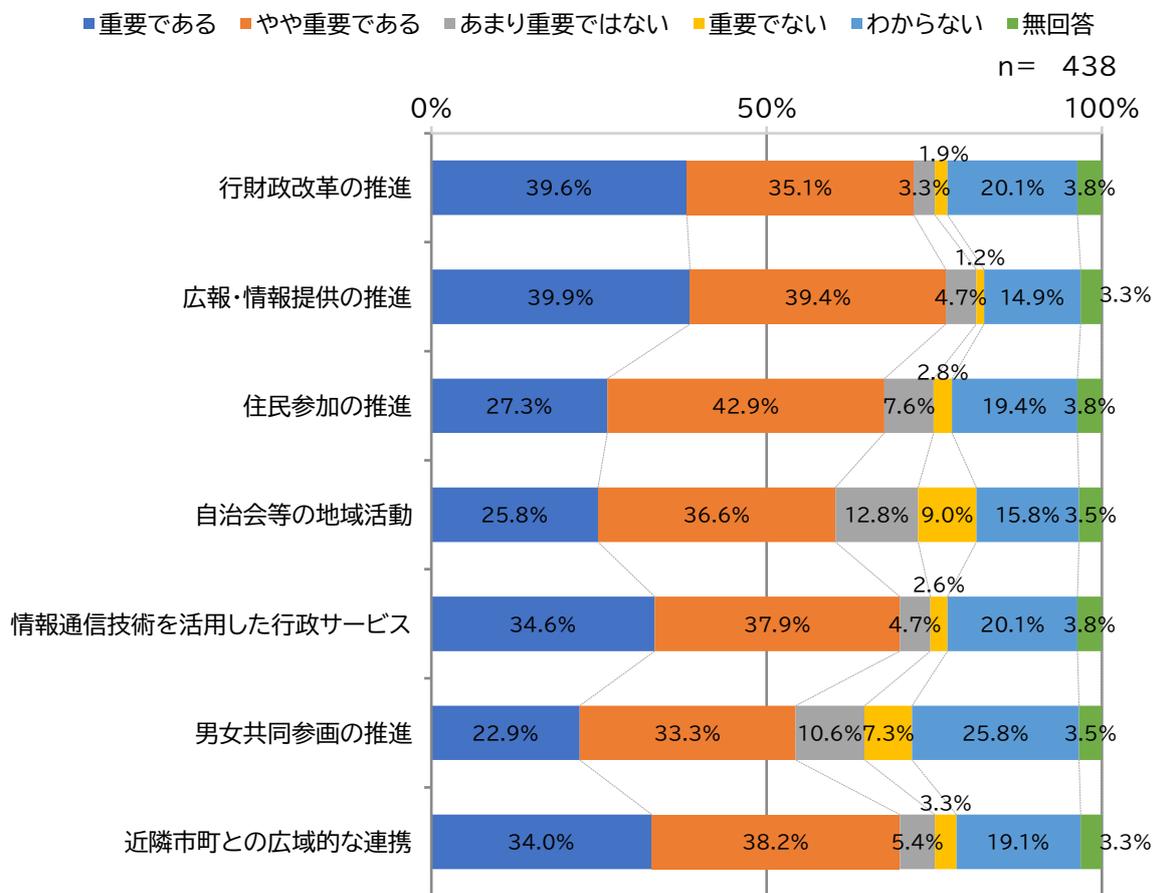
「広報・情報提供の推進」では満足度が高くなっているが、「自治会等の地域活動」、「情報通信技術を活用した行政サービス」、「行財政改革の推進」、「男女共同参画の推進」では比較的満足度が低くなっている。



項目	満足	不満
行財政改革の推進	26.6%	29.5%
広報・情報提供の推進	45.7%	26.3%
住民参加の推進	31.7%	29.5%
自治会等の地域活動	30.3%	35.1%
情報通信技術を活用した行政サービス	28.6%	30.0%
男女共同参画の推進	19.3%	22.4%

Q20. あなたは、村の「行政・村民参加」に係る取組みについてどの程度重要だと思いますか。[今後の重要度]

重要度はいずれの項目でも高くなっており、特に「行財政改革の推進」は現在の満足度が低い
が、重要度が高いため、対策が求められる。



項目	重要である	重要でない
行財政改革の推進	74.6%	5.2%
広報・情報提供の推進	79.2%	44.1%
住民参加の推進	70.1%	50.5%
自治会等の地域活動	62.4%	49.4%
情報通信技術を活用した行政サービス	72.5%	42.7%
男女共同参画の推進	56.3%	44.0%

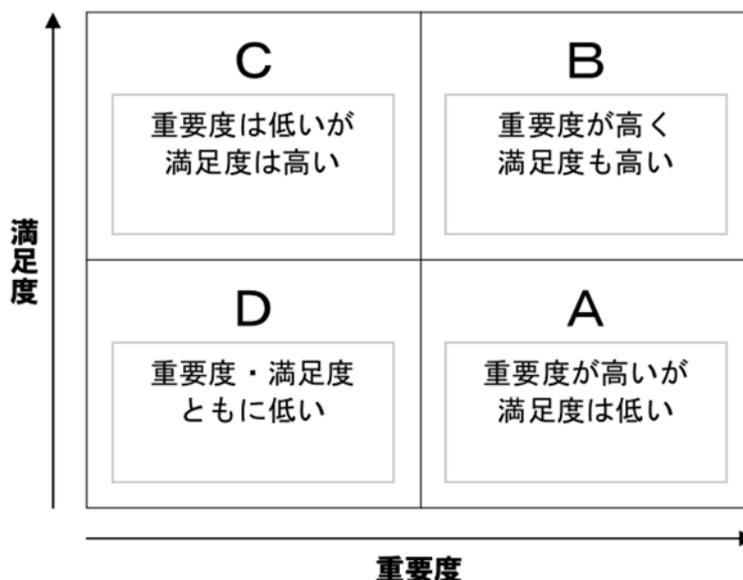
Q11-Q20 満足度・重要度の相関

○満足度・重要度について加重平均値の算出を行っている。算出方法は次の通りである。

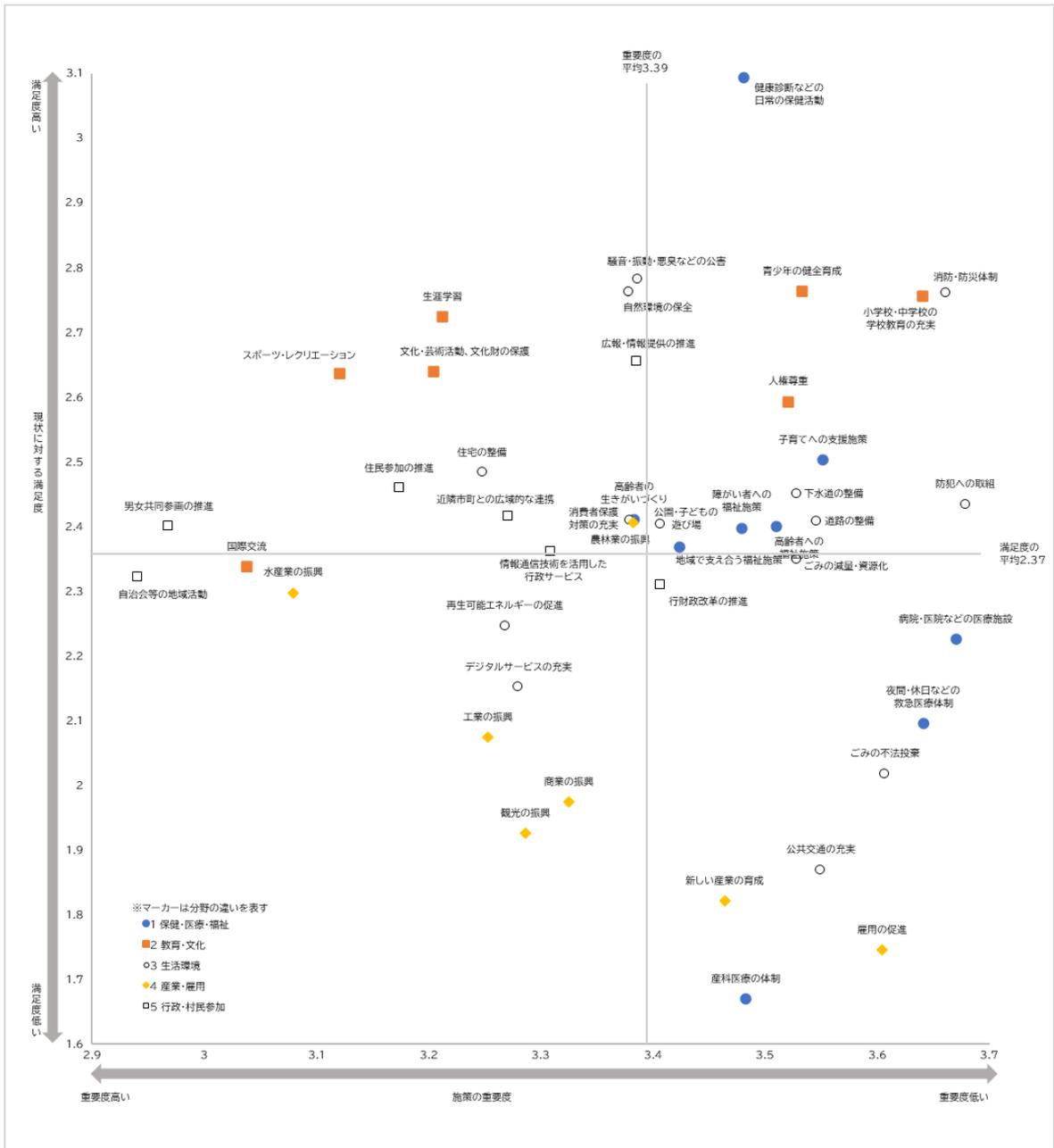
- A 「満足である（重要である）」回答者数
- B 「やや満足である（やや重要である）」回答者数
- C 「やや不満である（あまり重要でない）」回答者数
- D 「不満である（重要でない）」回答者数

$$\text{加重平均値} = \frac{(A \times 4 \text{点}) + (B \times 3 \text{点}) + (C \times 2 \text{点}) + (D \times 1 \text{点})}{\text{点}}$$

○満足度を縦軸、重要度を横軸に設定した時に、各施策の満足度と重要度の相関関係は、次のように整理することができる。



○相関関係図の各ブロックに位置づけられた施策は次のとおりである。



1 保健・医療・福祉	満足度	重要度
健康診断などの日常の保健活動	3.09	3.48
夜間・休日などの救急医療体制	2.09	3.64
病院・医院などの医療施設	2.22	3.67
産科医療の体制	1.67	3.48
地域で支え合う福祉施策	2.37	3.42
子育てへの支援施策	2.50	3.55
高齢者への福祉施策	2.40	3.51
高齢者の生きがいづくり	2.41	3.38
障がい者への福祉施策	2.40	3.48

3 生活環境	満足度	重要度
自然環境の保全	2.76	3.38
公園・子どもの遊び場	2.40	3.41
ごみの不法投棄	2.02	3.61
ごみの減量・資源化	2.35	3.53
再生可能エネルギーの促進	2.25	3.27
下水道の整備	2.45	3.53
騒音・振動・悪臭などの公害	2.78	3.39
防犯への取組	2.43	3.68
消防・防災体制	2.76	3.66
消費者保護対策の充実	2.41	3.38
住宅の整備	2.48	3.25
道路の整備	2.41	3.55
公共交通の充実	1.87	3.55
デジタルサービスの充実	2.15	3.28

2 教育・文化	満足度	重要度
生涯学習	2.72	3.21
スポーツ・レクリエーション	2.64	3.12
文化・芸術活動、文化財の保護	2.64	3.20
小学校・中学校の学校教育の充実	2.76	3.64
青少年の健全育成	2.76	3.53
国際交流	2.34	3.04
人権尊重	2.59	3.52

4 産業・雇用	満足度	重要度
農林業の振興	2.41	3.38
水産業の振興	2.30	3.08
商業の振興	1.97	3.32
工業の振興	2.07	3.25
新しい産業の育成	1.82	3.46
観光の振興	1.93	3.29
雇用の促進	1.75	3.60

5 行政・村民参加	満足度	重要度
行財政改革の推進	2.31	3.41
広報・情報提供の推進	2.65	3.39
住民参加の推進	2.46	3.17
自治会等の地域活動	2.32	2.94
情報通信技術を活用した行政サービス	2.36	3.31
男女共同参画の推進	2.40	2.97
近隣市町との広域的な連携	2.42	3.27

Aブロック（重要度が高いが、満足度は低い）10 施策

重要度が高いが、満足度は低いAブロックに位置づけられた10 施策は、優先度の高い施策であり、改善に取り組むことで、住民の評価につながりやすい取組みと考えられる。保健・医療・福祉、生活環境、産業・雇用、行政・村民参加の分野の施策に多くなっている。

- | | |
|----------------|-----------|
| 1 保健・医療・福祉 | 4 産業・雇用 |
| 夜間・休日などの救急医療体制 | 新しい産業の育成 |
| 病院・医院などの医療施設 | 雇用の促進 |
| 産科医療の体制 | 5 行政・村民参加 |
| 地域で支え合う福祉施策 | 行財政改革の推進 |
| 3 生活環境 | |
| ごみの不法投棄 | |
| ごみの減量・資源化 | |
| 公共交通の充実 | |

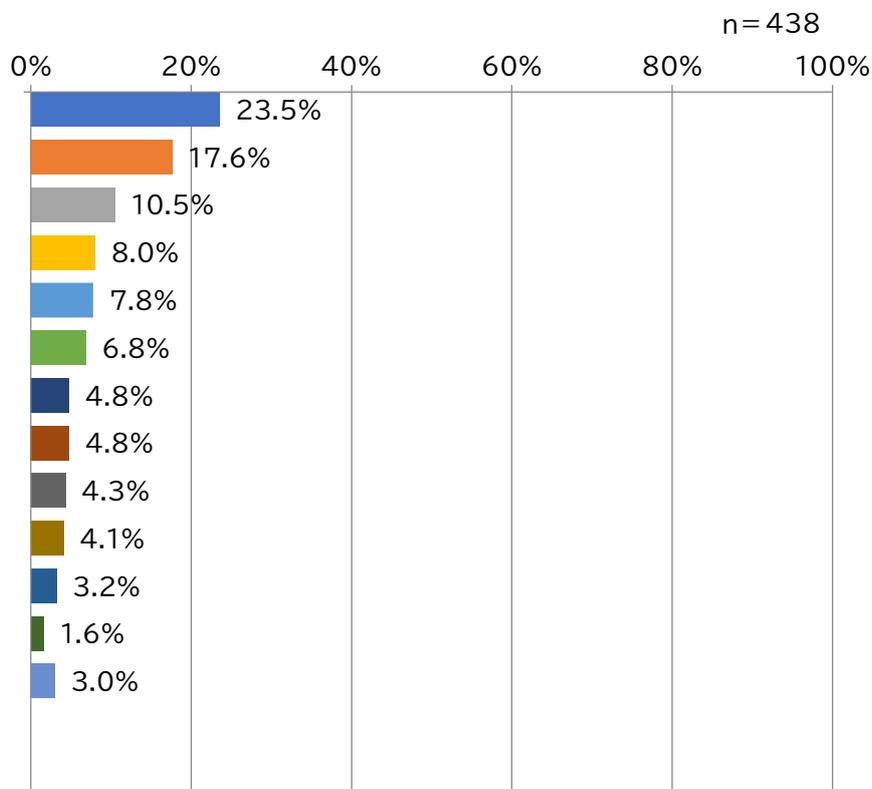
Bブロック（重要度が高く、満足度も高い）12 施策

重要度が高く、満足度も高いブロックに位置づけられた12 施策は、これまでの施策や活動が評価を得ていると考えられる。本村の強みや魅力として期待できる取組みである。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1 保健・医療・福祉 | 3 生活環境 |
| 健康診断などの日常の保健活動 | 講演・子どもの遊び場 |
| 子育てへの支援施策 | 下水道の整備 |
| 高齢者への福祉施策 | 防犯への取組 |
| 障がい者への福祉施策 | 消防・防災体制 |
| 2 教育・文化 | 道路の整備 |
| 小学校・中学校の学校教育の充実 | |
| 青少年の健全育成 | |
| 人権尊重 | |

Q21. あなたは、年齢を重ねても、住みなれた地域で暮らしていくために、どのような施策が重要だと思いますか。第1位から第3位までを回答してください。1位（単一選択）

「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が23.5%と最も多く、次いで「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が17.6%、「医療機関と介護施設の連携強化」が10.5%となっている。



- 日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上
- 高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実
- 医療機関と介護施設の連携強化
- 老人福祉施設や有料老人ホームなど入所施設の充実
- 訪問介護、通所介護など介護サービスの充実
- 健康づくりや介護予防の推進
- 身近な地域での交流の場づくりの推進
- 相談窓口の充実
- 高齢者にやさしい道路や施設の整備促進
- ボランティアや見守り、声かけなど地域で支えあう活動の促進
- 趣味、教養を高める活動の場の充実
- その他
- 無回答

その他回答内容
移動手段の確保
海岸の活用
高齢者が働くことの出来る機会や場の充実
子育て環境の充実
治安のよい街づくり
車の運転が出来なくなった時の対策（茂原のモバス（市民バス）の様な）
就労場所の確保→人口増→活性化（都市基盤整備）
中間層への手厚いサポート
田畑を売れること
年金でも生活ができる様に（自宅・施設でも）
農業
買い物、通院などのためのオンデマンドタクシーの低料金、時間制限のない交通整備
免許返納しても交通移動が不更でない事

【クロス集計】

性別では、いずれも「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が20%以上で最も多く、次いで「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が15%以上で多かった。

年齢別では、20代～50代・65～69歳で「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が最も多く、60～64歳・70～74歳・75歳以上は「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が最も多かった。次いで、20代・50代は「医療機関と介護施設の連携強化」が10%以上、30代・40代は「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が10%以上（30代は「医療機関と介護施設の連携強化」と同率）、60～64歳・75歳以上は「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」で20.6%、65～69歳は「健康づくりや介護予防の推進」で14.0%、70～74歳は「訪問介護、通所介護など介護サービスの充実」で15%以上と多かった。

※10代はサンプル数が5のため分析対象外とする。

地区別では、すべての地区で「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が20%以上で最も多かった。次いで、「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が15%以上で多かった。その他選択肢について、大きな傾向の違いは見られなかった。

世帯構成別では、単身世帯・二世帯世帯で「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が20%以上、夫婦のみの世帯で「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が20.8%、三世帯世帯で「健康づくりや介護予防の推進」及び「医療機関と介護施設の連携強化」が21.6%で最も多かった。次いで、単身世帯・二世帯世帯で「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が15%以上、夫婦のみの世帯で「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が16.8%で多かった。

18歳以下の子ども有の人は、「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が26.3%で最も多く、次いで「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が17.2%で多かった。

居住期間別では、(Uターンしてきて10年以上)以外の人は「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が20%以上で多く、Uターンしてきて10年以上の人は「高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実」が26.5%で最も多かった。

は各属性で最も数値が高いもの は各属性で2番目に数値が高いもの

		総数	高齢者が知識・技能等を生かし、働くことのできる機会や場の充実	趣味、教養を高める活動の場の充実	身近な地域での交流の場づくりの推進	健康づくりや介護予防の推進	高齢者にやさしい道路や施設の整備促進	日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上
性別	男性	198	38	8	14	10	12	43
		100.0%	19.2%	4.0%	7.1%	5.1%	6.1%	21.7%
	女性	206	34	5	7	18	4	54
		100.0%	16.5%	2.4%	3.4%	8.7%	1.9%	26.2%
年齢	10代	5	1	0	0	2	0	2
		100.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	40.0%
	20代	32	2	2	2	1	2	14
		100.0%	6.3%	6.3%	6.3%	3.1%	6.3%	43.8%
	30代	46	6	3	4	1	2	15
		100.0%	13.0%	6.5%	8.7%	2.2%	4.3%	32.6%
	40代	56	10	3	4	7	1	11
		100.0%	17.9%	5.4%	7.1%	12.5%	1.8%	19.6%
	50代	73	13	1	2	1	3	17
		100.0%	17.8%	1.4%	2.7%	1.4%	4.1%	23.3%
60～64歳	34	10	2	1	0	1	7	
	100.0%	29.4%	5.9%	2.9%	0.0%	2.9%	20.6%	
65～69歳	50	6	0	2	7	0	14	
	100.0%	12.0%	0.0%	4.0%	14.0%	0.0%	28.0%	
70～74歳	53	10	1	3	5	5	7	
	100.0%	18.9%	1.9%	5.7%	9.4%	9.4%	13.2%	
75歳以上	66	17	2	3	5	3	14	
	100.0%	25.8%	3.0%	4.5%	7.6%	4.5%	21.2%	
地区	八積地区	179	27	7	11	8	4	44
		100.0%	15.1%	3.9%	6.1%	4.5%	2.2%	24.6%
	高根地区	138	25	3	6	13	8	29
100.0%		18.1%	2.2%	4.3%	9.4%	5.8%	21.0%	
一松地区	93	23	4	4	8	4	27	
	100.0%	24.7%	4.3%	4.3%	8.6%	4.3%	29.0%	
世帯構成	単身世帯	47	8	4	1	1	2	10
		100.0%	17.0%	8.5%	2.1%	2.1%	4.3%	21.3%
	夫婦のみの世帯	101	21	1	4	9	5	17
		100.0%	20.8%	1.0%	4.0%	8.9%	5.0%	16.8%
二世帯世帯	214	37	9	13	10	9	66	
	100.0%	17.3%	4.2%	6.1%	4.7%	4.2%	30.8%	
三世帯世帯	37	5	0	2	8	1	5	
	100.0%	13.5%	0.0%	5.4%	21.6%	2.7%	13.5%	
18歳以下の子ども有		99	17	3	6	8	3	26
		100.0%	17.2%	3.0%	6.1%	8.1%	3.0%	26.3%
居住期間	生まれたときから	115	19	4	3	12	6	28
		100.0%	16.5%	3.5%	2.6%	10.4%	5.2%	24.3%
	Uターンしてきて5年未満	10	1	3	0	0	0	3
		100.0%	10.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.0%
	Uターンしてきて10年未満	11	4	0	1	0	0	4
		100.0%	36.4%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	36.4%
	Uターンしてきて10年以上	49	13	2	4	2	1	12
100.0%		26.5%	4.1%	8.2%	4.1%	2.0%	24.5%	
転入してきて5年未満	20	1	0	2	2	1	7	
	100.0%	5.0%	0.0%	10.0%	10.0%	5.0%	35.0%	
転入してきて10年未満	17	2	2	1	0	1	5	
	100.0%	11.8%	11.8%	5.9%	0.0%	5.9%	29.4%	
転入してきて10年以上	198	36	3	9	14	10	43	
	100.0%	18.2%	1.5%	4.5%	7.1%	5.1%	21.7%	

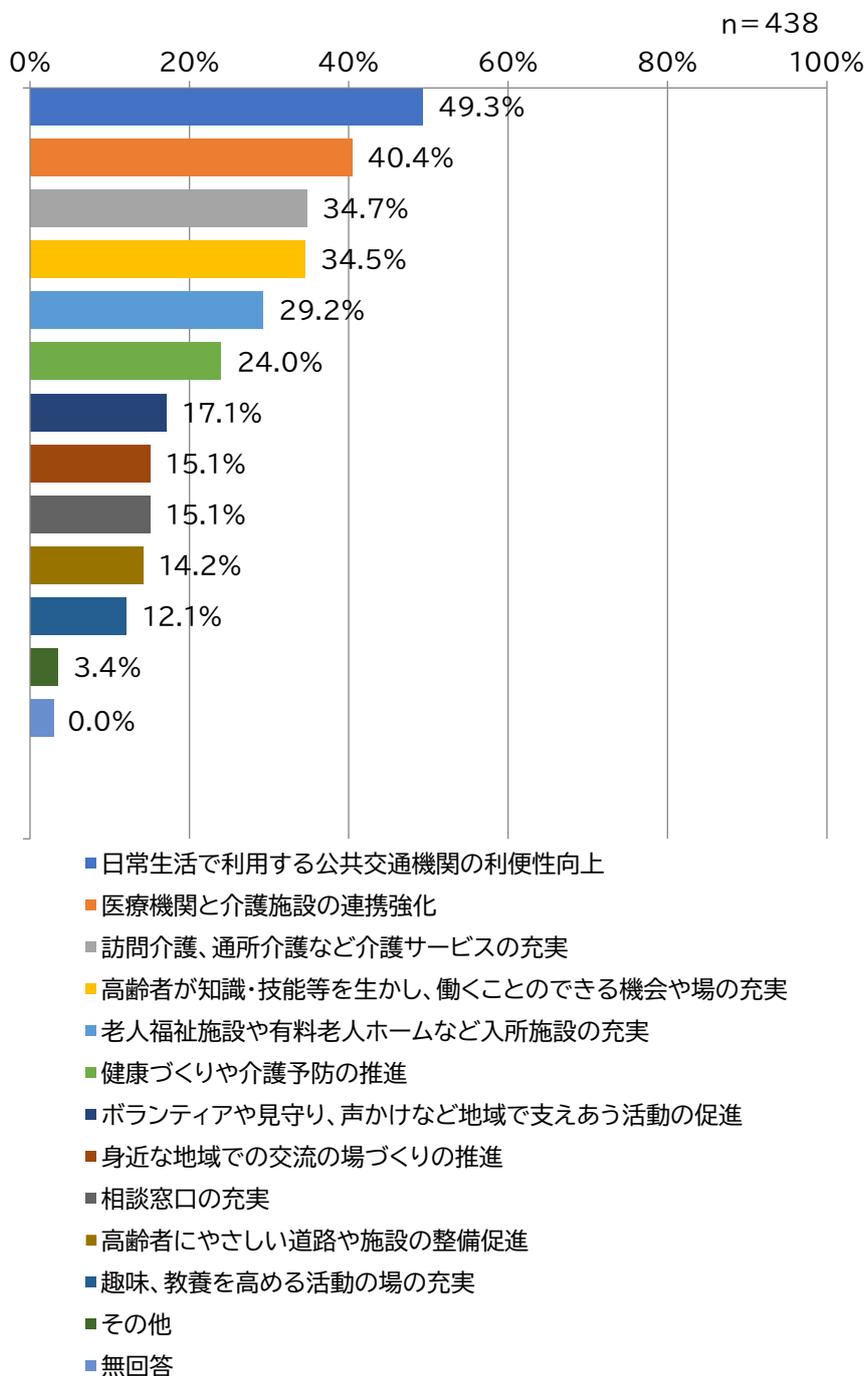
(表の続き)

は各属性で最も数値が高いもの は各属性で2番目に数値が高いもの

		総数	ボランティアや見守り、声かけなど地域で支えあう活動の促進	訪問介護、通所介護など介護サービスの充実	老人福祉施設や有料老人ホームなど入所施設の充実	医療機関と介護施設の連携強化	相談窓口の充実	その他
性別	男性	198	5	18	15	24	7	4
		100.0%	2.5%	9.1%	7.6%	12.1%	3.5%	2.0%
	女性	206	13	15	19	21	13	3
		100.0%	6.3%	7.3%	9.2%	10.2%	6.3%	1.5%
年齢	10代	5	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	32	1	1	2	4	1	0
		100.0%	3.1%	3.1%	6.3%	12.5%	3.1%	0.0%
	30代	46	1	1	6	4	1	2
		100.0%	2.2%	2.2%	13.0%	8.7%	2.2%	4.3%
	40代	56	3	5	1	8	2	1
		100.0%	5.4%	8.9%	1.8%	14.3%	3.6%	1.8%
	50代	73	4	4	7	14	4	3
		100.0%	5.5%	5.5%	9.6%	19.2%	5.5%	4.1%
60～64歳	34	2	3	4	2	2	0	
	100.0%	5.9%	8.8%	11.8%	5.9%	5.9%	0.0%	
65～69歳	50	2	5	4	6	4	0	
	100.0%	4.0%	10.0%	8.0%	12.0%	8.0%	0.0%	
70～74歳	53	3	8	2	4	4	1	
	100.0%	5.7%	15.1%	3.8%	7.5%	7.5%	1.9%	
75歳以上	66	2	6	8	3	3	0	
	100.0%	3.0%	9.1%	12.1%	4.5%	4.5%	0.0%	
地区	八積地区	179	10	14	18	24	10	2
		100.0%	5.6%	7.8%	10.1%	13.4%	5.6%	1.1%
	高根地区	138	7	11	11	14	8	3
100.0%		5.1%	8.0%	8.0%	10.1%	5.8%	2.2%	
一松地区	93	1	7	5	7	1	2	
	100.0%	1.1%	7.5%	5.4%	7.5%	1.1%	2.2%	
世帯構成	単身世帯	47	2	4	4	8	2	1
		100.0%	4.3%	8.5%	8.5%	17.0%	4.3%	2.1%
	夫婦のみの世帯	101	4	10	10	7	11	2
		100.0%	4.0%	9.9%	9.9%	6.9%	10.9%	2.0%
二世帯世帯	214	10	14	15	21	6	4	
	100.0%	4.7%	6.5%	7.0%	9.8%	2.8%	1.9%	
三世帯世帯	37	2	3	3	8	0	0	
	100.0%	5.4%	8.1%	8.1%	21.6%	0.0%	0.0%	
18歳以下の子ども有		99	7	5	8	12	1	3
		100.0%	7.1%	5.1%	8.1%	12.1%	1.0%	3.0%
居住期間	生まれたときから	115	5	8	10	14	5	1
		100.0%	4.3%	7.0%	8.7%	12.2%	4.3%	0.9%
	Uターンしてきて5年未満	10	0	0	2	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	Uターンしてきて10年未満	11	0	0	1	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%
	Uターンしてきて10年以上	49	0	6	3	5	1	0
		100.0%	0.0%	12.2%	6.1%	10.2%	2.0%	0.0%
転入してきて5年未満	20	1	0	0	3	1	2	
	100.0%	5.0%	0.0%	0.0%	15.0%	5.0%	10.0%	
転入してきて10年未満	17	2	0	0	2	1	1	
	100.0%	11.8%	0.0%	0.0%	11.8%	5.9%	5.9%	
転入してきて10年以上	198	10	20	18	20	12	3	
	100.0%	5.1%	10.1%	9.1%	10.1%	6.1%	1.5%	

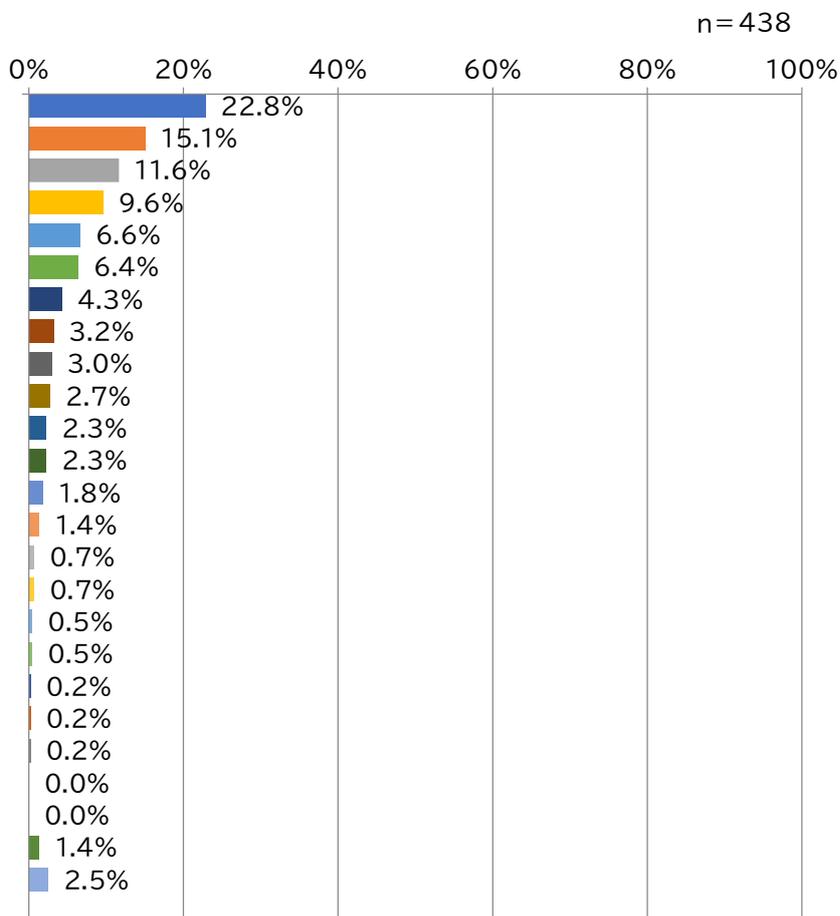
Q21. あなたは、年齢を重ねても、住みなれた地域で暮らしていくために、どのような施策が重要だと思いますか。第1位から第3位までを回答してください。(第1位から第3位までを合算)

「日常生活で利用する公共交通機関の利便性向上」が49.3%と最も多く、次いで「医療機関と介護施設の連携強化」が40.4%、「訪問介護、通所介護など介護サービスの充実」が34.7%となっている。



Q22. あなたは、今後、どのような施策に特に力を入れて欲しいと思いますか。第1位から第3位までを回答してください。1位（単一選択）

「子どもを産み育てやすい環境づくり」が22.8%と最も多く、次いで「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が15.1%、「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が11.6%となっている。



- 子どもを産み育てやすい環境づくり
- 若者の定住、就業を促進する環境づくり
- 防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり
- 公共交通が発達したまちづくり
- 高齢者や障がいのある人が暮らしやすい福祉の拡充
- 元気に暮らせる健康づくりの取組みや医療の充実
- 住民の視点に立った行政サービスが展開されるまちづくり
- 財政の効率的な運営による安定的なまちづくり
- 地域の特性等を活かした商工業の活性化
- 地産地消の推進や農業の振興
- 幹線道路が発達したまちづくり
- 次代を担う人材育成のための学校教育の充実
- 長生村らしい景観を活かしたまちづくり
- 住民と行政の協働によるまちづくり
- ふれあいや連帯感があるコミュニティ活動の活性化
- 若者が活躍しやすいまちづくり
- 男女が等しく、個性と能力を発揮できる環境づくり
- リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組が盛んなまちづくり
- 地域資源の利用による観光・交流のまちづくり
- 水辺空間など自然の魅力づくり
- 村政の情報発信・情報公開が充実したまちづくり
- 環境保全やリサイクルなどに配慮したまちづくり
- 生涯学習、地域スポーツなど社会教育活動の活性化
- その他
- 無回答

その他回答内容
よそ者（ここで生れていない）の感じる時があり
移住希望者が増えるような施策のある町づくり。一ノ宮やいすみに劣っている。24-2 観光者が来てお金を使う町づくり
教育に特化したまちづくり
行政サービス、自治会活動へのフリーライドがない村 ●利と責任を理解した住民、民度の高い村を創るセ策
自然環境が良い事、不耕地が多い事などから、移住促進を行うべし。
世界中の人々が訪れたくなるような魅力的な（特徴のある）街作り
田畑を売れること
防犯、災害、空き家、害虫対策など 特に家の敷地外（用水路沿いなど）に雑草がすごく家がかくれて防犯対策できないです

【クロス集計】

性別では、男性は「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が20.3%で最も多く、次いで「子どもを産み育てやすい環境づくり」が18.8%で多かった。女性は、「子どもを産み育てやすい環境づくり子どもを産み育てやすい環境づくり」が28.2%で最も多く、次いで「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が13.4%で多かった。傾向が見られた選択肢として、男性では最も多い「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が女性は12.0%にとどまり、女性では2番目に多い「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が男性は8.6%にとどまった。

年齢別では、20代～40代・60～64歳は「子どもを産み育てやすい環境づくり」が25%以上、50代は「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が17.8%、65～69歳・70～74歳・75歳以上は「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が20%以上で最も多かった。次いで、20代・60～64歳は「公共交通が発達したまちづくり」が10%以上（60～64歳は「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」及び「住民の視点に立った行政サービスが展開されるまちづくり」と同率）、30代・40代・60～64歳・70～74歳は「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が8%以上、（30代・40代は「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が8%以上で同率）、50代・65～69歳、75歳以上は「子どもを産み育てやすい環境づくり」が10%以上であった。

※10代はサンプル数が少ないため分析対象外とする。

地区別では、すべての地区で「子どもを産み育てやすい環境づくり」が20%以上で最も多かった。次いで、八積地区・高根地区では「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が10%以上、一松地区では「公共交通が発達したまちづくり」が14.7%で多かった。傾向が見られた選択肢として、高根地区では「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が14.7%であった。

世帯構成別では、単身世帯・二世帯世帯・三世帯世帯で「子どもを産み育てやすい環境づくり」が10%以上で最も多く（単身世帯は「高齢者や障がいのある人が暮らしやすい福祉の拡充」が12.8%で同率）、夫婦のみの世帯で「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が22.8%で最も多かった。次いで、夫婦のみの世帯は「子どもを産み育てやすい環境づくり」が18.8%、二世帯世帯が「若者の定住、就業を促進する環境づくり」で14.0%、三世帯世帯が「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」で23.7%であった。

職業別では、いずれも「子どもを産み育てやすい環境づくり」が最も多かった。なお、【農業・林業・漁業】は「地産地消の推進や農業の振興」が25.0%、【自営業・会社経営・団体役員】は「元気に暮らせる健康づくりの取組みや医療の充実」が16.7%、【パート・アルバイト】は「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が21.4%、【学生】は「公共交通が発達したまちづくり」が28.6%で同率であった。

居住期間別では、いずれも「子どもを産み育てやすい環境づくり」が15%以上で最も多かった。次いで、生まれたときから住んでいる人・Uターンしてきて10年未満の人・Uターンしてきて10年以上の人・転入してきて10年以上は「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が15%以上、Uターンしてきて5年未満の人は「元気に暮らせる健康づくりの取組みや医療の充実」が20.0%、転入してきて5年未満の人は「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が15.0%、「転入してきて10年未満」の人は「地産地消の推進や農業の振興」が17.6%で多かった。

は各属性で最も数値が高いもの

は各属性で2番目に数値が高いもの

		総数	子どもを産み育てやすい環境づくり	防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり	地域の特性等を活かした商工業の活性化	幹線道路が発達したまちづくり	公共交通が発達したまちづくり	若者の定住、就業を促進する環境づくり	高齢者や障がいのある人が暮らしやすい福祉の拡充	元気に暮らせる健康づくりの取組みや医療の充実
性別	男性	197	37	17	6	8	19	40	11	13
		100.0%	18.8%	8.6%	3.0%	4.1%	9.6%	20.3%	5.6%	6.6%
	女性	209	59	28	6	2	21	25	17	14
		100.0%	28.2%	13.4%	2.9%	1.0%	10.0%	12.0%	8.1%	6.7%
年齢	10代	5	2	1	0	0	0	1	0	0
		100.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	20代	32	10	2	0	2	9	3	0	2
		100.0%	31.3%	6.3%	0.0%	6.3%	28.1%	9.4%	0.0%	6.3%
	30代	47	19	5	1	2	2	5	1	2
		100.0%	40.4%	10.6%	2.1%	4.3%	4.3%	10.6%	2.1%	4.3%
	40代	56	22	5	3	0	4	5	1	2
		100.0%	39.3%	8.9%	5.4%	0.0%	7.1%	8.9%	1.8%	3.6%
	50代	73	11	13	2	1	7	10	8	7
		100.0%	15.1%	17.8%	2.7%	1.4%	9.6%	13.7%	11.0%	9.6%
	60～64歳	34	10	4	0	1	4	3	2	3
		100.0%	29.4%	11.8%	0.0%	2.9%	11.8%	8.8%	5.9%	8.8%
65～69歳	50	7	2	4	3	5	10	3	5	
	100.0%	14.0%	4.0%	8.0%	6.0%	10.0%	20.0%	6.0%	10.0%	
70～74歳	52	6	10	1	0	2	12	7	2	
	100.0%	11.5%	19.2%	1.9%	0.0%	3.8%	23.1%	13.5%	3.8%	
75歳以上	68	12	5	2	1	8	16	7	4	
	100.0%	17.6%	7.4%	2.9%	1.5%	11.8%	23.5%	10.3%	5.9%	
地区	八積地区	181	42	16	7	6	16	27	15	16
		100.0%	23.2%	8.8%	3.9%	3.3%	8.8%	14.9%	8.3%	8.8%
	高根地区	136	31	20	4	3	9	29	8	6
	100.0%	22.8%	14.7%	2.9%	2.2%	6.6%	21.3%	5.9%	4.4%	
一松地区	95	25	11	2	1	14	9	5	5	
	100.0%	26.3%	11.6%	2.1%	1.1%	14.7%	9.5%	5.3%	5.3%	
世帯構成	単身世帯	47	6	3	2	3	4	5	6	4
		100.0%	12.8%	6.4%	4.3%	6.4%	8.5%	10.6%	12.8%	8.5%
	夫婦のみの世帯	101	19	7	4	3	7	23	11	9
		100.0%	18.8%	6.9%	4.0%	3.0%	6.9%	22.8%	10.9%	8.9%
二世帯世帯	215	58	27	6	4	24	30	9	14	
	100.0%	27.0%	12.6%	2.8%	1.9%	11.2%	14.0%	4.2%	6.5%	
三世帯世帯	38	14	9	0	0	4	5	1	0	
	100.0%	36.8%	23.7%	0.0%	0.0%	10.5%	13.2%	2.6%	0.0%	
18歳以下の子ども有		100	45	14	1	1	7	7	2	6
	100.0%	45.0%	14.0%	1.0%	1.0%	7.0%	7.0%	2.0%	6.0%	
職業	農業・林業・漁業	16	4	1	1	0	1	3	0	0
		100.0%	25.0%	6.3%	6.3%	0.0%	6.3%	18.8%	0.0%	0.0%
	自営業・会社経営・団体役員	30	7	3	1	0	3	1	1	5
		100.0%	23.3%	10.0%	3.3%	0.0%	10.0%	3.3%	3.3%	16.7%
	会社員・公務員	150	43	14	3	4	14	25	8	9
		100.0%	28.7%	9.3%	2.0%	2.7%	9.3%	16.7%	5.3%	6.0%
	パート・アルバイト	56	12	11	2	2	7	12	1	1
		100.0%	21.4%	19.6%	3.6%	3.6%	12.5%	21.4%	1.8%	1.8%
家事専業	31	8	4	0	0	2	6	4	3	
	100.0%	25.8%	12.9%	0.0%	0.0%	6.5%	19.4%	12.9%	9.7%	
学生	14	4	2	0	0	4	0	0	2	
	100.0%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	
無職	106	20	12	5	3	7	18	15	7	
	100.0%	18.9%	11.3%	4.7%	2.8%	6.6%	17.0%	14.2%	6.6%	
居住期間	生まれたときから	116	27	15	4	2	11	17	6	7
		100.0%	23.3%	12.9%	3.4%	1.7%	9.5%	14.7%	5.2%	6.0%
	Uターンしてきて5年未満	10	3	1	0	0	1	1	0	2
		100.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	0.0%	20.0%
	Uターンしてきて10年未満	11	4	1	1	0	1	3	0	1
		100.0%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	27.3%	0.0%	9.1%
	Uターンしてきて10年以上	49	15	4	0	3	3	9	5	1
		100.0%	30.6%	8.2%	0.0%	6.1%	6.1%	18.4%	10.2%	2.0%
転入してきて5年未満	20	8	3	0	2	0	0	1	0	
	100.0%	40.0%	15.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	
転入してきて10年未満	17	5	1	0	1	1	1	0	1	
	100.0%	29.4%	5.9%	0.0%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	5.9%	
転入してきて10年以上	199	37	26	8	2	25	32	17	16	
	100.0%	18.6%	13.1%	4.0%	1.0%	12.6%	16.1%	8.5%	8.0%	

(表の続き)

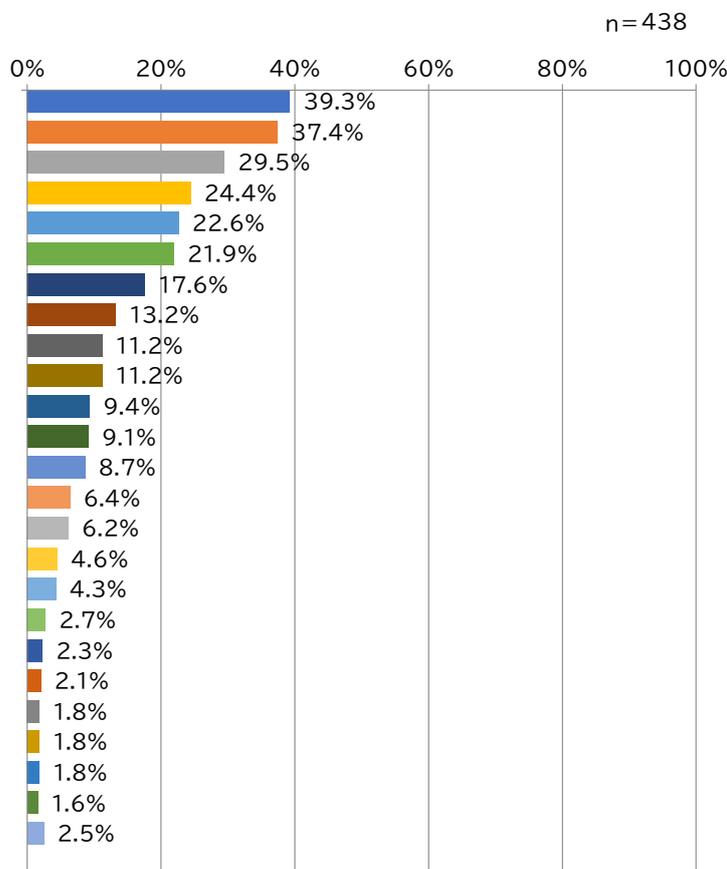
		は各属性で最も数値が高いもの				は各属性で2番目に数値が高いもの			
		地域資源の利用による観光・交流のまちづくり	地産地消の推進や農業の振興	環境保全やリサイクルなどに配慮したまちづくり	生涯学習、地域スポーツなど社会教育活動の活性化	次代を担う人材育成のための学校教育の充実	男女が等しく、個性と能力を發揮できる環境づくり	ふれあいや連帯感があるコミュニティ活動の活性化	住民と行政の協働によるまちづくり
性別	男性	0 0.0%	6 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 2.0%	1 0.5%	1 0.5%	5 2.5%
	女性	1 0.5%	5 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.9%	1 0.5%	2 1.0%	1 0.5%
年齢	10代	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	1 1.8%	2 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	1 1.8%	0 0.0%	1 1.8%
	50代	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.7%	0 0.0%	2 2.7%	0 0.0%
	60～64歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	65～69歳	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	1 2.0%
	70～74歳	0 0.0%	2 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%
	75歳以上	0 0.0%	2 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.4%
	地区	八積地区	1 0.6%	2 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	4 2.2%	1 0.6%	3 1.7%
高根地区		0 0.0%	5 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.2%
一松地区		0 0.0%	4 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.2%	1 1.1%	0 0.0%	2 2.1%
世帯構成	単身世帯	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.1%	0 0.0%	1 2.1%
	夫婦のみの世帯	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	3 3.0%
	二世帯世帯	1 0.5%	8 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 2.3%	1 0.5%	1 0.5%	2 0.9%
	三世帯世帯	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
18歳以下の子ども有		1 1.0%	3 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	1 1.0%	1 1.0%	1 1.0%
職業	農業・林業・漁業	0 0.0%	4 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	自営業・会社経営・団体役員	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%
	会社員・公務員	0 0.0%	2 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 2.7%	0 0.0%	1 0.7%	1 0.7%
	パート・アルバイト	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	1 1.8%	0 0.0%	0 0.0%
	家事専業	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.2%	0 0.0%	1 3.2%	0 0.0%
	学生	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無職	0 0.0%	2 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	5 4.7%
居住期間	生まれたときから	0 0.0%	6 5.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.7%	0 0.0%	2 1.7%	2 1.7%
	Uターンしてきて5年未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	Uターンしてきて10年未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	Uターンしてきて10年以上	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.1%
	転入してきて5年未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	転入してきて10年未満	0 0.0%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%
	転入してきて10年以上	1 0.5%	2 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 3.0%	1 0.5%	1 0.5%	2 1.0%

(表の続き)

		は各属性で最も数値が高いもの					は各属性で2番目に数値が高いもの			
		水辺空間 など自然 の魅力づ くり	長生村らし い景観を 活かしたま ちづくり	財政の効 率的な運 営による 安定的な まちづくり	村政の情 報発信・情 報公開が 充実したま ちづくり	住民の視 点に立っ た行政 サービスが 展開され るまちづく り	若者が活 躍しやすい まちづくり	リサイクル や再生可 能エネル ギー活用 等、環境へ の取組が 盛んなまち づくり	その他	
性別	男性	0 0.0%	5 2.5%	8 4.1%	0 0.0%	12 6.1%	0 0.0%	1 0.5%	3 1.5%	
	女性	1 0.5%	2 1.0%	6 2.9%	0 0.0%	7 3.3%	3 1.4%	1 0.5%	3 1.4%	
年齢	10代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	20代	0 0.0%	2 6.3%	1 3.1%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	30代	0 0.0%	0 0.0%	4 8.5%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	40代	0 0.0%	2 3.6%	2 3.6%	0 0.0%	3 5.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	
	50代	0 0.0%	1 1.4%	2 2.7%	1 1.4%	2 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.1%	
	60～64歳	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%	4 11.8%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	
	65～69歳	0 0.0%	1 2.0%	1 2.0%	0 0.0%	4 8.0%	1 2.0%	1 2.0%	0 0.0%	
	70～74歳	0 0.0%	2 3.8%	2 3.8%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	
	75歳以上	1 1.5%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	2 2.9%	0 0.0%	1 1.5%	2 2.9%	
	地区	八積地区	1 0.6%	4 2.2%	6 3.3%	0 0.0%	11 6.1%	1 0.6%	0 0.0%	1 0.6%
高根地区		0 0.0%	0 0.0%	5 3.7%	0 0.0%	5 3.7%	2 1.5%	2 1.5%	2 1.5%	
一松地区		0 0.0%	4 4.2%	3 3.2%	0 0.0%	3 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.2%	
世帯構成	単身世帯	0 0.0%	1 2.1%	2 4.3%	0 0.0%	3 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.3%	
	夫婦のみの世帯	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	6 5.9%	2 2.0%	1 1.0%	3 3.0%	
	二世帯世帯	0 0.0%	6 2.8%	9 4.2%	0 0.0%	9 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	
	三世帯世帯	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	1 2.6%	0 0.0%	
18歳以下の子ども有		0 0.0%	2 2.0%	3 3.0%	0 0.0%	4 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
職業	農業・林業・漁業	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	自営業・会社 経営・団体役員	0 0.0%	1 3.3%	3 10.0%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%	
	会社員・公務員	0 0.0%	4 2.7%	7 4.7%	0 0.0%	8 5.3%	1 0.7%	1 0.7%	1 0.7%	
	パート・アルバイト	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	3 5.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.6%	
	家事専業	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.2%	1 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	
	学生	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無職	1 0.9%	3 2.8%	2 1.9%	0 0.0%	2 1.9%	1 0.9%	1 0.9%	1 0.9%	
居住期間	生まれたときから	0 0.0%	3 2.6%	7 6.0%	0 0.0%	5 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	Uターンしてきて 5年未満	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	Uターンしてきて 10年未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	Uターンしてきて 10年以上	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	
	転入してきて 5年未満	0 0.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	1 5.0%	1 5.0%	1 5.0%	
	転入してきて 10年未満	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	
	転入してきて 10年以上	0 0.0%	2 1.0%	4 2.0%	1 0.5%	11 5.5%	1 0.5%	1 0.5%	3 1.5%	

Q22. あなたは、今後、どのような施策に特に力を入れて欲しいと思いますか。第1位から第3位までを回答してください。(第1位から第3位までを合算)

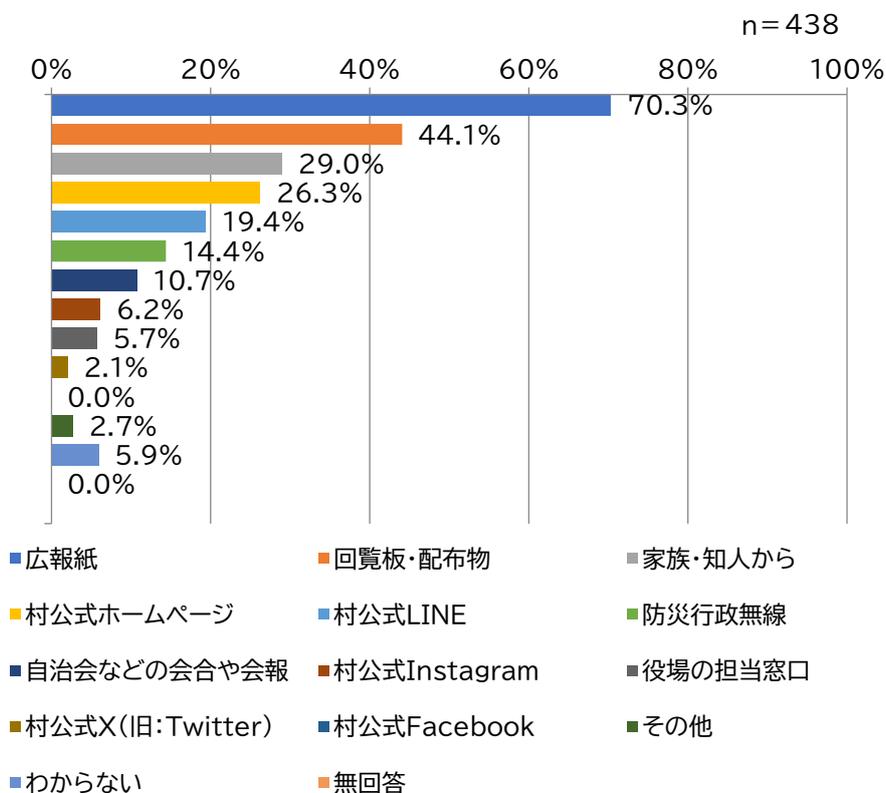
「子どもを産み育てやすい環境づくり」が39.3%と最も多く、次いで「若者の定住、就業を促進する環境づくり」が37.4%、「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」が29.5%となっている。



- 子どもを産み育てやすい環境づくり
- 若者の定住、就業を促進する環境づくり
- 防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり
- 公共交通が発達したまちづくり
- 高齢者や障がいのある人が暮らしやすい福祉の拡充
- 元気に暮らせる健康づくりの取組みや医療の充実
- 住民の視点に立った行政サービスが展開されるまちづくり
- 長生村らしい景観を活かしたまちづくり
- 地産地消の推進や農業の振興
- 財政の効率的な運営による安定的なまちづくり
- 次代を担う人材育成のための学校教育の充実
- 地域の特性等を活かした商工業の活性化
- 若者が活躍しやすいまちづくり
- 住民と行政の協働によるまちづくり
- 幹線道路が発達したまちづくり
- ふれあいや連帯感があるコミュニティ活動の活性化
- 地域資源の利用による観光・交流のまちづくり
- 生涯学習、地域スポーツなど社会教育活動の活性化
- 水辺空間など自然の魅力づくり
- その他
- 環境保全やリサイクルなどに配慮したまちづくり
- 男女が等しく、個性と能力を発揮できる環境づくり
- リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組が盛んなまちづくり
- 村政の情報発信・情報公開が充実したまちづくり
- 無回答

Q23. あなたは、村から発信される行政情報やイベント情報、サービスなどの情報について、主にどのようなところから得ていますか。(複数選択可)

「広報紙」が70.6%と最も多く、次いで「回覧板・配布物」が44.3%、「家族・知人から」が29.1%となっている。



その他回答内容
chosei-vil@raidan.kataiwork.jp
あまが台公園
こども園・学校
交流センター利用時に掲示板など
自治会に入っていないため皆無
自治会等入っていないしさそわれない
情報が来ない
村からの email
八積駅のポスター

【クロス集計】

性別では、大きな差は見られなかった。

年齢別では、いずれも「広報誌」が50%以上で最も多かった。次いで、20代・40代は「家族・知人から」が40%以上、30代は「村公式ホームページ」が38.3%、50代・60～64歳・65～69歳・70～74歳・75歳以上は「回覧版・配布物」が35%以上で多かった。

※10代はサンプル数が少ないため分析対象外とする。

地区別では、すべての地区で「広報誌」が60%以上で最も多かった。次いで、八積地区・一松地区では「回覧版・配布物」が40%以上、高根地区では「村公式ホームページ」が35.9%で多かった。

世帯構成別では、いずれも「広報誌」が65%以上で最も多かった。次いで、「回覧版・配布物」が35%以上で多かった。

18歳以下の子ども有の世帯では、「広報誌」が最も多く、次いで、「村公式LINE」が「回覧版・配布物」と同率だった。

居住期間別では、いずれも「広報誌」が50%以上で最も多かった（Uターンしてきて10年未満の人・転入してきて10年未満の人は「回覧版・配布物」がそれぞれ54.5%、52.9%で同率）。次いで、生まれたときから居住している人・Uターンしてきて5年未満の人・Uターンしてきて10年未満の人・Uターンしてきて10年以上の人・転入してきて10年以上の人は「回覧版・配布物」が35%以上（Uターンしてきて10年未満の人は「回覧版・配布物」が54.5%で同率）で多く、転入してきて5年未満の人・転入してきて10年未満の人は「村公式ホームページ」及び「家族・知人から」が25.0%以上で多かった。

は各属性で最も数値が高いもの は各属性で2番目に数値が高いもの

		総数	広報紙	回覧板・配布物	村公式ホームページ	村公式LINE	村公式X(旧:Twitter)	村公式Facebook	村公式Instagram
性別	男性	199	142	95	54	37	4	0	9
		100.0%	71.4%	47.7%	27.1%	18.6%	2.0%	0.0%	4.5%
	女性	214	156	85	55	46	4	0	16
		100.0%	72.9%	39.7%	25.7%	21.5%	1.9%	0.0%	7.5%
年齢	10代	5	4	0	2	0	0	0	0
		100.0%	80.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	32	22	9	6	6	0	0	3
		100.0%	68.8%	28.1%	18.8%	18.8%	0.0%	0.0%	9.4%
	30代	47	25	12	18	12	6	0	8
		100.0%	53.2%	25.5%	38.3%	25.5%	12.8%	0.0%	17.0%
	40代	56	33	11	18	19	0	0	8
		100.0%	58.9%	19.6%	32.1%	33.9%	0.0%	0.0%	14.3%
	50代	74	51	37	17	16	1	0	7
		100.0%	68.9%	50.0%	23.0%	21.6%	1.4%	0.0%	9.5%
	60~64歳	34	28	13	10	5	0	0	0
		100.0%	82.4%	38.2%	29.4%	14.7%	0.0%	0.0%	0.0%
65~69歳	51	38	27	17	15	1	0	0	
	100.0%	74.5%	52.9%	33.3%	29.4%	2.0%	0.0%	0.0%	
70~74歳	53	43	31	15	8	0	0	0	
	100.0%	81.1%	58.5%	28.3%	15.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
75歳以上	72	60	45	10	4	0	0	0	
	100.0%	83.3%	62.5%	13.9%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
地区	八積地区	182	127	83	43	36	3	0	11
		100.0%	69.8%	45.6%	23.6%	19.8%	1.6%	0.0%	6.0%
	高根地区	142	104	43	51	33	4	0	8
100.0%		73.2%	30.3%	35.9%	23.2%	2.8%	0.0%	5.6%	
	一松地区	95	68	56	19	16	1	0	7
		100.0%	71.6%	58.9%	20.0%	16.8%	1.1%	0.0%	7.4%
世帯構成	単身世帯	49	33	19	11	7	0	0	1
		100.0%	67.3%	38.8%	22.4%	14.3%	0.0%	0.0%	2.0%
	夫婦のみの世帯	104	75	54	26	22	2	0	1
		100.0%	72.1%	51.9%	25.0%	21.2%	1.9%	0.0%	1.0%
二世帯世帯	216	157	82	67	48	6	0	20	
	100.0%	72.7%	38.0%	31.0%	22.2%	2.8%	0.0%	9.3%	
三世帯世帯	39	27	20	6	7	0	0	2	
	100.0%	69.2%	51.3%	15.4%	17.9%	0.0%	0.0%	5.1%	
18歳以下の子ども有		101	67	35	34	35	2	0	13
		100.0%	66.3%	34.7%	33.7%	34.7%	2.0%	0.0%	12.9%
居住期間	生まれたときから	119	87	64	28	25	3	0	7
		100.0%	73.1%	53.8%	23.5%	21.0%	2.5%	0.0%	5.9%
	Uターンしてきて5年未満	10	6	5	0	3	0	0	0
		100.0%	60.0%	50.0%	0.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	Uターンしてきて10年未満	11	6	6	4	3	0	0	4
		100.0%	54.5%	54.5%	36.4%	27.3%	0.0%	0.0%	36.4%
	Uターンしてきて10年以上	49	33	18	15	16	1	0	4
		100.0%	67.3%	36.7%	30.6%	32.7%	2.0%	0.0%	8.2%
転入してきて5年未満	20	12	4	5	4	1	0	3	
	100.0%	60.0%	20.0%	25.0%	20.0%	5.0%	0.0%	15.0%	
転入してきて10年未満	17	9	1	9	4	3	0	2	
	100.0%	52.9%	5.9%	52.9%	23.5%	17.6%	0.0%	11.8%	
転入してきて10年以上	204	153	89	53	30	1	0	7	
	100.0%	75.0%	43.6%	26.0%	14.7%	0.5%	0.0%	3.4%	

(表の続き)

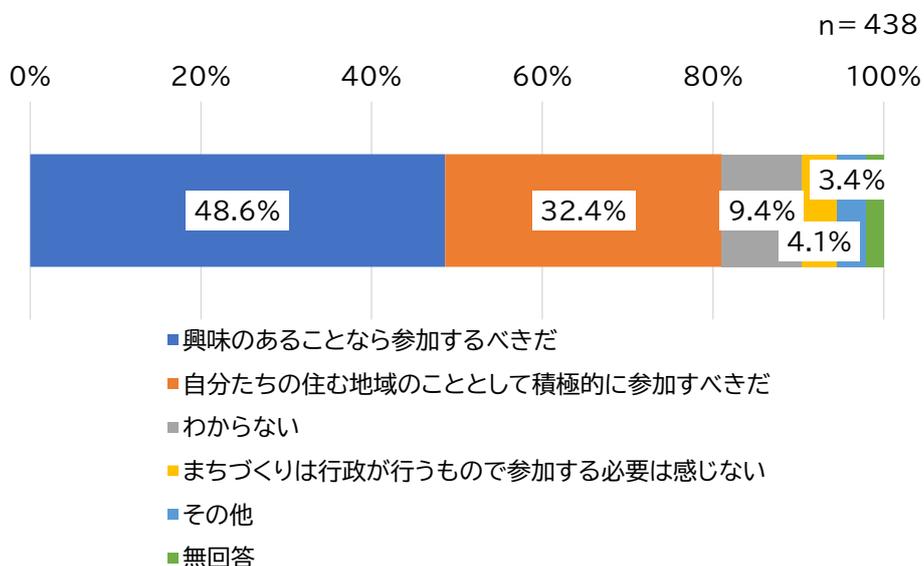
は各属性で最も数値が高いもの
 は各属性で2番目に数値が高いもの

		防災行政無線	役場の担当窓口	自治会などの会合や会報	家族・知人から	その他	わからない
性別	男性	26	14	29	50	6	11
		13.1%	7.0%	14.6%	25.1%	3.0%	5.5%
	女性	33	9	17	67	6	14
		15.4%	4.2%	7.9%	31.3%	2.8%	6.5%
年齢	10代	1	0	0	1	0	0
		20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	20代	3	0	0	15	0	2
		9.4%	0.0%	0.0%	46.9%	0.0%	6.3%
	30代	2	3	1	16	2	5
		4.3%	6.4%	2.1%	34.0%	4.3%	10.6%
	40代	10	1	2	24	2	5
		17.9%	1.8%	3.6%	42.9%	3.6%	8.9%
	50代	5	1	9	13	3	7
		6.8%	1.4%	12.2%	17.6%	4.1%	9.5%
60～64歳	8	1	5	7	1	0	
	23.5%	2.9%	14.7%	20.6%	2.9%	0.0%	
65～69歳	8	7	9	11	2	2	
	15.7%	13.7%	17.6%	21.6%	3.9%	3.9%	
70～74歳	7	2	7	11	1	1	
	13.2%	3.8%	13.2%	20.8%	1.9%	1.9%	
75歳以上	16	8	14	22	1	3	
	22.2%	11.1%	19.4%	30.6%	1.4%	4.2%	
地区	八積地区	20	10	26	52	5	14
		11.0%	5.5%	14.3%	28.6%	2.7%	7.7%
	高根地区	20	7	9	43	1	8
14.1%		4.9%	6.3%	30.3%	0.7%	5.6%	
一松地区	20	5	11	23	5	3	
	21.1%	5.3%	11.6%	24.2%	5.3%	3.2%	
世帯構成	単身世帯	8	1	5	9	4	7
		16.3%	2.0%	10.2%	18.4%	8.2%	14.3%
	夫婦のみの世帯	17	7	15	27	2	4
		16.3%	6.7%	14.4%	26.0%	1.9%	3.8%
二世帯世帯	26	9	19	64	5	12	
	12.0%	4.2%	8.8%	29.6%	2.3%	5.6%	
三世帯世帯	4	3	7	15	1	2	
	10.3%	7.7%	17.9%	38.5%	2.6%	5.1%	
18歳以下の子ども有		8	3	8	34	4	5
		7.9%	3.0%	7.9%	33.7%	4.0%	5.0%
居住期間	生まれたときから	18	6	16	34	2	6
		15.1%	5.0%	13.4%	28.6%	1.7%	5.0%
	Uターンしてきて5年未満	0	0	2	4	0	0
		0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	Uターンしてきて10年未満	0	0	0	5	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	45.5%	0.0%	0.0%
	Uターンしてきて10年以上	7	4	6	15	1	2
14.3%		8.2%	12.2%	30.6%	2.0%	4.1%	
転入してきて5年未満	2	0	1	5	1	2	
	10.0%	0.0%	5.0%	25.0%	5.0%	10.0%	
転入してきて10年未満	2	0	0	5	1	2	
	11.8%	0.0%	0.0%	29.4%	5.9%	11.8%	
転入してきて10年以上	31	15	21	57	7	14	
	15.2%	7.4%	10.3%	27.9%	3.4%	6.9%	

Q24. 住民として地域の活動に参加することについて、あなたはどのようにお考えですか。

(単一選択)

「興味のあることなら参加するべきだ」が48.6%と最も多く、次いで「自分たちの住む地域のこととして積極的に参加すべきだ」が32.4%、「わからない」が9.4%となっている。



その他回答内容
お互いが協力する
まだ現役なので気持ちがあってもなかなか出られない。
活動行事の多の為又移住者への疎外
最近の新住民がいるので参加する事がほぼないと思う。そういうのを改善すべき。
参加すべきであるが、高齢化、独居化等々から負担増となり参加が困難となりつつある。
参加できる人がすれば良い
仕事が忙しく参加ができない
子どもが、いないので、交流が少ない為、参加しづらい
私自身、参加することは、好きではないが本来参加すべきだと思う
自治会の活動の強制は困ります
自治会加入は必要と考えるが（実際に加入している）、仕事をしながら自治会活動を並行して行うのが辛くなってきている。特に自治会の役職については負担が大きすぎる。基本的には①に賛成だが活動内容の見直しは必要。
自分達の住む地域の事として積極的に参加すべきだとは思いますが、仕事が忙しかったり、家の予定に合わせて休日をとったりしているので、実際には、参加するのは難しいと感じています。
自由に参加する。強制はしない。
必要であれば
必要に応じて参加すべき、フリーライドはしない

【クロス集計】

性別では男性の方が参加するの必要を感じている人が若干多いものの、大きな差がなかった。

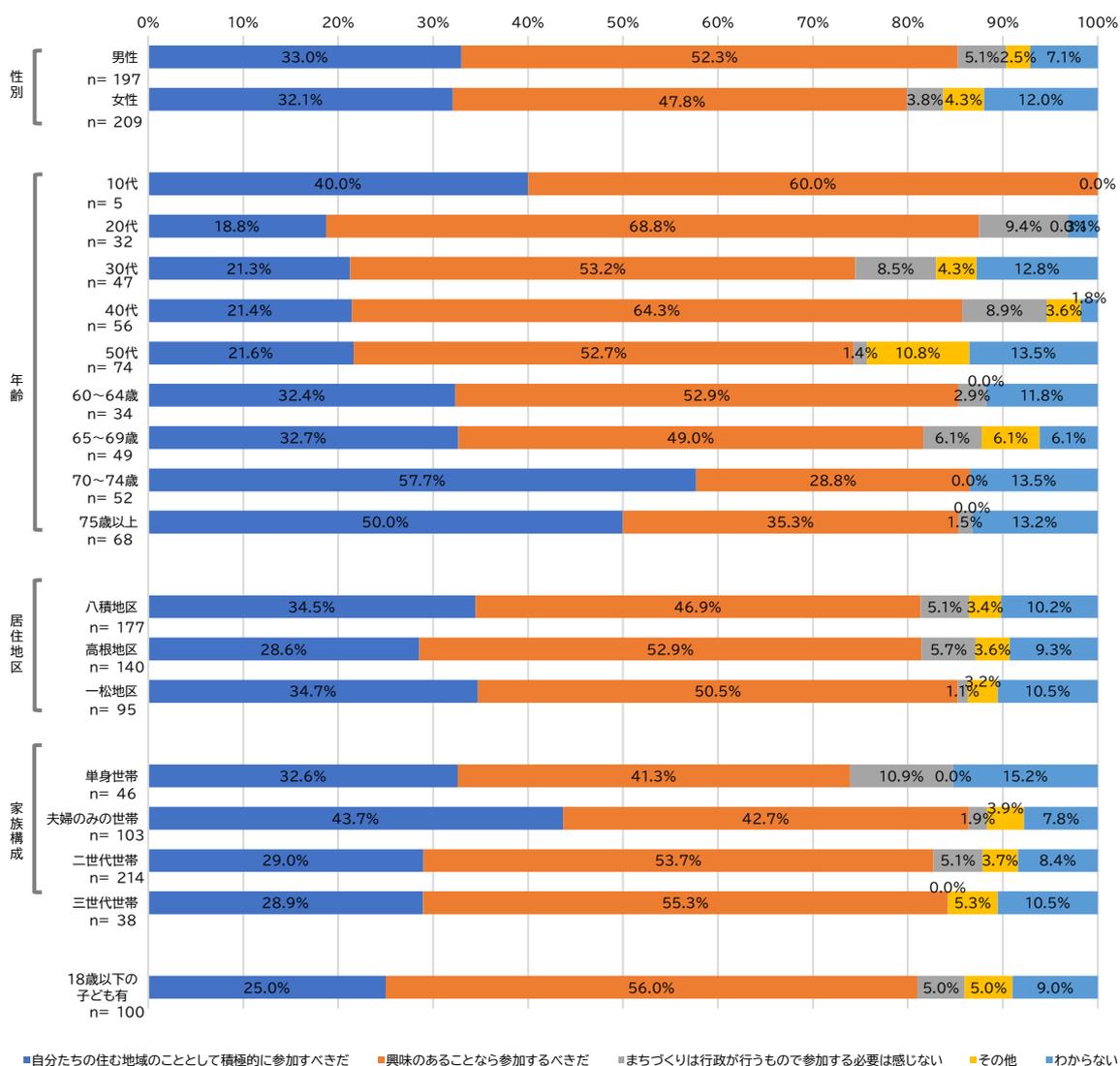
年齢別では70代以上の半数以上が地域の活動への積極的な参加義務を感じている。また、70歳未満のどの年代も、約半数以上が興味のあることなら地域の活動に参加すべきだと感じており、特に20代でこの傾向が最も高い。

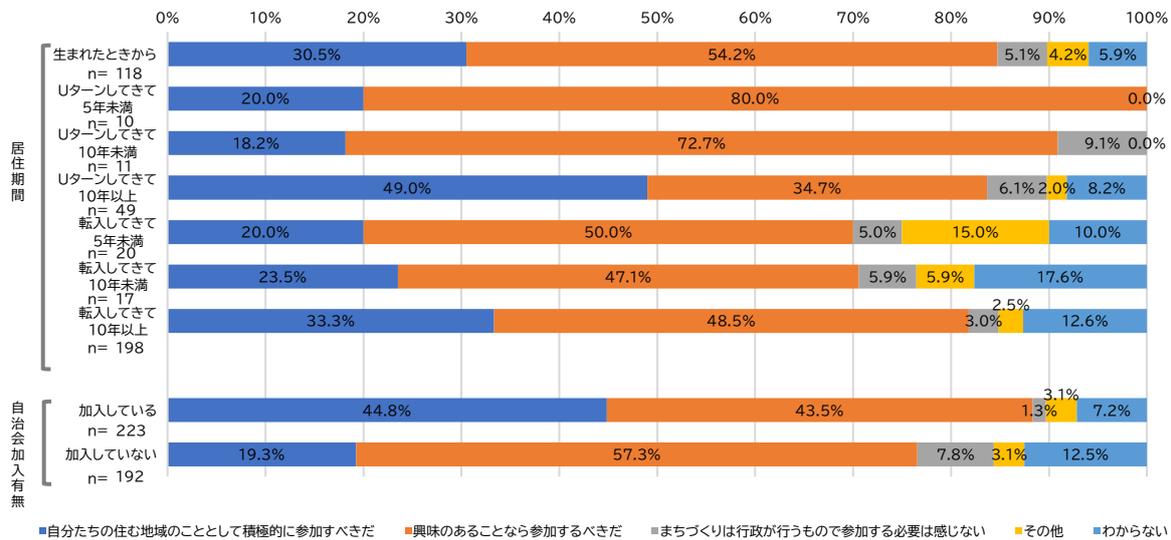
地区別では大きな差が見られなかった。

家族構成別では夫婦のみの世帯の43.7%が積極的な参加に肯定的で、他の世帯よりも10%以上高い。

18歳以下の子ども有の人は、81.0%が参加するの必要性を感じていた。

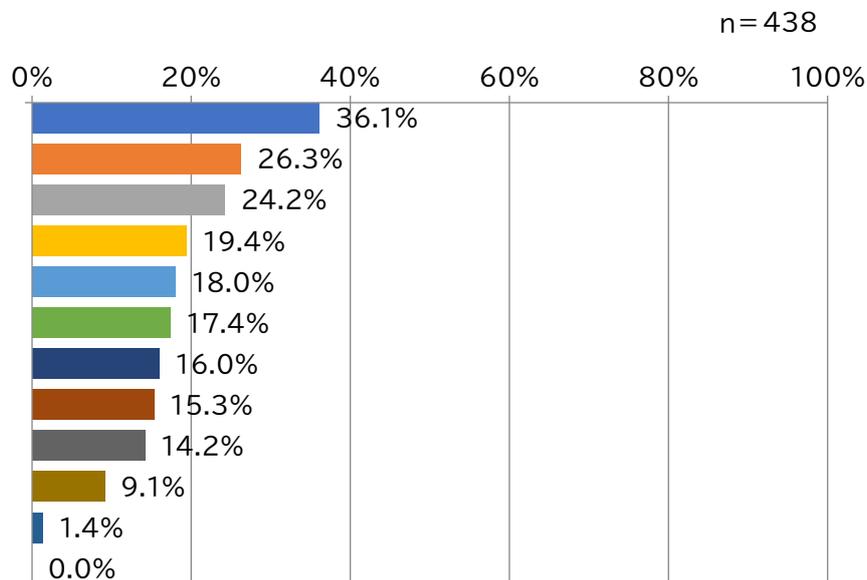
居住期間や自治会加入有無では、生まれたときからまたはUターンしてきた方や自治会に加入している方の参加意向が高くなっている。





Q25. あなたが、村のまちづくりやボランティア活動に参加するとしたら、現在行っているものを含め、どのようなことに参加したいですか。（複数選択可）

「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が 36.8% と最も多く、次いで、「防災に関する活動（避難訓練での協力、自主防災組織）」が 26.8%、「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」が 24.7%となっている。



- 環境保全に関する活動(近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動)
- 防災に関する活動(避難訓練での協力、自主防災組織)
- 子どもの健全な育成に関する活動(子育て支援、子ども会活動)
- 生涯学習・スポーツ・文化に関する活動(指導、運営協力)
- 交通安全に関する活動(子ども達の登下校時の見守り)
- 福祉に関する活動(高齢者や障がい者への支援)
- 参加できることはない
- 観光や交流に関する活動
- 保健・健康づくりに関する活動(正しい食生活への指導・普及活動、運動の普及)
- まちづくりや政策検討の会議への出席
- その他
- 無回答

その他回答内容
76 才なので良くわからない
空地、空家の管理できていない所のチェック、不法侵入等の注意等
現時点では、時間的に難しいが、近い将来参加したい。
高令のため参加出来ない

【クロス集計】

性別では、男性は「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が43.9%で最も多く、次いで「防災に関する活動（避難訓練での協力、自主防災組織）」が30%以上で多かった。女性は「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」及び「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が28.6%で最も多かった。

年齢別では、20～40代は「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」が30%以上で最も多く、50代以上は「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が25%以上で最も多かった。次いで、20代は「生涯学習・スポーツ・文化に関する活動（指導、運営協力）」及び「防災に関する活動（避難訓練での協力、自主防災組織）」が31.3%、30代・40代は「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が25%以上、50代は「交通安全に関する活動（子ども達の登下校時の見守り）」が23.3%、60代以上は「防災に関する活動（避難訓練での協力、自主防災組織）」が25%以上で多かった。

※10代はサンプル数が少ないため分析対象外とする。

地区別では、すべての地区で「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が30%以上で最も多かった。次いで、八積地区・高根地区では「防災に関する活動（避難訓練での協力、自主防災組織）」が25%以上、一松地区では「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」が29.8%で多かった。

世帯構成別では、いずれも「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が30%以上で最も多かった。次いで、単身世帯・夫婦のみの世帯では「防災に関する活動（避難訓練での協力、自主防災組織）」が25%以上、二世帯世帯・三世帯世帯では「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」が30%以上で多かった。

18歳以下の子ども有の人は、「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」が57.0%で最も多く、次いで「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が30.0%で多かった。

居住期間別では、生まれたときから居住している人・Uターンしてきて5年未満の人・Uターンして10年未満の人・Uターンしてきて10年以上の人・転入してきて10年以上の人は「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が30%以上（Uターンしてきて5年未満の人は「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」及び「保健・健康づくりに関する活動（正しい食生活への指導・普及活動、運動の普及）」が30.0%で同率、Uターンしてきて10年未満の人は「交通安全に関する活動（子ども達の登下校時の見守り）」が36.4%で同率）で最も多く、転入してきて5年未満の人・転入してきて10年未満の人は「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」が45%以上で最も多かった。

自治体加入有無別では、自治体に加入している人は「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が48.2%で最も多く、自治体に加入していない人は「子どもの健全な育成に関する活動（子育て支援、子ども会活動）」が26.4%で最も多かった。次いで、自治体に加入している人は「防災に関する活動（避難訓練での協力、自主防災組織）」が32.4%、加入していない人は「環境保全に関する活動（近所の草刈や小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動）」が24.4%で多かった。

は各属性で最も数値が高いもの は各属性で2番目に数値が高いもの

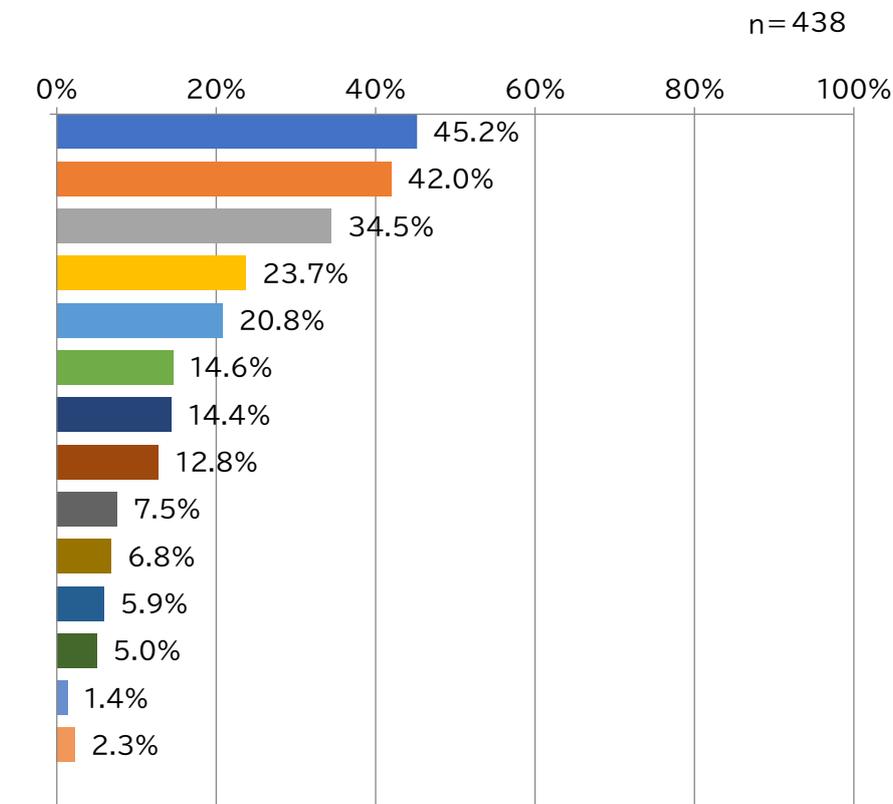
		総数	子どもの健全な育成に関する活動(子育て支援、子ども会活動)	生涯学習・スポーツ・文化に関する活動(指導、運営協力)	環境保全に関する活動(近所の草刈り、小枝切り、ごみゼロ運動、花いっぱい運動)	福祉に関する活動(高齢者や障がい者への支援)	保健・健康づくりに関する活動(正しい食生活への指導・普及活動、運動の普及)
性別	男性	196	39	41	86	27	18
		100.0%	19.9%	20.9%	43.9%	13.8%	9.2%
	女性	210	60	41	60	44	41
		100.0%	28.6%	19.5%	28.6%	21.0%	19.5%
年齢	10代	5	2	0	3	0	1
		100.0%	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%	20.0%
	20代	32	11	10	7	2	8
		100.0%	34.4%	31.3%	21.9%	6.3%	25.0%
	30代	47	21	7	13	3	3
		100.0%	44.7%	14.9%	27.7%	6.4%	6.4%
	40代	56	28	13	16	8	5
		100.0%	50.0%	23.2%	28.6%	14.3%	8.9%
	50代	73	10	16	21	14	6
		100.0%	13.7%	21.9%	28.8%	19.2%	8.2%
60~64歳		33	5	8	13	5	3
		100.0%	15.2%	24.2%	39.4%	15.2%	9.1%
65~69歳		50	10	6	23	13	13
		100.0%	20.0%	12.0%	46.0%	26.0%	26.0%
70~74歳		53	9	9	28	15	4
		100.0%	17.0%	17.0%	52.8%	28.3%	7.5%
75歳以上		68	8	16	27	13	17
		100.0%	11.8%	23.5%	39.7%	19.1%	25.0%
地区	八積地区	178	40	42	60	28	27
		100.0%	22.5%	23.6%	33.7%	15.7%	15.2%
	高根地区	140	34	29	51	21	20
	100.0%	24.3%	20.7%	36.4%	15.0%	14.3%	
一松地区		94	28	14	38	23	13
		100.0%	29.8%	14.9%	40.4%	24.5%	13.8%
世帯構成	単身世帯	46	7	9	18	13	6
		100.0%	15.2%	19.6%	39.1%	28.3%	13.0%
	夫婦のみの世帯	103	15	19	41	23	19
		100.0%	14.6%	18.4%	39.8%	22.3%	18.4%
二世帯世帯		214	69	46	74	33	26
		100.0%	32.2%	21.5%	34.6%	15.4%	12.1%
三世帯世帯		38	12	8	13	3	8
		100.0%	31.6%	21.1%	34.2%	7.9%	21.1%
18歳以下の子ども有		100	57	23	30	16	9
		100.0%	57.0%	23.0%	30.0%	16.0%	9.0%
居住期間	生まれたときから	119	25	24	61	16	19
		100.0%	21.0%	20.2%	51.3%	13.4%	16.0%
	Uターンしてきて5年未満	10	3	2	3	2	3
		100.0%	30.0%	20.0%	30.0%	20.0%	30.0%
	Uターンしてきて10年未満	11	3	2	4	0	0
		100.0%	27.3%	18.2%	36.4%	0.0%	0.0%
	Uターンしてきて10年以上	48	16	10	21	8	5
		100.0%	33.3%	20.8%	43.8%	16.7%	10.4%
転入してきて5年未満		20	10	4	3	2	2
		100.0%	50.0%	20.0%	15.0%	10.0%	10.0%
転入してきて10年未満		17	8	3	5	3	2
		100.0%	47.1%	17.6%	29.4%	17.6%	11.8%
転入してきて10年以上		198	39	40	58	45	29
		100.0%	19.7%	20.2%	29.3%	22.7%	14.6%
自治会加入有無	加入している	222	53	41	107	42	36
		100.0%	23.9%	18.5%	48.2%	18.9%	16.2%
加入していない		193	51	40	47	31	26
		100.0%	26.4%	20.7%	24.4%	16.1%	13.5%

(表の続き)

		は各属性で最も数値が高いもの			は各属性で2番目に数値が高いもの		
		交通安全に関する活動(子ども達の登下校時の見守り)	防災に関する活動(避難訓練での協力、自主防災組織)	観光や交流に関する活動	まちづくりや政策検討の会議への出席	その他	参加できない
性別	男性	30	59	37	26	0	33
		15.3%	30.1%	18.9%	13.3%	0.0%	16.8%
性別	女性	44	51	28	12	6	36
		21.0%	24.3%	13.3%	5.7%	2.9%	17.1%
年齢	10代	1	2	0	0	0	0
		20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	5	10	8	1	0	3
		15.6%	31.3%	25.0%	3.1%	0.0%	9.4%
	30代	11	10	10	6	0	8
		23.4%	21.3%	21.3%	12.8%	0.0%	17.0%
	40代	11	12	15	2	0	9
		19.6%	21.4%	26.8%	3.6%	0.0%	16.1%
	50代	17	12	14	10	2	15
		23.3%	16.4%	19.2%	13.7%	2.7%	20.5%
60~64歳	5	10	6	5	0	4	
	15.2%	30.3%	18.2%	15.2%	0.0%	12.1%	
65~69歳	10	16	5	8	1	7	
	20.0%	32.0%	10.0%	16.0%	2.0%	14.0%	
70~74歳	11	21	5	0	1	6	
	20.8%	39.6%	9.4%	0.0%	1.9%	11.3%	
75歳以上	5	18	2	6	2	18	
	7.4%	26.5%	2.9%	8.8%	2.9%	26.5%	
地区	八積地区	34	48	25	12	1	38
		19.1%	27.0%	14.0%	6.7%	0.6%	21.3%
	高根地区	29	35	22	12	4	19
一松地区	13	26	17	14	1	12	
	13.8%	27.7%	18.1%	14.9%	1.1%	12.8%	
	4	14	4	5	2	13	
世帯構成	単身世帯	8.7%	30.4%	8.7%	10.9%	4.3%	28.3%
		14	27	9	12	2	19
夫婦のみの世帯	13.6%	26.2%	8.7%	11.7%	1.9%	18.4%	
	46	58	44	20	2	27	
二世帯世帯	21.5%	27.1%	20.6%	9.3%	0.9%	12.6%	
	9	8	5	1	0	8	
三世帯世帯	23.7%	21.1%	13.2%	2.6%	0.0%	21.1%	
	18歳以下の子ども有	28	24	22	10	0	9
居住期間	生まれたときから	28.0%	24.0%	22.0%	10.0%	0.0%	9.0%
		29	43	19	7	0	15
	Uターンしてきて5年未満	24.4%	36.1%	16.0%	5.9%	0.0%	12.6%
		1	1	1	1	0	2
	Uターンしてきて10年未満	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	20.0%
		4	3	2	2	0	0
	Uターンしてきて10年以上	36.4%	27.3%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%
		2	12	8	5	1	6
転入してきて5年未満	4.2%	25.0%	16.7%	10.4%	2.1%	12.5%	
	3	5	6	3	1	3	
転入してきて10年未満	15.0%	25.0%	30.0%	15.0%	5.0%	15.0%	
	4	3	2	5	0	3	
転入してきて10年以上	23.5%	17.6%	11.8%	29.4%	0.0%	17.6%	
	35	45	28	17	4	41	
自治会加入有無	加入している	17.7%	22.7%	14.1%	8.6%	2.0%	20.7%
		34	72	31	17	0	31
加入していない	15.3%	32.4%	14.0%	7.7%	0.0%	14.0%	
	42	39	32	22	5	38	
		21.8%	20.2%	16.6%	11.4%	2.6%	19.7%

Q26. 今後、デジタル技術を活用しながら活力ある長生村を目指していく上で、特に期待する分野はどのようなことでしょうか。(複数選択可)

「必要な情報が通知される情報発信」が 45.2%と最も多く、次いで、「行政手続きのデジタル化」が 42.0%、「防災・減災情報のデジタル化」が 34.5%となっている。

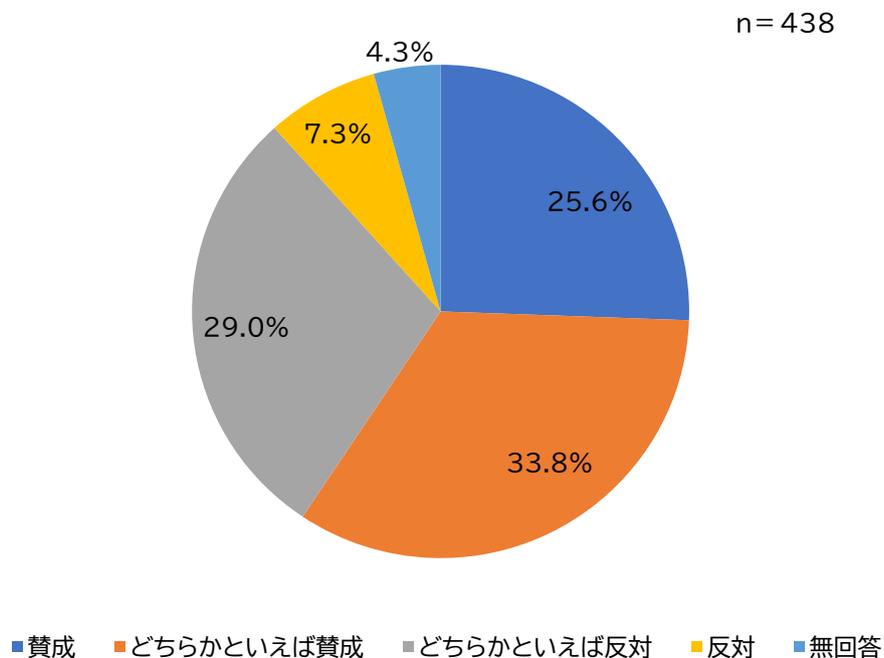


- 必要な情報が通知される情報発信(行政情報や災害・防犯などの緊急情報が必要な時にスマートフォン等に配信される等)
- 行政手続きのデジタル化(インターネット上で役場への申請や届け出ができる等)
- 防災・減災情報のデジタル化(河川の増水や道路の冠水等の状況を確認できる等)
- 問い合わせ窓口の充実(AIを活用した自動会話プログラムなどで、村のサービスで分からないことに24時間問い合わせできる等)
- 防犯のデジタル化(遠隔での高齢者や子どもの見守り強化等)
- 交通のデジタル化(自動運転、乗り物の共同利用等)
- 公共支払いのデジタル化(税金や公共施設の利用料、証明書の手数料がキャッシュレスで支払いできる等)
- 公共サービス用のデジタル化(インターネットで公共施設の利用状況の確認や予約等ができる等)
- 農業におけるデジタル導入推進支援(AIを活用した農作物の生育状況の把握やオンライン販売等)
- 商業・観光におけるデジタル化(地域ポイント、デジタルクーポンの流通等)
- 健康・ヘルスケアにおけるデジタル化(健康情報のアプリ管理、健康習慣の提案等)
- スタートアップ・起業家の支援(新技術を生かした産業の振興・創出等)
- コミュニティのデジタル化(デジタル化による地域活動支援等)
- その他

その他回答内容
デジタルには無理があると思います（特に高令者 最終的には人が必要
デジタル化してないのでわからない
わからない
何でもデジタル化でなく、人による村民への愛のある支援を
議会のネット配信
高令なので便利と分ってもついていけない
高齢者が多いのにデジタル化は？疑問である
奨学金制度の口座振替
分からない
防災無線器（相方向なら尚良い）等の高齢者世帯への無償配布。及び定期的な、役場職員によるメンテナンス

Q27. 長生村には、3つのこども園と3つの小学校があり、それぞれで児童数の減少が進んでいます。将来的に、各小学校では法令上の適正規模を満たせず、こども園も含めて適切な教育施設の運営を行うことが難しくなることが想定されます。これについて、より良い教育施設の運営を目的としたこども園や小学校の統廃合についてどのようにお考えですか。(単一選択)

「賛成」が25.6%、「どちらかといえば賛成」が33.8%、「どちらかといえば反対」が29.0%、「反対」が7.3%となっている。



【クロス集計】

性別では大きな差が見られなかった。

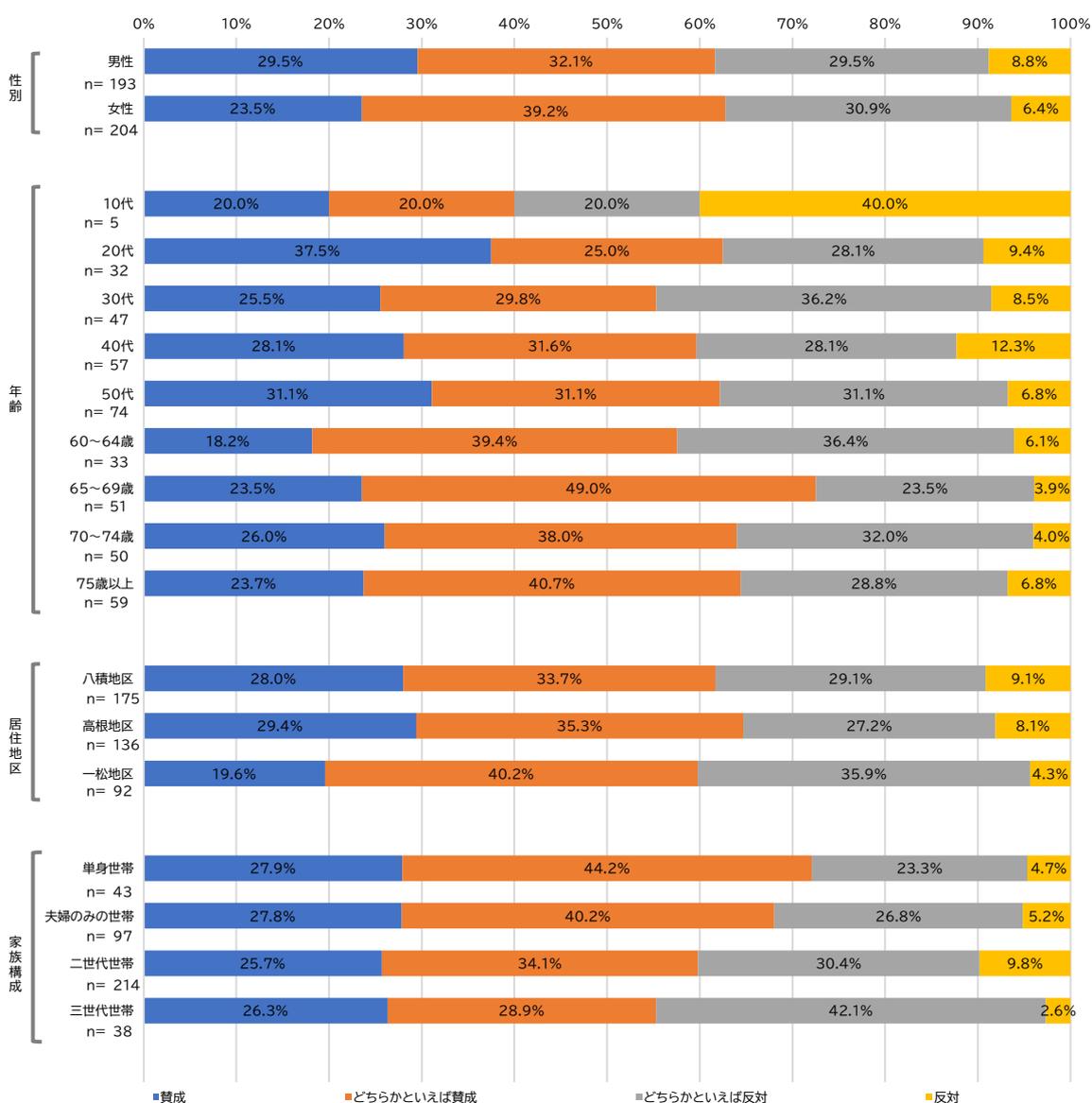
年齢別では10代にて反対の割合が多いが、サンプル数が5件であるため傾向を判断することはできない。それ以外のすべての年代では「賛成」または「どちらかといえば賛成」が半数を超えており、年齢が高くなると賛成意見が多くなる傾向がある。

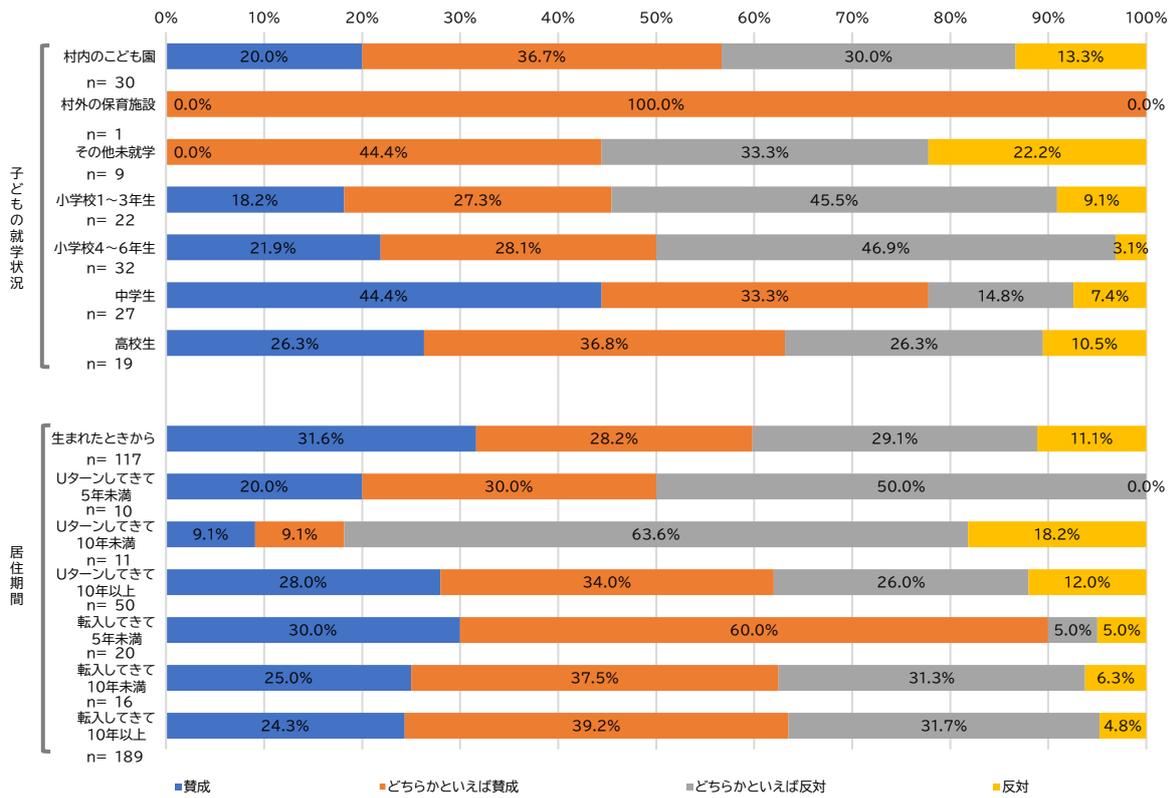
居住地区別では大きな差が見られなかった。

家族構成では二世帯世帯、三世帯世帯にて「反対」または「どちらかといえば反対」が多くなる傾向がある。

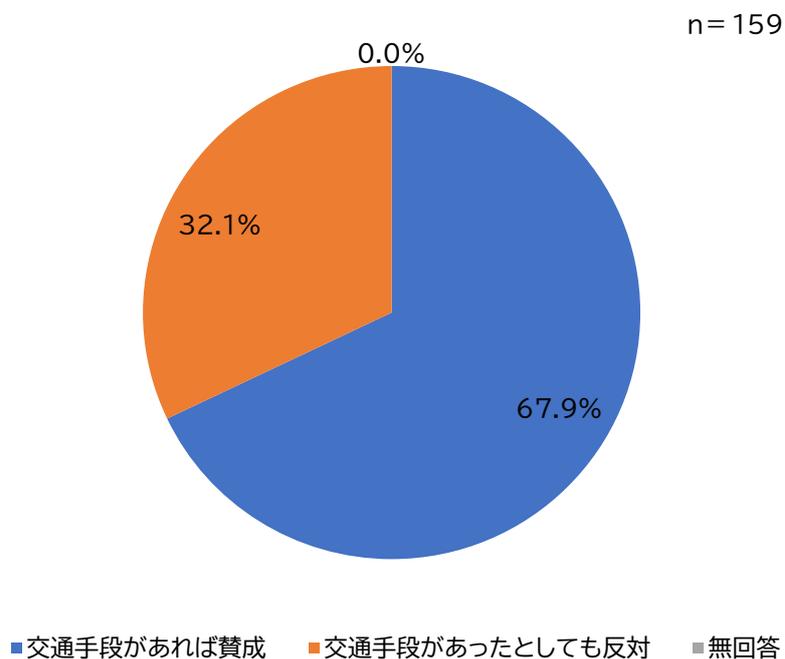
子どもの就学状況別では小学校の子どもがいる方は賛成と反対が拮抗しており、中学校、高校生のいる方は6割以上が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答している。

居住期間別ではUターンしてきて5年未満では「どちらかといえば反対」が多く、転入してきて5年未満では「どちらかといえば反対」が多くなっている。





Q28. 学校までの交通手段（例：スクールバス）があったとしても反対ですか。（単一選択）
統廃合において「反対」または「どちらかといえば反対」と答えた回答者のうち、「交通手段があれば賛成」が67.9%、「交通手段があったとしても反対」が32.1%となっている。



Q29. 学校の統廃合についてご意見がありましたらご記入ください。(任意回答・自由記述)

Q27にて「賛成・どちらかといえば賛成」とした回答者、「反対・どちらかといえば反対」とした回答者ごとに意見を記載する。

賛成・どちらかといえば賛成
・こども園、小学校を一ヶ所に統合することに賛成。・全希望者に対してのスクールバスは必須条件。・廃校となった校舎を、高齢者の短期・長期、ゆるい医療サービス付き滞在施設にする。介護度とは関係なく、夫婦で入所できるような施設とする。その施設の中で相体的に健常な高齢者たちが、介護度の高い入所者の面当を見る。介護職、カン護職員は少なくても可。小学校は家から近いので、心理的ハードル低く今の介護介護施設より、コストは低くなると思う。初期の設備投資フタンが大きいのが難点かもしれない。
・スクールバスのような、家の遠い子も安心して通える体制をしっかりとつけてほしい。
・まず「法令上の適正規模」とはどの位なのか 説明が欲しかったです。・学年1クラスだけになると万が一、いじめなどがあった場合いじめが継続したら逃げ場がないと思う ・生徒数が少ないからといって「きめ細かい対応」ができるとは限らない 何事も教師しただいと思う
・給食センターを中学校付近に建設すれば配送コストの平均化、雇用が多くみこめた。
・個々が選択出来る事を願う (一松→高根 八積) 選択可
・設備の充実 ・駐車場の充実
3つの小学校を1つにしたほうが良いと前から思っている。子どものうちはどうしても我が強く、それぞれが他の子と合う合わないが生じてきても1クラスしかなかったらずっと同じでいいといけなから不登校の子が増えると思う。あつかいにくい子もクラスがいくつかあれば、うまくバラけさせられる。中学校でどのみちみんな1つの学校に通うので、早いうちに慣れていたほうが良いと思う それともっと保・小・中の交流があったほうが成長促進になるのでは。
いじめにあった孫助けてもらえなかった。性格変わり大人しくなり過ぎ友達がつくれな 現在今年3月高3になるが友達ナシ
きちんと議論して決めていけば良いと思います。
こども園の学習内容を私立のようにすることが大きなメリット、外部からのアピールができる。
こども園も小学校も統合すべきだと思います。そのための八積駅周辺整備ではないのか？ここでたち止まったら問題になりません。しっかりしてください。
これからは「統廃合」という考え方自体が現実的ではなくなるのかもしれない。ICTの活用(タブレット etc)により就学の仕組みも変わるかも・・・ とりあえず、現段階では②で。
さっさとやるべき。そして給食センターを廃止し、小中学校をまとめるべき。
しかたがない。
しかたがない。
スクールバスが必要
スクールバスの導入など小学生の通学支援が不可欠。これはこども園も同じ。
スクールバス等あれば賛成
スクールバス必須です 児童数減少を止められるよう育てやすい環境整備をお願い致します

賛成・どちらかといえば賛成
それぞれの地域の住民感情に配慮しつつも、より効果・効率のよい学校教育のために統廃合は必要であると思われる。その際には、通学・通学に保護者負担が大きくなるような配慮も必要である。
ちゃんと交通安完してただ役場の近くおりるところを見たときは、「大丈夫かな」「そこで止まってもあぶないじゃない」かなってだったら役場と保健センターの入口におりれば大丈夫だと思います。
安全に通学できる環境作りが重要だと考えます。
以前村長が自宅を訪問してくださった際に駅周辺に子ども園を統合した新しい施設として整備すると言っておられました。子育て世代の私はそうなのか。程度に思っていて、給食センターができるのもそれを見越してのことなんだと考えていましたが、なぜ駅周辺や中学校周辺などにせず教育施設から離れたところに整備したのかよくわかりません。給食を運ぶのに車やスーパーのように配送を受けるための施設が必要と聞きましたが、そこにお金をかけてしまっただけでは学校の統合なんてできないのではないかなと思いました。今回の給食センターの整備には何か闇を感じます。
一つにまとめることによる合理化と教育の充実を図ってもらいたい。また、巡回バスによる登下校の推進と安全対策も行ってほしい。
一極集中してよりよい教育を。
運営が難しい場合は仕方ないことだと思います。
家から学校まで遠くなる人もでる為スクールバス等が出るなら賛成 人がふえても1人1人に目がとどくのか不安がある
各方面の方々の意見を聞いて決定する。いそがない。
学校、こども園共に統廃合はやむを得ないことだと思います。今後、子どもの減少により、PTA等の役員をやる機会が増えると保護者の負担が多くなると思います。出来れば廃止してもらいたいです。
学校は単なる「教育の場」ではなく、地域コミュニティの核となる存在です。統廃合は「教育の質向上」と「地域の活力維持」の両方を考慮し、慎重に進めるべきです。メリット・デメリットを明確に提示し、十分な議論を行うこと。保護者・住民・学校関係者の意見を十分に聞くこと。スクールバスの運行や地域交流の場の確保など、統廃合後の対策を明確に示すこと。「統廃合ありき」ではなく、複式学級の活用など他の選択肢も検討すべきです。交通手段が整備されても、学校がなくなることによる地域や教育環境への影響を十分に議論する必要があります。
学校等の統廃合はやむなしと思いますが、現在建設中の給食センターの今後の見通し等は、どうなっていくのか気にはなります。
学校迄かよう場合、歩いていくことが困難な場合の交通手段はどうしていくのか。
学年別に受業の出来る児童数に。
給食センターを作る際に統合のことは考えているのか？計画性を疑う。何か癒着などがあったのではないかな。
現状の世の中の流れ、仕方無いと思う スクールバス、循環バス、公共の交通等で対応する
交通手段を確保する事が前提です
今後、少子化が進ん行く中仕方無いと思う

賛成・どちらかといえば賛成
財政上、コンパクトにせざるを得ないし、マンパワーの不足もある。
三小学校の統合良いと思います。中学で一緒になるのだから早い時期での学業生活、友人関係等を考えると良いと思う。どこの小学校を統合校に生かすのかと考えるとむずかしいですね。
子ども達が安心して学べる環境の為、充実した施設の建設設備を整のえることが重要である。
子供が少なくなっている以上は仕方のないこと
子供の数も少なくなって来て、全国的に統廃合の地区は沢山出てきてる中で、交通手段等充実して頂ければ良いと思います。
子供減少による統廃合は、賛成。多様性の世の中6~9年間狭い子供社会で、学生を過ごした後、グローバルな学生生活には、適応が難しい状況と思う。少しでも、大人数多様性の中でコミュニティを広げさせてあげたい。
児童の数が減少しているという事で、各学校1クラスずつ←(このような事を以前聞きましたので・・・)になると「いじめ」等があった場合の子供の逃げ場(クラス替えの時に考慮してもらうなど)がなくなってしまうので統廃合について賛成します。先生方についても、こども園・小学校共に1つになれば今よりも目が行き届き手厚いサポートをしてもらえると思います。先生方の負担も減るのかな・・・と。
児童数が基準に満たないなら統廃合もやむを得ないと思う。施設等が減少した分スクールバスなど子供達や保護者の負担等無いよう、充実した環境にして欲しいと思う。
児童数が減るのだから、各小学校、こども園を統廃合して職員の数を減らすべきだと思う。
児童数が減少しているのは、仕方がないけれど統合するのであれば、高根、八積、一松に住んでいる人、みんなが通いやすい場所にこども園や小学校を設置すべき。それこそ、中学校の近くとか。
児童数が少なくなれば統合することはしかたのない事だと思いますが統合した学校の場所までの登下校の手段が心配です。
児童数の減少での統廃合はしかたのない事だと思いますが、外からの移住を増やす為の施策等に対する村としての努力が少ないのでは？と思います。村の中の人々の意見ではなく、外からの意見(専門家)を取り入れてはどうでしょうか？
児童数の減少に伴う統廃合は仕方ないと思うが ・遠距離通学となる児童への配慮(スクールバス等) ・廃校となった小学校校舎の有効活用 は必ず行ってほしい
児童数の減少は止められません。教育環境を整える為にも統廃合し、村の中心部に建設しコンパクトな街作りをしてほしい。教育は大切です。明日の未来を背負って立つ若者に教育という愛情を捧げましょう。
時代の流れと共に 今までの考えだけでは、対応がむずかしくなるのは、やむをえないと思う。それに対して、しえんは考えなくてはならないが！
小学校の統合について通学区域の変更について ・2校にし通学区域を大幅に変更する
小規模は目が届いて良い事もあると思うがいずれは社会に出るのである程度の人数での生活の方がいいのではないかと思う。

賛成・どちらかといえば賛成
少子化、人口減少の観点から統合はやむを得ないと考えます。特に一松地区は児童数の減少が顕著であり、子どもたちの競争力やコミュニティ形成力などを考えると、統合すべきかなと思います。少ない児童に1人の担任がつくことが手厚い教育なのか、集約して子どもたちに競争力を持たせるのか、検討いただきたいと思います。統合する際は、スクールバスの検討も必須と考えます。
少子化が進む中、教育費を分散させるより集中させることでより充実した高度な教育を受けることができると考えられます。
少人数での教育も必要ではあるが、中学、高校、大学と進む中で、多様な考えがあること、そして集団（大人数）の場に幼いうちから慣れておく必要があると思うから。
新治小学校が本納小学校に戻り、また、小中学校の一貫校になっているので全てをまとめて上の子が下を見ることも学べる学校・保育所があってもよいのでは？
人口減少を鑑みると統合はやむを得ない。離島や過疎の地域では廃校となった校舎を地域コミュニティの場 カフェ 食堂 企業や事務所の誘致など複合施設としてリニューアル運営し地域再生の拠点として活用されている事例もある。
人数が減るから閉校は安易な考え方である。子供をどう増やすかを増やすことに成功している他自治体を例として学習すべきである。特認校としての活用を考えるべき。
人数が多い方が楽しいと思って。
人数減少にともない運営が難しくなるため、統廃合には賛成であるが、住民に不利益（登下校）が発生すると思うので、何か施策があるならやってほしい。
早くやる
体育館は自由に使えるようにしてほしい。
対象者数が減れば仕方がないこと。子供の数を増やす努力をしなければならない。
長生村は大きな建設工事をたくさんやっていて財政面で学校統合ができるのか不安です。学校統合を行うのであれば資金の確保を行う必要があるため、現在行っているサービスを停止する必要があると思います。新聞では借金の償還比率が県内トップになるとの見通しとの報道がありましたので、やらないことも同時に決めてほしいと思います。大きな公共工事が続いていて、今後借金が多すぎて増税されるのではないかと不安を抱いている中で、学校統合・駅の開発などと言われると財政が健全なところへ移住しようかという気持ちがわいてきます。
長生中学校を中心した文教区域を指定してこども園→小学校→中学校の一環教育を行う。また、給食センターも設置する。これにより子供達のあいさつや、コミュニケーションが充実する。
通学にスクールバスを用意するなど遠くから通う生徒のサポート
通学の手段を考えてほしい。
通学手段のサポートを検討する
適宜対応願います。
登下校の距離が極めて長くなり保護者各自での送迎を必要となってしまう場合は、代替のものを必要とします。
登校、下校時の交通手段が充実しているとよい バスとか
統合することで歩いて登校できない子供達の送り迎えの負担が辛い

賛成・どちらかといえば賛成
統合するに当たり、現場で働く先生方の声を聞いて欲しい。統合する場合にはどのような児童がいてどんな設備が必要であるのか、子どもの実情を知っているのは現場の先生方です。また、学童の配置についても検討の上、実際に統廃合するのか決めていただきたい
統合には賛成。ただ遠距離の場合はバスなどがないと厳しそう。
統合により登下校の問題が深くかかわると思いますが、財源の事を考えると統合したほうが効率が良いと思います。少人数学級の良いところも多くありますが、現在、中学校は1つで問題なくできているので、ある程度の人数がいたほうが、子供達も楽しいのでは・・・と思います。
統合後、遠方となった児童の通学支援。 廃校後、校舎等の公共施設利活用。
統廃合することになったら、学校まで遠い子供たちはバス通学ができるようにしてほしい。 共働きのため、今後も学童は継続してほしい。
統廃合は近隣でも行われているので仕方のない事だと思います。スクールバスの充実が必須だと思います。
統廃合を視野に入れているなら給食センターの建設場所がなぜ全ての学校から離れた位置なのか分からない。
同じような教育施設なら統廃合はやむなし。特徴を生かして他の地域からでも期待という特徴のあるこども園や小学校を創るとよい。英語教育や音楽、絵画などの芸術系教育、サッカーや野球・バスケットなどの教育の法スポーツ教育など、ニーズのある教育分野に特化したものを考えれば、移住者も出てくるかもしれない。
同年令の一定数以上のクラス編成は、成長する上で、広い交友関係をつくったり、他者との比較などによる刺激を受けることなどからも重要だと思う。
廃校になった小学校を利用した道の駅など長生村の産物で観光交流出来ると思います。
複式学級はさけるべき
平成時代は、人口が多い為、どちらかといえば賛成とは思いますが、当所より交通が不便な場合は、無料サービスで通勤できるとより良い。
保育園、小学校、中学校の一貫教育を目指し、現在の中学校に集約し、長生村の教育として、質の高い教育を受ける事ができるようにしたら転入者も増えると思う
保育士が足りない。統合し余裕のある人数で教育するべきだと思う。
例えば全学年で10人とかの児童数よりも村で統合して児童数を多くした方が子供達も刺激があると思う。自己登校も人生経験でとても大切な事だと思うが、統合したらスクールバスは必須だと思う
特になし

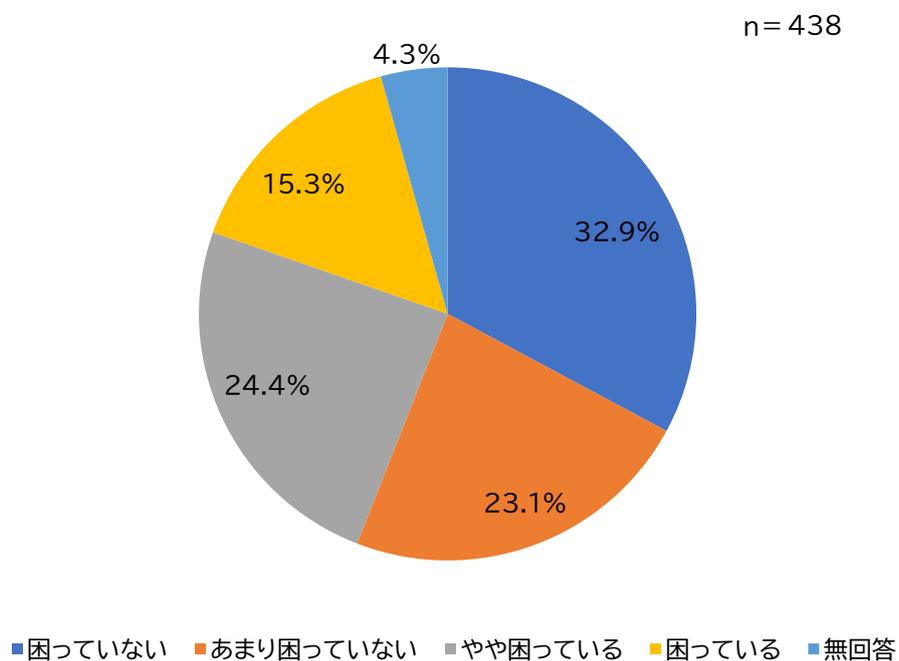
反対・どちらかといえば反対
子供の通学が不便にならなければ賛成
・学校を地域の拠点として考え、むしろその役割を強化することが重要。・児童がバスや車でなく、自分の足で道草をしながら通学することが情操教育の面からも極めて重要です。通学途上の友との交流、自然との触れ合いこそ、人としての生長に最も大切なことだと考えます。教育に効率は禁物です。
・共稼ぎの為、緊急事態時対応に時間がかかる！！ ・親に対応して、もらう為。

反対・どちらかといえば反対
・少人数生徒による先生と生徒のコミュニケーションの充実を図り、それをウリにする。 ・教育の質の向上を図り、移住を促進する。 ・地域で子どもたちを守り、育てる環境を醸成する。
・村の不登校の実態をふまえ、不登校支援の通級教室が(学校以外の)あるといいと思います ・統廃合になっても少人数クラス運営が望ましいです ・先生方が働きやすい職場作りも大事かと思ひます
1クラスの人数を20人程度にしてくれるならいいと思ひます。人数が多いとケアが行き届かないので。
3つのこども園と3つの小学校で育つことに誇りを持っているしなくなつてしまつたら寂しい。
3つの小学校は統合せずずっと3つ共そのまま 先の事など誰も分らない 一松に何年か先に子供がいっぱいという事だつて有ると思ふ
こども園が小学校を統合していけば規定を満たせるかもしれないが、複数を運営し、もしもの時に一方を休業、一方を営業できる様な体制がとれると良いと思ふ。(昨今のコロナの用な伝染病の際に必要と思われる)
こども園の統合には反対
これから将来的に少子化になる為 少人数クラスで充実した教育が受けられる環境づくり予算が日本国内で必要になってくる為。
家の近くまでスクールバスが来てくれなければ、意味が無いので、送り迎えの負担が増える。
各小学校等が、避難所にも指定されており、統廃合したあとも、その建物を有効活用していただきたいと思ひます。例えば、地域の子供達や住民の方々の交流の場やまた、避難所としての機能を維持するために、林間学校、体験学習、実習等の宿泊所等、他の市も運営している、道の駅や、農産物直売所との併用する事等、あるいは高齢者入居施設などに転用等々、可能性を検討していただきたいです。
各地域に学校が存在することが、地域の文化、生活環境にとって大切である。教育にとって、小規模校の方が、1人1人を大切にできる。できうるかぎり各小学校を残すことが良い。
学校が通えるはんいであれば安心かも？遠くなると危ないという人は増えるかも(?) 統合という言葉が出る事自体ダメだ。子供がいらない=人がいないということ。たくさん増えるようにサービス業、店、しせつ(←ごらくしせつ) ふやそう。今のままでは村おわります。
学校については可能な限り残すべきだと思ひます。学校がなくなつた地域は住む人が減り過疎化が進むと思われまふ。また子育てをするにしても学校が近くにないなら住むのをやめようと思ふ方もいると思ひますので、出来る限り残すべきだと思ひます。
学校は、極力可能な限り残すべきである 学校とは、地域の中心となる場所であり、交流が生まれる場でもある 例え人数が減つた場合でもできる限り残すことで、地区ごとの人口の差や地域の人の交流などの課題解決の手助けになると考える
給食はその学校で作つて温かいものを提供してほしい
高根・八積・一松には、それぞれの地域性や文化がある。できる限り存続させるすべき
子供達にとって学ぶこと、遊ぶことができるのであれば統廃合はよいと思ふ。
児童数が減少し、各学年1クラス(30人程度)となつた時に、少人数(6~8人)のクラス編成にして、子供達への教育やイジメ問題等に手厚く当たつて欲しい。

反対・どちらかといえば反対
若者の移住者を増やせば、そのまま定住し、家庭ができ、子供も増えると思います
住民の声を十分聞いてもらいたい
縮小、減少の方向へ向かうのではなく、どうしたら存続できるのか、人口、少子化を克服できるのか、存続させられるのかを先決に考えてほしい。何んのために給食センターを造るのかを良く考えてほしい。
生徒数の減少が予測されているのに、給食センターを新たにつくったりと、無駄な税金の使い方をしていて考える。統廃合について、反対しているのは、児童の行動範囲が広がることで防犯をさらに強化する必要があると考えており、今の長生村にはそれが出来るようには思えないから。
地域格差があるので統廃合は難しいと思います
中学校で 3 つの小学校がひとつになり遠くから自転車で通う生徒がいます。一松小学校のように 1 クラスであっても家が近い事の安心感はあるのではないのでしょうか。行政の都合で保育所もこども園にしてしまう小高村長のお考えは小学生という子供達の日常の心のケアも良くお考えになった方がよろしいのではないのでしょうか。学校に近いお子さんは徒歩で遠い方はスクールバスでと 6 年間の思い出や放課後集団下校もバラバラになる事等考えますとひとクラス 30 人となってしまっても現在の形を望みたいと思います。
長生技専みたいに廃校をグランピングに使われると騒音になやまされたり、夜間にうろつく人が多いため物騒なため先の事、回りの住民のことをかんがえてほしい
統廃合の取組と同時に若い方が村内で子育てがしやすい状況が重要ではないでしょうか。(子育てへの支援)。
廃行後、長生技専のように観行で村外の人のために使うのではなく、村の人、近所の人が見えるようにしてほしい。観行客が増えるのもいいのだが、それによって生活しにくくなるようでは困る

Q30. 長生村の公共交通についておたずねします。あなたは、日常において公共交通機関（電車・バス・タクシー）を利用するにあたり、困ることがありますか。（単一選択）

「困っていない」が32.9%、「あまり困っていない」が23.1%、「やや困っている」が24.4%、「困っている」が15.3%となっている。



【クロス集計】

年齢別では、10代から50代にかけて「困っている」が2割近くであるのに対し、60～64歳、65～69歳、70～75歳では1割前後となっている。65歳～69歳では「困っていない」が46.9%と年齢別で最も高くなっている。

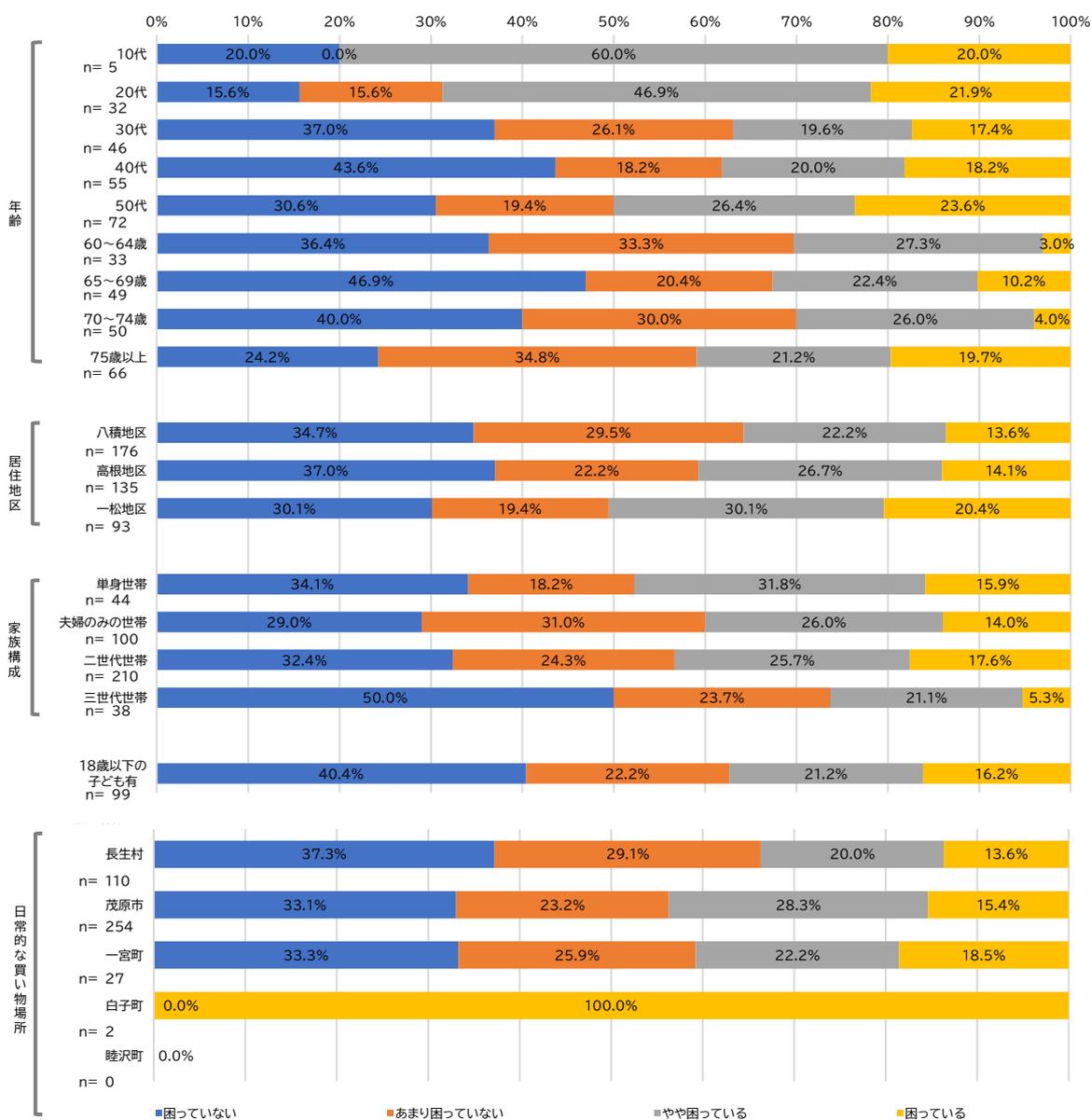
居住地区別では、一松地区の過半数が「困っている」または「やや困っている」と回答しており、高根地区、八積地区の順に困っている方の割合が減少している。

家族構成では、三世帯世帯にて困っている方の割合が減少している。

18歳以下の子どもの有る人は、「困っていない」または「あまり困っていない」が62.6%であった。

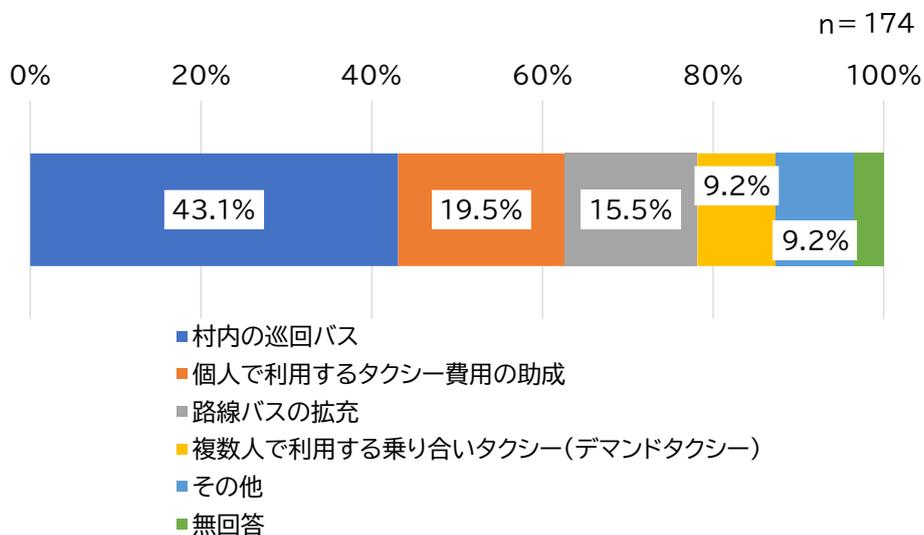
日常的な買い物場所が長生村の人は「困っていない」または「あまり困っていない」が66.4%であるのに対し、茂原市、一宮町の人は60%を下回った。

※白子町はサンプル数が2、睦沢町はサンプル数が0のため分析対象外とする。



Q31. 今後、公共交通に関してどのような施策が重要だと思いますか。(単一選択)

「村内の巡回バス」が 43.1%と最も多く、次いで、「個人で利用するタクシー費用の助成」が 19.5%、「路線バスの拡充」が 15.5%となっている。また、その他の回答内容は表のとおりである。



その他回答内容
1、3 両方とも
1~4 を組み合わせた公共交通網の構築こそ求められている。
タクシー券いただいています
駅（JR）までの交通手段
駅に有料駐車場が欲しい
巡回バスの情報がない
上総一ノ宮駅までの交通
電車に乗る際の駐車場が少ない
電車の本数を増やす
八積駅にタクシー
八積駅に村営駐車場が欲しい。
八積駅に駐車場がないので、どうしても茂原駅まで行かなければいけない
八積駅の列車本数の増大
八積駅近くに駐車場
八積駅周辺に村民無料の駐車場が必要。
夜間、飲酒時にバスを利用したいが、早い時間でなくなってしまう

【クロス集計】

年齢別では、10代～74歳は「村内の巡回バス」が30%以上（50代は「路線バスの拡充」が32.4%で同率）で最も多く、75歳以上は「個人で利用するタクシー費用の助成」が38.5%で最も多かった。

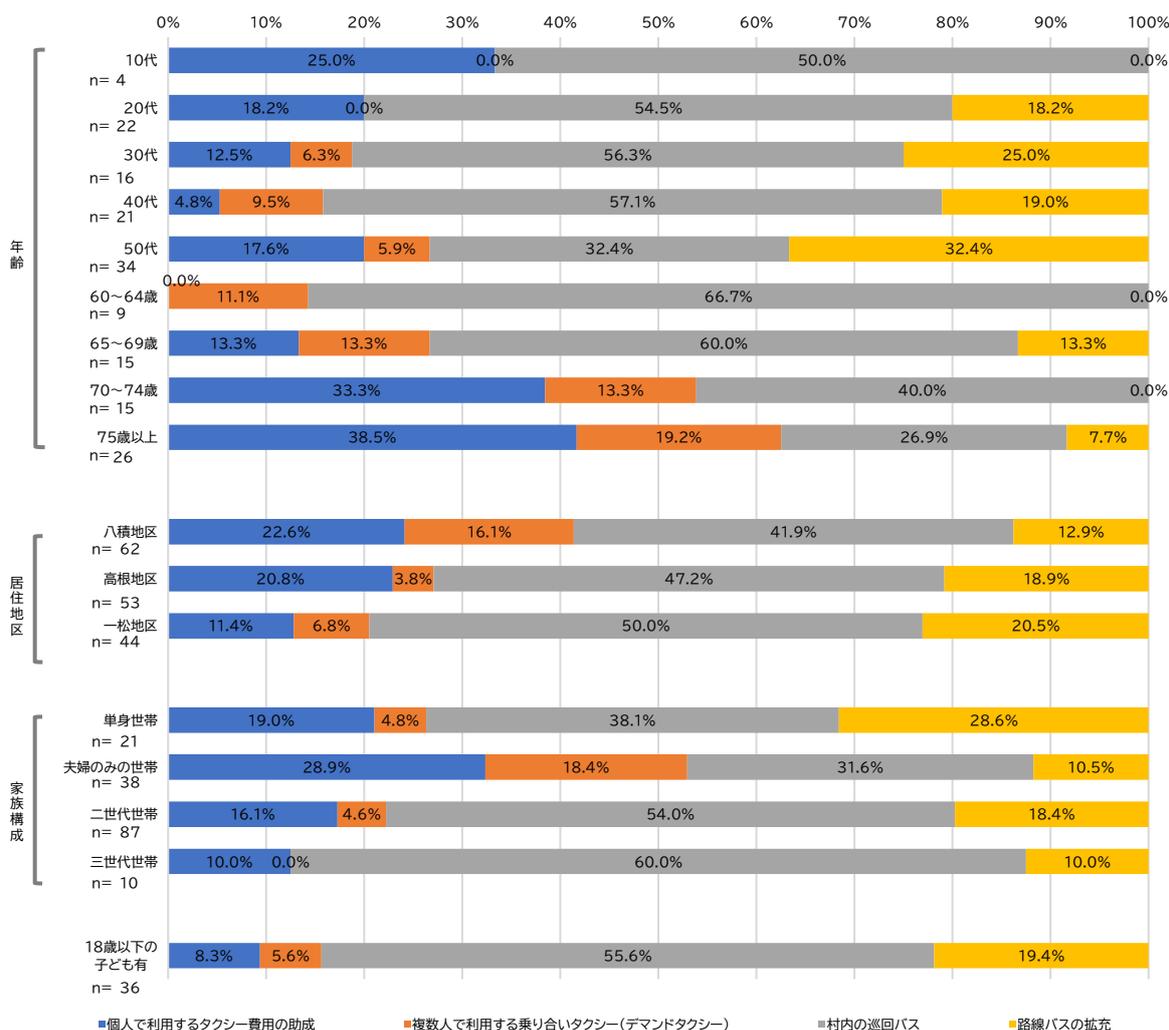
地区別では、すべての地区で「村内の巡回バス」が40%以上で最も多かった。次いで、八積地区・高根地区では「個人で利用するタクシー費用の助成」が20%以上、一松地区では「路線バスの拡充」が20.5%で多かった。

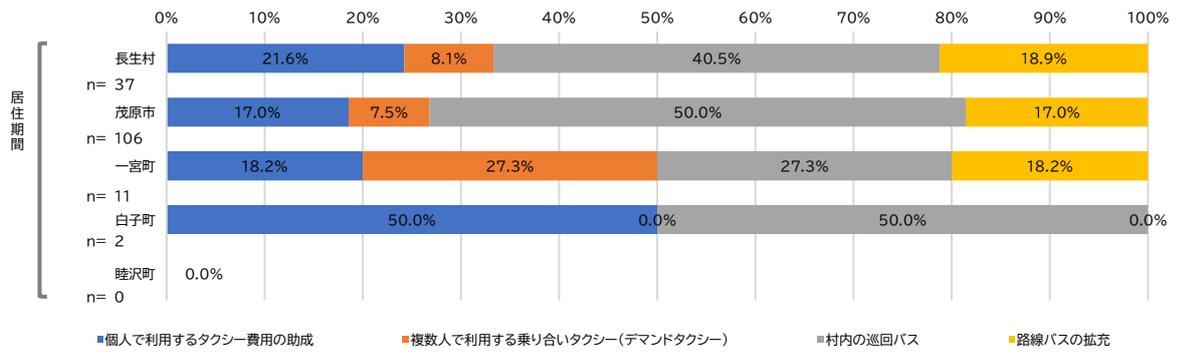
世帯構成別では、いずれも「村内の巡回バス」が30%以上で最も多かった。次いで、単身世帯・二世帯世帯では「路線バスの拡充」が15%以上、夫婦のみの世帯では「個人で利用するタクシー費用の助成」が28.9%以上、三世帯世帯では「路線バスの拡充」が20.0%で多かった。

18歳以下の子ども有の人は、「村内の巡回バス」が55.6%で最も多く、次いで「路線バスの拡充」が19.4%で多かった。

日常的な買い物場所別では、いずれも「村内の巡回バス」が25%以上（一宮町を選択した人は「複数人で利用する乗り合いタクシー（デマンドタクシー）」が27.3%で同率）で最も多く、次いで長生村を選択した人は「個人で利用するタクシー費用の助成」が21.6%、茂原市を選択した人は「個人で利用するタクシー費用の助成」及び「複数人で利用する乗り合いタクシー（デマンドタクシー）」が17.0%で多かった。

※白子町はサンプル数が2、睦沢町はサンプル数が0のため分析対象外とする。





Q32. 村の行政サービスの取組みに対して、ご意見・ご提案などがありましたら、ご記入ください。(任意回答・自由記述)

寄せられた意見を、総合計画の基本目標と経営方針に関連付けて記載する。

基本目標 1 : 産業が活性化し、活力に満ちたにぎわいのある村
<p>・医療過疎と言われる長生地域に総合病院の誘致をお願いしたい ・村議会議員の数の削減 (人口減少に伴うスリム化) ・街づくり (道の駅開設で地産地消) 例①長生きそばを村のブランド化にする (乾麺までの全行程を村独自で行う。雇用の促進も図れる ②少子化で廃校になる校舎を道の駅開設で活性化</p>
<p>・地域外と比較して対応が遅いが丁寧である。・茂原市でのロケの誘地 etc、「市」の名を全国に出しての取組は素晴らしい。「長生 (ながいき)」という今の時代求められている事名を、上手形で広めて頂きたい。(悪評でアピールされては、出身地を、かくす事としている)</p>
<p>・買い物タクシーの運行。年令で分けずに利用したい人が利用できるシステム作り ・尼ヶ台公園の隣に村の道の駅出店希望。特産品のそば食堂、野菜等の販売、りんご箱の大きさにオーナー制 (有料) 手作り品、本、などを入れ販売。買わなくても人が集える場所になれるのかな? 交流できる場所作り</p>
<p>給食センターの最善の活用方法はなにかを良く考えて欲しい もっと入口を入を取り込むには、どうしたら良いかをきちんと考えて欲しい ネガティブではなく、ポジティブに!!</p>
<p>公共事業だけではない教育と福祉、さらに農業を推進する、長生村ならではの施策をたててもらいたい。</p>
<p>行政サービスも税収ありきです。限界があるので程良くお願いします。民間企業と行政とでマッチングすれば「道の駅」や「ナイター付サッカー場」など作れます。がんばりましょう。</p>
<p>高齢者は車の運転ができない人が多く、病院. 買い物に苦労している人が多いと思います。村としてタクシーを初めてみてはいかがでしょうか? 村民限定で安くやってみては? 雇用も増えるし。</p>
<p>・医療過疎と言われる長生地域に総合病院の誘致をお願いしたい ・村議会議員の数の削減 (人口減少に伴うスリム化) ・街づくり (道の駅開設で地産地消) 例①長生きそばを村のブランド化にする (乾麺までの全行程を村独自で行う。雇用の促進も図れる ②少子化で廃校になる校舎を道の駅開設で活性化</p>
<p>・地域外と比較して対応が遅いが丁寧である。・茂原市でのロケの誘地 etc、「市」の名を全国に出しての取組は素晴らしい。「長生 (ながいき)」という今の時代求められている事名を、上手形で広めて頂きたい。(悪評でアピールされては、出身地を、かくす事としている)</p>
<p>・買い物タクシーの運行。年令で分けずに利用したい人が利用できるシステム作り ・尼ヶ台公園の隣に村の道の駅出店希望。特産品のそば食堂、野菜等の販売、りんご箱の大きさにオーナー制 (有料) 手作り品、本、などを入れ販売。買わなくても人が集える場所になれるのかな? 交流できる場所作り</p>
<p>給食センターの最善の活用方法はなにかを良く考えて欲しい もっと入口を入を取り込むには、どうしたら良いかをきちんと考えて欲しい ネガティブではなく、ポジティブに!!</p>

基本目標 1 : 産業が活性化し、活力に満ちたにぎわいのある村
<p>小学校へ通うのも、高校に進学するのも親の（又は身内）サポートがないと難しい。村内巡回バスや、交通の便が良くなること、また、高齢者増加に伴うコンビニ（昔のような商店）があると良い。また、何か緊急な事態が起こっても大丈夫のように、将来の食と雇用を守るために農業への支援（農家が安定して暮らせるよう）が重要だと思います。</p>
<p>新住民を増やす事の考えがたりない 交流センターの赤ちゃん用の英語などはすばらしいし、他の地域からくる人達が多い。一方で、こども園の考えがまだ都会のような知育に力を入れるべき（私立）型。小学校や中学校では先生ではなく、運動やその他の経験者を多くとり入れクラブ活動に力を入れる必要がある。</p>
<p>人口増加の大きい地域と友好都市になってもらう努力をするとか、その地域がどのような事をしているか調査する等、外からの移住促進への政策に力を入れてもらいたい。人口はこのままだと少なくなるばかりかと。環境やいろいろな事が違っていますが、参考になる事もあるのでと思います</p>
<p>村だけでなく長生郡市として一体的な取り組みが必要だと思う。</p>
<p>村をよくしたいと行政が行っているものが、よく見えない。尼ヶ台公園の活用、イベント、道の駅も今後、考えてみてはどうかと思う。睦沢町の、道の駅の回りが活性化していることを考えると、地域的には平地が多いのに活用されていないと思う。若者にもっと元気に、なって新しい考えを出して欲しい。</p>
<p>独身の息子がおります。出会いの場があればなあと思ったり・・・です。今、2人を介護、もといハッピークリニックさん、プラスさん、かしまさん、茂原中央病院訪問看護さん、ケアマネジャー、訪問歯科千葉先生 千葉大病院、役場の福祉の方、みなさまに、お世話になります。ありがとうございます。</p>
<p>尼ヶ台公園をもっと活用してほしい。子供達の遊び場にもなっているし、良い公園なので商業的なものを取り入れてほしい 農産物の売り場もきれいで種類も多くして若い子育て層にもよるこんでもらえるような・・・。土・日などキッチンカーを置くなど楽しめる場所になったら良いと思います。</p>
<p>免許返納した場合 交通機関を利用したいのですが、バス停まで遠く村内の巡回バスや路線バスの拡張を希望したい。</p>
<p>予約なしで、料金も安く、他市に行くには、公共交通はJRしかなく、電車がとまった時は、タクシーもつかまらないので困ってしまいます。また、雪などの時は、自家用車でも外出困難になるので、路線バスが拡充していたら、ありがたいです。タクシー費を助成していただいているのは、ありがたいですが、利用回数が多い方にとっては、結構な負担額です。他市の巡回バス、路線バスと連結できる等、他市町村と連携が必要となると思いますので困難だとは思いますが、いずれは予約の必要のない、路線バス、巡回バス等を検討していただきたいと思います。</p>
<p>夏のお祭りがなくなり残念です</p>
<p>海岸道路を走っていても白子町と一宮町に比べて長生村だけ活気がない。人口増に向けた取り組みが何か必要な気がする。いすみ市大原町の大原漁港の朝市などは移住者に来てもらうために企画していると聞いた。</p>
<p>近隣の市町村に比べ、特色を活かせていないと感じる。一宮町はサーフィン、白子町はテニス・</p>

基本目標 1 : 産業が活性化し、活力に満ちたにぎわいのある村

玉ねぎ・河津桜・トマト、陸沢町は環境保全をテーマにした道の駅など特色を前面に出し、魅力を発信しているのに対し、長生村はいまひとつこれといった特色がない。集客できるイベント、村民が自慢できる特長を見出していく必要があると思う。

公共交通の不便さが若者の移住を妨げていると思います。八積駅でタクシーをつかまえるのも難しいですし、茂原や一宮からタクシーに乗るのは高すぎて若者には厳しいです。高齢者においても同じ事がいえると思います。又、子供のいる家庭と独身世帯への手当で等に差があるのは今後移住者を減らす理由にも成りえると考えます。街づくりには、人とお金が1番必要です。住民票を長生村に移す、本当の「移住者」が増える取り組みが必要と考えます。

高齢社会に伴う健康生活を維持する為の福祉の充実が必要なのでは。デジタル技術については、高齢者が増加するにあたり皆が対応出来るのかと良いと思いません。

村全体で見たらすたれている 多すぎて書ききれません。提案はたくさんありますが皆にききたい→「長生村といえば？」 何も出てきません。ただ車庫証明がないこと、それだけでは？考えるべきです。交通量など、店の数、有名をたくさんつくること！！

村全体を考えた都市計画、農業政策等がよく見えて来ない。特に八積駅周辺の整備等 建設省を介して将来の長生村の都市計画の進み方等をコンサルタントに依頼する事を進めます。

基本目標2：誰もが健やかに、生きがいをもって暮らせる村

「防災無線」の活用を！ 今、岩手県では山林火災で大変な状態で報道されています。先月 2/27 日に実際村内で乾燥、風あり、畑で枯れ草を燃やし広がって他に燃え移り消防車数台到着し鎮火、被害、家屋等なし 村のラインでは春の火災予防運動のお知らせがありますが、外で仕事をしている人には防災無線で放送していただけると耳に入りわかると思います。ご検討をお願いいたします。

・運転免許証の返納で交通手段が無くなった場合タクシー費用の助成や村内巡回バスの運行を願いたい。

・その他 村内人口の減少等で議員定数を小数化し財政の改善を図りたい。

・高齢化が進んでいるのであれば、お年寄りが家に籠らず、気軽に外出できるような施設や交通手段があると良いと思います。例えば、村のデイサービスのよう、体を動かせたり、お風呂に入れたり、サークル活動ができたり、静かに本や新聞が読めたり、おしゃべりができたり・・・お年寄りが気軽に行き過ぎておぼろげな施設があると、家に籠らないと思います。・お年寄りだけでなく、若者がずっと暮らせる、または一度出ても戻ってきたくなるような取組もほしいです。

・問 22-2 の 3. 村内の巡回バスはありと便利だと思う。大きめの乗用車を用意し、運転手も何人か雇うことも可能かと。・新聞をとっていない家庭、自治会に入らない家庭が多くなっていると思うので広報の配布場所を増やしてもいいと思う（学校・こども園・学童など） ・チャットでの窓口案内（LINE がいいと思う）。問い合わせができれば便利だと思う

スーパー 病院 公共施設等の巡回

まだ利用したことはないが移動販売は良いと思う

やくばでもタクシーがあればいいな一って思う あとは巡回バスとかあればいいなって！ 長生村に住んでずっと思う事は自転車だとあぶないし近くにタクシーとか巡回バスがあったら楽だと思います。

駅までの巡回バス

現在は自家用車メインで生活しているが近くにバス停留所があり不便はしていない” 不便している” 方との付き合いが無いので” との程度か” が分からない

交通手段の充実を希望ですが無理だと思うのでタクシー費用の助成をお願いします

高齢者が元気に暮らせる健康づくりや医療の充実を、願います！

今後高齢の方も増えるので、乗合タクシーを増やして、格安で買い物や通院に行けるようにしてほしい。

私は今、運転出来るので困ってはいません。働いていますが、休日には近所の方（80 才位）2 人と近くのスーパー等と一緒に買物に出向いています。でも、私の休日に用事が起きた時は前後の日で対応していますが、年配の方の助成を今以上に考えて頂きたいです。

自家用車がないと、不便だったりするのでタクシー事業の充実や巡回バスなど取り入れてほしいです。一宮方面や茂原方面にバスがあれば良いと思います。

車に乗れなくなった高齢者、又は障がい者に対して、個人で病院などへ行くタクシー費用の助成。又、食品スーパー、ホームセンターなどを巡る乗り合いタクシーなどがあれば良いと思います。又、実施出来るなら、村民にわかりやすいように知らせ、高齢者でも簡単に利用出来るようにして下さい。

基本目標2：誰もが健やかに、生きがいをもって暮らせる村
将来は無人巡回バスの運行 高齢者の老人福祉サービスの充実。自然災害時にすみやかに対応がとれるか（サービス以外に）
村内の巡回バスや、路線バスの拡充は、良いと思います。
誰でもが便利で、安く利用できる公共交通網を構築してなければならない
通勤通学の特に帰りの電車が茂原止まりか、快速で八積に止まらない場合がある。早朝の時間帯は、一宮駅や茂原駅から快速に乗る人も。茂原駅、八積駅、村役場を結ぶ公共交通ができると便利になる。
電柱とかに看板を設けることも1つの案かと思います。→住んでの方が見て利用できるかと・・・（高齢者）
免許返納までは困る事はないが返納後には困ると思う。村内巡回バスは小規模であっても必要だと考えます。
茂原駅から長生村の自宅までタクシーを利用すると 4000～5000 円かかります。しかし路線バスの本数が少なすぎるので、バスの本数を増やして欲しいのと営業時間を長くして欲しい。または村巡回バスがあるといいと思います。バスの停留所が 84 号線沿いだけなので、村巡回のバスがあれば移住者や家も増えるかと思っています。医療過疎地で医療は常に不満です。倒れたらどこに運ばれるのかと思います。常に対応していただける総合病院と連携をとっていただきたいと思っております。長生病院はすこぶる評判が悪く、長生病院の質をあげていただきたい。長生村は住みやすく歳を取ってからでも是非住み続けたいのですが、歳を取ると車も乗れなくなってくるし、交通、医療がネックとなっております。いつも村のためにご尽力いただき、感謝申し上げます。
夜、暗い道が多く、できれば歩道の無い道路の白線に光る塗料をつけていただきたい。無灯火の自転車や歩行者（黒い服の）等見えにくいので。30 年以上この地で暮らしています。子供達は村の中学校まで地域の友達と行き帰りを過越し、とても充実した生活をしていた様に思います。村の運動会等大変楽しい行事でした。現在村の中にどの様な産業があるのかすら目に見える田んぼ位しかわかりません。昔は酪農も多々あった様に思います。尼ヶ台公園の八百屋（直売所）が消え今後白子のひまわりの様な振わう道の駅とまではいかななくてもわくわく広場のような店があれば良いのにとったり。（ホームページで知らせていただけると・・・）今回このアンケートがきっかけでホームページを検索してみたところいろいろ知る事ができました。時々開いてみるようにしたいと思いました。あと、尼ヶ台公園にドッグランができると良いです。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会に向けて、病院、買物等日常的な交通便が無くなる為。（運転免許証返納になった場合） ・若者が出て行く為（都会へと村から出る為） ・タクシー代が高額で年金生活では大変
<ul style="list-style-type: none"> ・車で移動しているが、年をとったら車が乗れないので引越の予定、いつでも自由に乗れる巡回バスがあれば考える。 ・側溝の掃除や草刈りや側溝まわりの木の伐採など自治会のない場合、できないし共働きの多いため、休みの日はできないので行政でやってほしい 水害など対応してほしい。（側溝を勝手に埋めてる）

基本目標2：誰もが健やかに、生きがいをもって暮らせる村

Q30 で今は車を運転するので困っていないと回答も、何年か先には免許返納は不可避であり、そうなった場合、現状の公共交通では大いに不安がある（単身居住の為）。こういう「数年後」に対する設問、回答欄を設けないのは「長期計画」に関するアンケートとしては著しく不適切と思料します。「村の行政サービスの取組み」姿勢を反映する事例です。

バスを使うにもあまりにも本数が少ない。見直すべきだと思う。

現在、自動車がある為困っていないが、運転不可となった場合は非常に困ります。バス路線はなく、デマンドタクシーも現実的ではないと思います。巡回バスの充実くらいかと思います。

現在は、困っていないが将来に不安がある。

現在はまだ困っていないが、やがて免許返納し公共交通に頼ることになった時、困ることになるだろう その時何が必要か考えたい

現状はマイカーの利用が可能であるが、将来不可となった場合は、巡回バス又はデマンドタクシー等が必要となる。→施策の充実を図る必要がある。

国から支給される給付金が遅過ぎる。生活に困っている人達の事を、考えて欲しい。村民が豊かに暮らせるように考えて欲しい。

今はまだ車の運転が出来るが、そのうちに返納した時の生活に不安が。全国の試みを見て、良い策が出ることに期待しています。

今は車で移動出来ますが車が使えなくなったら問2の1か4を希望します

今現在は電車利用時、自家用車で当駅迄運動可能だが、後期高齢になると、車の運動をひかえる事が予想されるので村からのタクシー券を利用させてもらえる事ができるのか不安。タクシー券は何歳からがい当できるのか？

今後免許返納した際今のサービスでは如何なものか？ 体力低下せず子供達に迷惑、心配をかけず生活していける行政であって欲しいです 長生村に住み20年以上経ちますが強いて住み易い環境なのか？他市町村との比較もせず良い所も然程分からず・・・興味深い所もなく社交的でもないで、ご協力になれない結果となりすみません。

自治会に入っていないので民生委員の方もこない？と言われていますが・・・ 76才ですが一度もお会いしていません。ただいまのところ自分で（1人ぐらし）処理しています。

車の免許を返納すると通院、検診には行けない その都度家族に仕事を休んでもらうしかない少し具合が悪い位は様子を見て不担をかけないようにしている。社会参加はほとんど出来ない

助成のタクシー券は迎車料金が400円になったのでタクシー券を頂いているのですが近くの医院に行くにもお金がかかります

選挙などに行きたくても若くはないので遠くて行かない

村のサービスはあると思うが、まだ自分で運転しているので全く取組みを知らないのです。これから自分が運転できる事を考えると不安になるので村のサービスを知るようにして、それから自分にとってどうなのか考えたい。何か色々規定があるならなるべく簡単に利用したい。

津波が心配です。明確な指示がほしい。高齢になり交通が心配 生活も心配、地域のコミュニティが少ない

田舎な為、色々な面からの老後の不安が大きいです 自宅の敷地外の雑草や樹木の伐採など害虫や生き物対策として積極的にやっていただきますよう宜しくお願いします！

八積駅前のロータリーをもとに戻してほしい。

基本目標2：誰もが健やかに、生きがいをもって暮らせる村

不燃ゴミを回収して欲しい。ビンも回収して欲しい

利用の駅まで（八積 茂原 etc）などにバスを出してほしい。

基本目標3：みんなで次世代の夢を育む村

こども園乳幼児の受け入れ枠拡充。子育て支援とうたいながら、子供の預け先がなく社会復帰できない親がまだまだいます。

移住前に住んでいた地域の区立の幼稚園は1学年1クラス10名程度でした。入園申込者が、7名以下だと募集打切りでその学級は閉鎖になり、ちょうど4年前、区立2園が申込者が足りなく閉鎖寸前でした。私は、私立と区立の幼稚園と認定こども園で20園もあるし、500m歩けば他の幼稚園があるし、人数少なすぎて、保護者全員がPTA役員や係をしないといけないから、閉鎖には賛成でしたが…、地域の保護者が閉鎖させないよう署名運動をおこしていました。私も50名程の名前を記入し渡しました。結局、保育園に行く人に幼稚園の申込をしてもらい、申込者を7名以上にしたので、事なきを得たようですが。たった数名の入園者と保護者を守る為に、皆さんとても必死に署名活動していました。都会でも、それだけ地域の住民同士がつながりを持ち、協力し合っている事に驚きました。園も学校も統合するとの事ですが、もっと他の選択肢も検討するべきだと思います。そして、まずはメリット、デメリットを関係者はもちろん、近隣住民の方にも説明し、統合後の残った園や学校の活用方法など全て込みで検討すべきだと思います。

産科医の充実を図るためにお金をかけて村専用の産婦人科を作ったら若い世代が転入してくるのではないか

子育ての援助をしてほしい方と子育ての援助を行いたい方に（一般家庭）会員登録をし相互に援助活動の手助けを行う制度を設けたら ・対象者は生後6ヶ月以上、6年生まで ・保育施設等の開始、終了後の預かり ・保育施設への送迎等 事故等、色々と問題は多いと思われそうですが、女性が働きやすくなると思われそうです 手当も必要でしょうが！

若い人たちが住みやすい村にして頂きたい。子育てがしやすいように。老年ばかりでは活気がない。サーヒン目的で長生村に住んだ人を知っていますが住む場所がなく茂原方面に移住した人が2家族いた。

人口減少を食い止めるには若者が子育てしやすい環境を作ることが第一だと考えます。魅力的な就職先があることや子育て支援が充実しているとか治安がよく公園などで安心して子ども達を遊ばせることができることなど また、長生村の名の通り健康寿命が長い村作りのために、保健指導の充実は欠かせないものと考えます

睦沢町の道の駅のように、せつかく作った交流センターももっといろいろなことに活用したほうがいい。駅近くに建てたのだから、他からもこれるのを強みにして直売所を連結したり、レストランをやったらいいのと思う。村のたいようバスももっと活用しないと宝のもちぐされでは？バス旅行など企画したら面白いと思う。交通機関がないので、定期的に村からユニモや幕張などバスが出たら子ども達が親が仕事で出かけられないなどの不便な状況もなくなるし、満足度も上がると思う。

・病児保育の利用をする事が多く出費が多い。（ひどい時は2人一緒に数日間） ・資源ゴミを捨てる日を増やしてほしい

働き方改革で子供がスポーツ、部活をする機会が減り、活躍の場が減り悲しく思う

基本目標 4 : 豊かな自然に囲まれ、魅力にあふれた住みたくなる村
◎八積駅の跨線橋に屋根を設置することを JR と協議してほしい。(本納駅、上総一の宮駅) ◎カーブミラーの清掃と判りやすいミラーに工夫してほしい。
Suica のチャージ機械は、終電まで開けておいてほしい。
あまがだい公園にペットオッケーエリアが欲しい。 自然環境を増やして欲しい。
家探しの際、長生村の福祉サービスが魅力的で長生村で探していたのですが、家の数が少なくとても大変だったので、古民家？中古？物件等をもう少し探しやすくしてくれると嬉しいです。移住したくても住む家がなく茂原や白子に行く人もいるかなと思いました。
子どもの人口が減っていくのはもはや止めようがない。今や人間の子よりも犬猫のペットの数の多い時代なので村づくりも子どもと同様にペット、動物にやさしい村として村営のドッグランの設置や、しつけ教室の実施、ペットホテルやペットシッターなどのサービスの拡充、などを求めます。観光客もペット連れの家族が多くなれば、観光業にも良い影響があるので。移住者もペットと共生できる環境があることは魅力にうつるはずです。
住みたい街と言われる様な、皆があこがれる村にするにはどうするか考えてほしい。
体育館が無料で使えるようにしてほしい
尼が台総合公園をよく利用しますが、湿地植物や直売所のあたりは人の気配がなくさびれた感じがきになります。 貴重な鳥や植物をもっと魅力的に感じられるようになるとよいと思います。 直売所や公園内に利用者が利用できるカフェや売店があると嬉しい。
八積駅に北口ができたならさらに助かります。
八積駅まで自転車で行ってます。自転車置き場が整備されていて助かります。快速電車が、停まらない事が、非常に不便だと気づきました。(居住 2 年)
八積地区は電車やバスの公共交通がやや充実しているものの、一方で一松地区は駅まで出るのが不便である。茂原駅からの最終バスも 20 : 30 と早い時間になくなってしまいう状況で、非常に不便に感じている
・側溝の管理→定期清掃→雨水が流れない(道路に水があふれる)(逆流)
1. 生活環境の整備 : 下水道、ガス、生活道路の整備が他市町に比べ大巾に遅れている。優先事項で取組んでほしい。2. 福祉の面で、民生委員の活動が一般的に紹介されているが、私共の方では 80 才 (20 年間) を過ぎてても、一度の訪問もありません。体制を広報願いたく。3. 防災無線 (戸別の貸出し) を以前のように願いたい。現状の外部拡声器だけでは不十分。→ (屋内では聞こえない) 防災、防犯の面から重要です。
いつまで野焼きをするのですか？地面を強くする前に地球をまもる事の方が先ではないですか？燃えかすがベランダに大量にとんでもきます。野焼きは地球にも人間にも悪いのです。環境悪化で 2 人に 1 人がガンになると言われてもいます 雨もふらず寒波夏は猛暑で食物もできなくなってきています。住みやすい町作りも大切かもしれませんが環境をまもる事も人間が生きていく上で大切なのでは・・・ 空気がきれいなわけでもなければ水もおいしくない 働く場遊ぶ場もない魅力がない。老人になり車の運転ができなくなれば買物にも病院にも行きづらくなり住めなくなるため転居も考える様になりました デマンドや巡回バスに力を入れる様になると税金が上がるのはこまります 答えになっていなければすみません 不満を発信する場がないのでごめんなさい 別の場所から引越してきましたが一生ここでと思える場所ではないと実感しています。自分の足腰が弱くなったら住む場所ではありません

基本目標4：豊かな自然に囲まれ、魅力にあふれた住みたくなる村

空気が良く、海も有り理想の地でしたが今だに、野火、家の庭でのゴミを焼き長生村ではなく、ダイオキシンの村です。道路も車が通るとこわい感じ。下水道も不安に思います。

自宅の前の道が細く夜になると、真っ暗になり、街灯を、付けて下さいと、要望を出したのですが、いまだに付けてもらえないです。どうかすると夜中12時頃になると、スーツを着てアタッシュケースを持って歩いている人がいるので出来れば、早急に街灯を付けてもらいたいです。一松の東松館の脇道です。

物価高について、村の助成はどの様に考えているのか？ 尼ヶ台公園が出来た頃、水遊びが出来ていたのを再現して土日はミニ列車とか子供を安全に遊べる、場所、アイデア出し合公園作りをしてほしい。乗り物とか、少々お金をとって良いと思う。キッチンカーとか、村がうるおう方法。

経営方針：持続可能な行財政運営を行う村
オンライン申請、AI 活用等の DX 推進
・周辺市町を横にらみする行政ではなく、リスクを取って先進性を持った施策を希望します。失敗したら、やり直し、方向転換すれば良い。・行政サイドの人間が行政サービスを受けるとしたらどうしても欲しいかを考える姿勢が更に欲しい ・フリーライドは許さない姿勢を強く示して欲しい。例えば自治会活動、ボランティアで色々な行政サービスを若手中心に行っているが、自治会を抜ければ何もしなくて良いと思っている輩が少なくない。実際に退会者が多い。いずれ自治会はじめボランティア団体は存続不能となるでしょう。せめて自治会活動参加することのメリットがあればと思う。メリットがなければ自治会に加担していない世帯に対しての懲罰的ペナルティーを与えても良いと思う。但し、高齢者のみ、障害者のみ世帯（←等の所謂弱者）は除く。
・村の職員と住民とのコミュニケーションの充実をはかること。例として、各自治会の総会に村の職員が 1～2 名参加する
この様なアンケートの返信にポストの投函だけでなく役場の入口などにアンケートの回収箱を設置しても良いのではないのでしょうか いつも役場の横にあるポストに投函しているので、時間と郵便料金の無駄に感じます。
デジタル化は必須だと思いますが、高齢者でも対応出来るデジタル化にしないといけないと思います
議会議事録のアーカイブ化、可視化による議員の質の向上を図ってほしい。
行政サービスは人（職員）が行う 職員の資質向上が大事 よりよい行政サービスはそれに携る人が考えた方が良く 住民は勝手であり個人の差で受け方が違うから
住民から自治会を通してあげられた要望が、現在どのような扱いを受けているのか、将来的な実現の可能性はどうか（優先順位として何番目に位置しているのか）等を公表し、確認できるようなシステムを構築してほしい。
総合受付窓口がほしい。（あったら便利）あっちに行ったり来たりしないですむので、現在もあるかもしれないが、たよりないので。
村独自で出来る行政。村長独自で実行出来る行政が多くさん有るのを、他の市町村の様子を見てから、とか言っていますが、村独自で村民がお願いしている事案が実行する事をなぜしないか？ 長生村自ら率先してやると、他の市町村も行動を起こすことが大事なのです。
問 17 にも記載した通り、自治会活動にかかる負担をもう少し軽くしてほしいです。自治会そのものについてはとても大切なコミュニティ活動だと思っていますし、今後も頑張っていこうとは思いますが、高齢化、人数の減少等から、負担が増しておりこのままでは限界がきてしまうかもしれない、と不安です。美化（芝焼き、水路清掃等）作業の業者委託等、村側で出来ることは村で是非お願いしたいです。
①議会のはずかしいニュースが全国で流れないよう、地方自治体としての立法府に対し、行政府としての機能をはたしてもらいたい。②月 58100 円住民税を払っている。しかし住民サービスを全く感じない。いすみ市のように地域で使える金券を毎年配るなどしてもらいたい。ゴミ袋 10 枚配布ですまさないこと。ゴミ袋も高すぎる。住民税とっているなら安くしていただきたい。

アンケートのデジタル化をもっと真剣に行ったほうがいいと思います。入力中に元へ戻り最初からの打ち込みになり、紙での回答へかえました。時間を無駄にしました。
給食センター廃止すべき。
子育て支援、高齢者支援は充実してきたが、税金を一番収めている働いている世代の支援が乏しい。非課税世帯への給付金など支援も充実しており理解はできるが働いている世代を食い物としているように感じてしまう。若年層の非課税世帯を少なくするような支援・政策が必要であると思う。私は30代であるがこれからは年金も貰えない世代であり将来が不安でしょうがない。村でできることは限られているが、どうか私のような働いている世代に対してもスポットライトをあてて欲しい。
新聞で長生村の財政が5年以内に苦しくなる。と村長のコメントを見た。財政破綻したら役場の職員は給料の減額、村民は行政サービスや支援の質が落ちる。給食センター建設を進めて大丈夫か？ 財政破綻をしてる自治体が現実にある中で自分達も危ない！と思って今のうちから対策や、財政破綻しないように取り組んでいく事が大事だと思う。人事ではありません 役場の職員の方々は責任が重いと思う。頑張ってください。
窓口に行った時とても感じよく対応くださる方と自席から「何しに来たの？」というような表情をする方がまだいらっしゃるという声を聞きます 住民が行きやすい接客マナー、電話対応が周知されることを望みます
村のサービスは聞こえがいいだけ 数人にかためになっているだけ 村の財政でやるのはおかし。住民は皆自分でがんばれと思う。苦勞する事で喜びがある物 お金の問題じゃない たずさわっている人だけがうれしいだけ
村の議員が多すぎる 減らすべきである 税金のムダ
調整給付金などの申請は、国が電子申請を促しているが村は紙の申請で非常に残念な思いがありました。村で独自のサービスをやる前に、国で進めているサービスを実施することが最優先ではないでしょうか。マンパワーが足りない時代になっているので、村が独自に行っているサービスは取りやめて、余った人員を使って国として取り組むべきことを優先して実施してほしいです。
問 21 にも書かせていただいたが、生徒数が減少しているのに、給食センターを計画しているところ（詳しくはよく分からない）、人の目に入るという理由で交流センターを波の形にしたところ、など税金をムダにしているんじゃないかと思えることが多くみえる。村長の名誉のために、ムダ使いをするような考えをお持ちなら、もう一度考えなおした方がいいかと思う。
問 22. について①ですが 現在、80代の一人暮らしです。まだ、車を使用していますが、後、何年かしたら、それも、出来なくなります。そうなった場合には、やはり（デマンドタクシー）とか個人で利用するタクシー費用の助成が、ほしいなあ、と思うばかりです。よろしく願致します。

6. 調査票

第6次長生村総合計画中期・後期基本計画等 策定のためのアンケート調査ご協力をお願い

村民のみなさまには、平素から村政の運営につきまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

村では、2021年度(令和3年度)から2035年度(令和17年度)までの15年間の計画期間とする総合計画「長生村第6次総合計画」を策定し、各種施策・事業の展開を図っております。

この計画は、社会情勢の変化等を的確に反映するために5年ごとに見直しを行います。現在は前期計画期間であり、2026年(令和8年度)以降は中期・後期計画を策定します。

つきましては、長生村をより良いまちにするため、アンケートにて村民のみなさまの村政に対するお考えを伺い、今後の計画策定に反映してまいります。

アンケートは長生村にお住まいの18歳以上の方の中から無作為に抽出した1,000人のみなさまにお願いするものです。集計結果は、統計的に処理し公表させていただく予定ですので、個人が特定されることはありません。ぜひ、みなさまの率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和7年2月 長生村長 小高陽一

ご記入にあたってのお願い

○ご記入にあたっては、封書の宛名の方がお答えください。ただし、ご本人のご回答が難しい場合は、ご家族の方がお答えいただいても結構です。

○「その他」や記述の項目では、所定の欄に数字や具体的な内容を記入してください。

回答期限・返送方法

郵送でのご回答

○回答の記入は、直接このアンケート調査票にボールペンや濃い鉛筆でしっかりとご記入願います。

○ご記入いただいた調査票は、3月14日(金)までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください(切手は不要です)。

インターネットでのご回答

○下記URLまたは右のQRコードにアクセスしてご回答下さい。

URL⇒ <https://> _____

○3月14日(金)までにご回答ください。

QR
コード

【お問合せ先】 長生村役場 企画財政課

〒299-4394 千葉県長生郡長生村本郷 1-77 TEL: 0475-32-4743 (直通)